

Osaka Medical College Faculty of Nursing

大阪医科大学看護学部

Osaka Medical College Graduate School of Nursing

大阪医科大学大学院看護学研究科

年報 2020年度

Annual Report 2020

はじめに

I.	沿革	2
II.	看護学部	
1.	教員組織	
1)	教員構成および教員数	4
2)	教員の補充について	5
2.	年間事業	
1)	年間事業活動内容	6
2)	2020 年度看護学部予算執行額	8
3)	学生在籍数	8
4)	学事一覧	9
3.	運営と教育活動	
1)	運営組織	11
2)	センター	
(1)	看護学実践研究センター	12
(2)	看護学教育センター	18
(3)	看護学学生生活支援センター	25
3)	委員会	
(1)	カリキュラム委員会	32
(2)	カリキュラム評価委員会	34
(3)	実習委員会	36
(4)	ウェブサイト委員会	39
(5)	看護研究雑誌編集委員会	40
(6)	予算委員会	41
(7)	物品管理委員会	42
(8)	就職支援委員会	44
(9)	国家試験対策委員会	46
(10)	看護学部年報編集委員会	50
(11)	看護学部広報委員会	51
(12)	教員再任審査準備委員会	52
(13)	本学部看護学生を対象とする研究審査会	53
(14)	障がい学生支援委員会	54
(15)	将来構想ワーキング	55
(16)	看護学分野別評価ワーキング	56
(17)	看護学部受託・共同研究審査会	57
4)	教育活動	
(1)	授業科目一覧	58
(2)	各領域の教育活動	61

III. 看護学研究科	
1. 教員組織	
1) 教員構成および教員数	72
2. 年間事業	
1) 年間事業活動内容	72
2) 2020 年度看護学研究科予算執行額	73
3) 学生在籍数	74
4) 学事一覧	75
3. 運営と教育活動	
1) 運営組織	77
2) 委員会	
(1) 看護学研究科大学院委員会	78
(2) 看護学研究科カリキュラム委員会	84
(3) 看護学研究科カリキュラム評価委員会	86
3) 教育活動	
(1) 博士前期課程	
①授業科目一覧	88
②修了者学位論文タイトル一覧	92
(2) 博士後期課程	
①授業科目一覧	93
②修了者学位論文タイトル一覧	93
IV. 研究活動	
1. 研究実績	
1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況	96
2) 各自の業績（外部資金獲得除く）	97
V. 社会活動	116
VI. 地域・社会貢献	124
VII. その他	126

はじめに

2020年度、看護学部は87名の卒業生を輩出し、総数690名となり、大学院では博士前期課程7名、博士後期課程5名の修了生を輩出し、総数で前者38名、後者24名となった。看護学部の活動は2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の影響に終始した1年であった。そうした中でも大学基準協会大学評価受審と大阪薬科大学と統合する大阪医科薬科大学の準備が主となった。

また、2020年度は大学基準協会大学評価の年でもあった。本学看護学部が開設してから初めて受審することになり、医学部とともに委員会を発足し、点検・評価を行ってきた。その結果、高い評価を得たが看護学研究科の収容定員高率について改善の指摘を受けた。これは今後の改善課題として取り組み予定である。これを踏まえて受審後1年で看護学教育分野別評価を受ける予定にしているため、今回の受審準備の経験が次に生かせるものとする。

大阪医科大学と大阪薬科大学との統合に向けて、こちらも委員会を発足し、取り組んでいる。看護学部は開設以来、医看融合カリキュラムを取り入れ、医学部とともに講義や演習、実習を行ってきた。薬学部が入ることで、より広い視野から学生たちは刺激を受けると考える。医学、薬学、看護学と3つの医療学部をもつことになることから、多職種連携をキーワードにカリキュラムから実習まで、特徴ある取り組みに向けて順調に準備が進んでいる。

また、2022年度に向けて新カリキュラムの検討を本格的にする必要があり、そのために将来構想の検討にも取り組んだ。これからの社会の変革に対応できる人材を養成するために本学看護学部としてユニークで他に類をみない新カリキュラムが構築することを目標に取り組む所存である。

最後に、昨年から続いている新型コロナウイルス感染症は、今年に入っても収束していないが、ワクチン接種も始まり、アフターコロナの様式について考えていく必要がある。今回の出来事は近い将来に起こりうるAIやWebなどを活用した大学教育の先走りをもたらしたともいえる。従来の対面講義にすべて戻るのではなく、今回経験したリモート講義などの内容を活かし、よりよい大学教育となるように教職員一同研鑽していきたいと考える。

看護学部長
看護学研究科長
赤澤 千春

I. 沿革

沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設

Ⅱ. 看護学部

1. 看護学部教員組織

1) 教員構成および教員数

教員定員は 41 名である。

令和 3 年 3 月 31 日現在

【看護系教員】

領域	教員構成 (カッコ内は定員数)				
	教授	准教授	講師	助教	合計
基礎看護学	1 (1)	1 (2)	2 (0)	1 (2)	5 (5)
急性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
慢性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
精神看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
老年看護学	0 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)
小児看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
母性看護学・助産学 (コース選択 6 名)	1 (1)	0 (3)	1 (0)	1 (1)	3 (5)
在宅看護学	1 (1)	0 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)
公衆衛生看護学 (コース選択 40 名)	1 (1)	2 (3)	0 (0)	2 (1)	5 (5)
看護実践発展	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)
計	10 (11)	9 (15)	5 (0)	11 (11)	35 (37)

【医学系・人文社会系教員】

領域	教員構成 (カッコ内は定員数)				
	教授	准教授	講師	助教	合計
公衆衛生学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
内科学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
整形外科学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
哲学	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
総計	3 (4)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)

令和 2 年度の教員の異動は下記の通りである。

【採用】

令和 2 年 4 月 1 日付で、教授 3 名（基礎看護学，小児看護学，急性期成人看護学）を採用した。

令和 2 年 4 月 1 日付で、助教 3 名（基礎看護学，急性期成人看護学，老年看護学）を採用した。

【退職】

令和 2 年 3 月 31 日付で、教授 3 名（基礎看護学，精神看護学，小児看護学）が退職した。

令和 2 年 3 月 31 日付で、助教 1 名（基礎看護学）が退職した。

令和 2 年 9 月 30 日付で、講師 1 名（母性看護学・助産学）が退職した。

【非常勤教員の採用】

令和2年4月1日付で、1名（急性期成人看護学）を採用した。

令和2年12月1日付で、1名（母性看護学・助産学）を採用した。

【実習補助員の採用】

老年看護学（1名）、慢性期成人看護学（1名）、母性看護学・助産学（1名）、在宅看護学（1名）の各実習期間内で不定期雇用した。

2) 教員の補充について

教員の欠員に対しては、教授または助教を採用した。

教員の定員数が充足している領域においても、必要に応じて各領域で実習補助員を雇用した。

2. 年間事業

1) 年間事業活動内容

【看護学部】

看護学部では表に示すように各センターや委員会が年間計画を立案し、教育および研究の向上を目指し事業を実施している。2020年度に実施した主な事業を報告する。

1. 教育活動について

教育活動に関しては、2019年12月に中国から発生した新型コロナウイルス感染症の流行により、通常の講義形式を大幅に変更せざるを得ない状況となった1年であった。4月からオンデマンド形式、リモート形式、教室を分けての対面形式、登校と自宅とのハイブリット形式を、新型肺炎新型コロナウイルス感染症の流行に応じて講義形式を選択して対応してきた。臨地実習は他の看護系大学では約82%が通常とは異なる実習にならざるを得なかった（日本看護系大学協議会報告, 2021）という中で幸いにも附属病院の協力のもと対面で行うことができた。これは学生に感染者やクラスターの発生もなかったことも、通常の実習が実施でき要因でもあると考える。学生内で感染者が出ないように看護学学生生活センターが日常生活の過ごし方から大学内での座席位置、朝食の取り方まで細心の注意を払った成果でもある。

今年はFD活動や教育講演の企画などの研修はZoomを用いてとなった。学生の海外研修も派遣も受け入れも中止となった。研究実践センターはそうした中でミネソタ大学マンケート校とWebでグループ討議に参加し、世界10か国との学生ミーティングへの準備を始めることとなった。

学生への対応では、2018年度より実習委員会と学生生活支援センターが主となり、障がいのある学生に対する実習中の合理的配慮に基づいた対応を行っており、2020年度も特に問題なく終了するに至った。この支援を希望する学生は年々増えており、実習のみならず他の講義演習でもこのような支援が必要となってきており、具体的な支援の拡大の検討する必要がある。

入試制度に関して、2020年度の入試から特別奨学金貸与推薦入試制度（専願制）を廃止し、様々な潜在的能力を有し、入学後の学修に対する強い意欲を持つ学生（社会人を経て学び直しを志す者、地域医療に貢献したい者、科学や芸術などで優れた能力を持つ者などの多様な人材）を育成するために総合型選抜入試（AO入試）である「建学の精神入試」（専願制）を導入した。2021年度は授業料の施設費を免除することにしたことにより受験生は29名の応募があり、論文試験、面接を経て3名の合格となった。

2) 研究活動について

文部科学省科学研究費に関しては、多くの教員が申請し、保持率は50%を超えている。

文部科学省平成29年度『私立大学研究ブランディング事業』が採択され、「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の事業が終了したが看護学部も参画している健康啓蒙活動として「camukamuサロン」を継続している。ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症によって開催できなかった。ただ、開催についての問い合わせはあり、市民が楽しみにしてくれていることが分かったので今後も継続していくこととしている。

3) 社会貢献について

看護学部の事業としては、看護学実践研究センターが主となり、例年市民看護講座、人材育成

講座を開催している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった。感染状況が治まれば開催の予定である。各教員の活動および詳細は、それぞれが報告している。

4) 管理・運営全般

(1) 教員の質担保について

教員各自の意自己点検と年報による業績報告によって自己評価を行っている。

(2) カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会について

詳細は委員会報告で述べている。また、2022年度に向けての新カリキュラムの骨格が厚生労働省から出され、それに合わせて、本学部も将来構想ワーキングを設け、将来の本看護学部の教育の姿勢について検討し、カリキュラム委員会はそれを受けて新カリキュラム作成を行った。さらに、看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするためのカリキュラム評価委員会は外部委員を入れて初めての評価を行った。詳細は委員会報告で述べている。このようにカリキュラムについてのPDCAサイクルが実行される体制が整っている。

(3) 教育環境整備

今年度は新型コロナウイルス感染症によりオンデマンド、リモートの活用が必要となり、それらが行える授業支援システムが導入された。

(4) 看護学分野別評価

2022年度の分野別認証の受審に向けてワーキングを立ちあげ、検討している。また、2020年度は大阪医科大学としての機関別認証の受審の年であり、受審結果は高い評価をいただくことができた。

2) 2020 年度看護学部予算執行額

予算執行額 59,587,645 円

【内訳】

看護学部教育経費 41,581,595 円

看護学部奨学金経費 18,000,000 円

看護学部研究活動経費 6,050 円

3) 学生在籍数

①看護学部

2020 年 5 月 1 日現在

学年 (入学定員)	1 年 (85)	2 年 (85)	3 年 (85)	4 年 (85)	合計 (340)
男	1	3	3	2	9
女	88	82	82	87	339
計	89	85	85	89	348

※2020.5 以降 2 名退学者有 2021.3 現在

3 年生 女 81 名, 4 年生 女 86 名

4) 学事一覧

看護学部 2020年度学事一覧

2020.1.28
基礎Ⅱオリエンテーション日程変更、基礎Ⅰ日程変更、基礎Ⅰ日程変更、4年進試期間変更
看護学実習オリエンテーション日程変更、看護学実習日程変更

令和2年度学事予定表 教職員用 vol.5

日	曜	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	内容
1	水	オリエンテーション	金④	創立記念日	水①	水①①	公立記念日	公立記念日	公立記念日	公立記念日	公立記念日
2	木	看護学部臨時教授会 14~	火⑧	看護学部臨時教授会(予定)	木②	木②②	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)
3	金	入学式	水⑦	看護学部臨時教授会(予定)	金③	金③③	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)	看護学部臨時教授会(予定)
4	土		木⑨		土	土					
5	日		金⑨		日	日					
6	月	前期授業開始	水⑤	水⑤	月⑩	月⑩	多職種統合(連携)ゼミ	多職種統合(連携)ゼミ	多職種統合(連携)ゼミ	多職種統合(連携)ゼミ	多職種統合(連携)ゼミ
7	火		木⑥		火	火③					
8	水	看護学部教授会 15~	金⑤		水	水②	看護学部教授会 15~				
9	木		土	健康診断: 3年 13~	木	木⑥	看護学部教授会 15~				
10	金		日		水	水⑧	看護学部教授会 15~				
11	土	健康診断: 4年 13~	月	月⑤	木	木⑩					
12	日		火	火⑤	金	金⑩					
13	月		水	水④	水	水④	看護学部教授会 15~				
14	火		木	木⑥	土	土					
15	水	看護学部臨時教授会 15~	金	金⑥	日	日					
16	木	新入生学外合宿	土	健康診断: 1年 13~	火	火⑩	看護学部臨時教授会 15~				
17	金	新入生学外合宿	日		水	水⑨	看護学部臨時教授会 15~				
18	土		月	月⑥	木	木⑪					
19	日		火	火⑥	金	金⑪					
20	月		水	水⑤	土	土	看護学部臨時教授会 15~				
21	火		木	木⑦	日	日					
22	水	看護学部臨時教授会 15~	金	金⑦	月	月⑩	看護学部臨時教授会 15~				
23	木		土		火	火⑪					
24	金		日		水	水⑩	看護学部臨時教授会 15~				
25	土	健康診断: 2年 13~	月	月⑦	木	木⑫					
26	日		火	火⑦	金	金⑫					
27	月		水	水⑥	土	土	看護学部臨時教授会 15~				
28	火		木	木⑧	日	日					
29	水	昭和の日	金	金⑧	月	月⑪	看護学部臨時教授会 15~				
30	木		土		火	火⑫					
31	日		日		水	水⑬					

※ 看護学実習は各領域で6月~11月までに実施予定

※ 試験期間確保のため、7/28までのどこかに時間差を組み入れる必要あり

令和2年度学事予定表 教職員用 vol.5

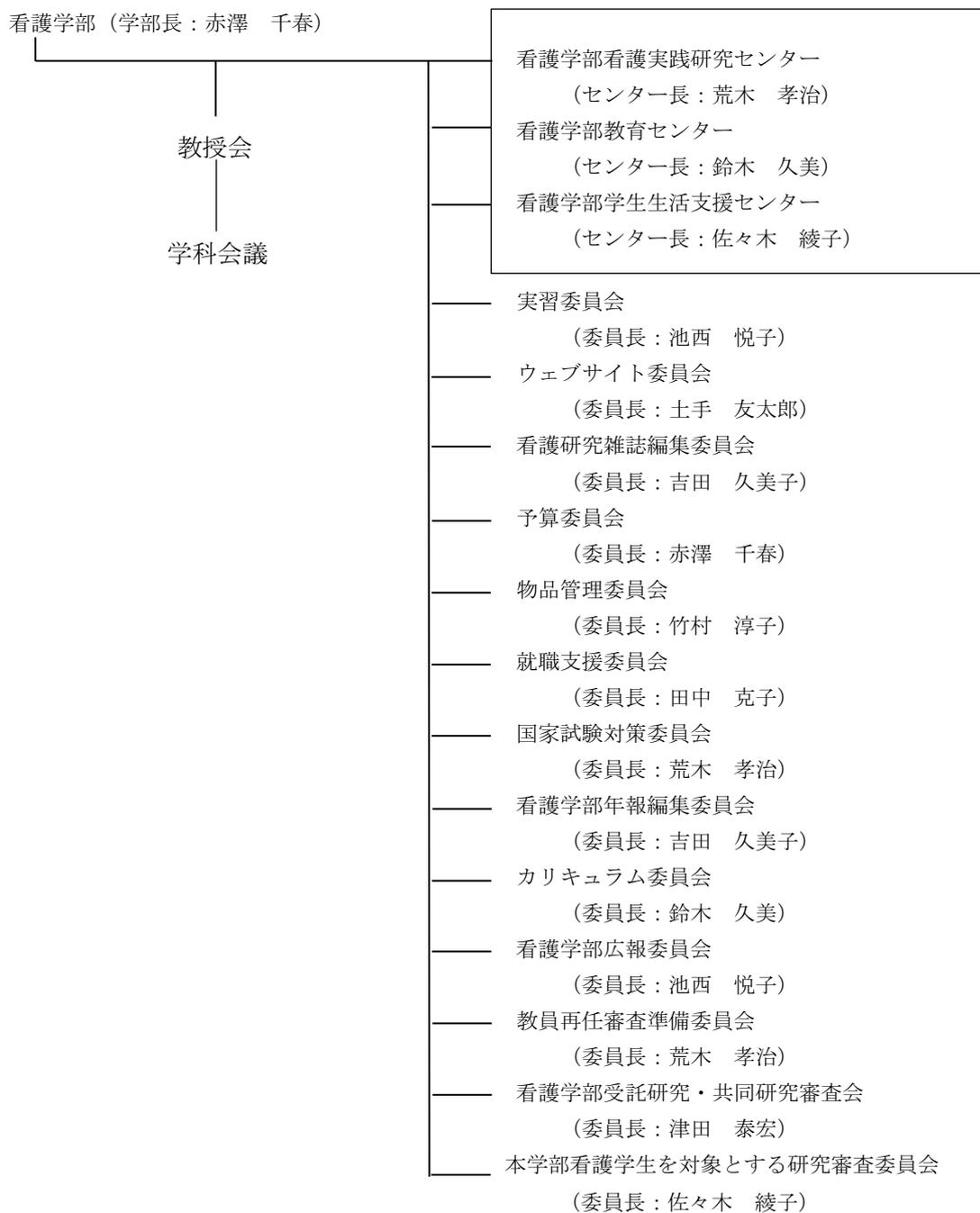
2020.1.28
基礎Ⅱオリエンテーション日程変更、基礎Ⅰ日程変更、基礎Ⅰ年通年試験期間変更
看護専攻履修要項オリエンテーション日程変更、助産学実習日程変更

日	曜	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	木	木① 1・4年後期授業開始 看護学実習 保健学実習	日	火⑧	金① 元日	火	火 次年度履修要項ガイダンス(新4年)9～業 看護学実習 保健学実習
2	金	金①	月⑤	水⑨	土	水	火 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
3	土		火 文化の日	木⑩	日	水	水 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
4	日		水 水⑤	金⑩	月⑪ 4年履修要項 ×モ：シラバス入力開始	木	木 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
5	月		木 水⑥	土	火 火⑫	金	金 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
6	火		金 金⑥	日	水 水⑬ 看護学部教授会15:00～ 卒業発表 14:00～ 4年成績開示 履修要項開始	土	土 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
7	水		土	月 月⑨	火 火⑭	日	日 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
8	木		日	火 火⑮	水 水⑯ 看護学部教授会15～	月	月 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
9	金		月 月⑥	水 水⑰	木 木⑱	火	火 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
10	土		火 火⑱	木 木⑲	金 金⑲	水	水 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
11	日		水 水⑲ 看護学部教授会15～	金 金⑲	土	木	木 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
12	月		木 水⑲	土	日	金	金 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
13	火		金 金⑲	日	月 月⑩	土	土 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
14	水		土	火 火⑲	水 水⑲ 学科会議16:30～	日	日 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
15	木		日	水 水⑲	木 木⑲	月	月 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
16	金		月 月⑦	木 木⑲	金 金⑲	火	火 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
17	土		火 火⑲	水 水⑲	土	水	水 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
18	日		水 水⑲ 学科会議16:30～	木 木⑲	日	木	木 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
19	月		木 水⑲	金 金⑲	月 月⑩	金	金 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
20	火		金 金⑲	土	火 火⑲	土	土 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
21	水		土	日 月⑩	水 水⑲	日	日 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
22	木		日	火 火⑲	木 木⑲	月	月 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
23	金		月 勤労感謝の日	水 水⑲ 看護学研究科教授会15～	金 金⑲	火	火 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
24	土		火 火⑲	木 木⑲	土	水	水 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
25	日		水 水⑲ 看護学研究科教授会15～	金 金⑲	日	木	木 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
26	月		木 水⑲	土	月 月⑩	金	金 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
27	火		金 金⑲	日	火 火⑲	土	土 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
28	水		土	月 月⑩	水 水⑲ 看護学研究科教授会15～	日	日 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
29	木		日	火 火⑲	木 木⑲	月	月 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
30	金		月 月⑧	水 水⑲	金 金⑲	火	火 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習
31	土		火 火⑲	木 木⑲	土	水	水 看護学部教授会15～ 看護学実習 保健学実習

備考:基礎看護学実習Ⅰについては10月8日～12月10日の期間、毎週木曜日に行う

3. 運営組織

1) 運営組織（センターおよび委員会組織図）



2) センター

センター名	(1) 看護学実践研究センター
目的	本センターは本学部内、大学内をはじめ、外部機関および地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	荒木孝治（センター長）、竹村淳子（副センター長）、草野恵美子、寺口佐興子、竹明美、樋上容子、柴田佳純、山内彩香、山本暁生、藤井智子（学部長室付事務）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際交流に関する基盤整備 2) 看護学部学生対象英会話教室の実施 3) ミネソタ州立大学マンケート校との学生派遣・受け入れに関する検討 4) 台北医学大学の研修生の受入れと研修への学生の派遣に関する検討 5) ミネソタ州立大学マンケート校主管のオンライン国際交流学习プログラム（Web International Module）導入に向けた準備 6) 国際交流 FD 研修の実施（協力：中山国際医学医療交流センター） 7) 国際オンライン講演会の開催（共催：看護学部「精神看護学援助論」・大学院委員会 FD 研修） 2. 生涯学習・研修支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 附属病院看護研修セミナーへの協力 2) 人材育成教育セミナーの開催 3) 市民看護講座の開催 4) 高槻フェスタへの協力 3. 研究支援・情報発信 <ol style="list-style-type: none"> 1) カムカムサロンの開催 2) 看護研究学会の開催 3) 研究ポスター掲示 4) 英語版パンフレットの作成 5) ホームページの更新
活動概要	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症流行により大きく計画変更を余儀なくされた。今年度の活動概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流の促進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際交流に関する基盤整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際交流活動全体統括・体系図の整理 <p>看護学部における国際交流活動の全体統括を行った。今年度は特に新型コロナウイルス感染症流行の影響に伴い、改めて活動全体の整理を行い、体系図を作成し、FD 等にて学部全体で共有した。</p> <ol style="list-style-type: none"> (2) 学部生を対象とした国際交流に対するニーズ調査 <p>2020 年 7 月に看護学部の学生を対象に国際交流&英会話に関するアンケート調査を実施した。回答者 113 名の内、オンライン英会話教室の参加希望は 2 割で</p>

あった。参加を希望しない理由としては、「履修科目をこなすので精一杯」「時間的に余裕がない」という意見があった。英会話教室で学びたいことは、8割が「日常英会話」「異文化交流」と回答した。本学の海外派遣プログラムへの参加は2割が希望し、オンライン国際交流への参加は4割弱が希望した。大学に希望するサポートは、半数が「外国人との交流の機会」、4割が「奨学金制度の充実」「留学しやすいカリキュラム編成」と回答した。

(3) オンライン化に向けた環境整備

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、海外派遣や協定校からの派遣学生受け入れができない状況が続く。新たな国際交流の形を検討する中で、オンライン化にむけた環境整備が必須となった。協定校とのオンライン交流プログラム等に関する打ち合わせ等に使用するため、ビデオ会議用マイクスピーカー1台を購入し、看護学実践研究センターの備品として整備した。

(4) 補助金獲得に向けた検討

大学および看護学部のめざすグローバル化促進のための1つの方策としての補助金獲得について検討を行った。今年度は新型コロナウイルス感染症流行のため、具体的な計画策定には至らなかったが、今後の可能性として、留学生受け入れによる補助金獲得や「さくらサイエンスプラン」による海外の研究者との交流が考えられ、大学院委員会との連携の必要性が挙げられた。

(5) 中山国際医学医療交流センターとの連携強化

国際交流の土壌づくりを重点課題とした今年度の活動において、中山国際医学医療交流センターとの連携をさらに強化することを目標の1つとし、FD研修での協力を仰ぐとともに、大学統合に向けた新たな全学共通の国際交流プログラムについても細やかな情報交換を行った。

2) 看護学部学生対象英会話教室の実施 (PA 会予算)

2020年7月に実施した国際交流&英会話に関するアンケート調査で、オンライン英会話教室の参加希望が2割であったこと、4割の学生が「履修科目をこなすので精一杯」「時間的に余裕がない」と回答していたこと、また、新型コロナウイルスの感染拡大状況も鑑み、今年度はオンラインによる英会話教室を土曜日に開催することとした。2020年9月から2021年2月までの期間に合計10回(各回60分)実施した。オンラインでの実施に伴い事前申し込み制にしたが、参加学生は4名と少なかった。しかし、ネイティブの英会話講師による丁寧で親しみやすい教授により、終了後のアンケート調査では、参加学生全員が「とても満足した」「英語でのコミュニケーションの楽しさを感じることができた」と回答した。2021年2月のPA会役員会にて今後の英会話教室の開催時間の検討、評価方法の精査について要望があった。

3) 教員の国際共同研究支援

看護学部教員の国際共同研究の推進をはかることを目的として、国際共同研究の情報提供や橋渡しに関する指針の整備を行った。また、看護学部教員に対して、

ミネソタ州立大学マンケート校 (Minnesota State University Mankato : 以下 MUSM) からの 9 件の国際共同研究の紹介を行った。

4) MSUM との学生派遣・受け入れに関する検討 (オンライン会議含む)

2020 年度の MSUM への派遣は, COVID-19 流行のため 5 月に中止と決定された。

2021 年度派遣に向けて, 計 5 回のオンライン会議等で準備を進めた。2021 年度派遣は, 学生同士の交流をより活発にするために 2 週間派遣プログラムに変更することとなった。これに伴い, 2 週間の派遣が可能な派遣時期として, これまでの 8 月から 3 月に変更し, 2022 年 3 月 14-25 日に決定した (COVID-19 流行に伴う派遣可否の判定時期: 2021 年 9 月末)。2 週間プログラムの詳細については, MSUM のインバウンド担当者を含めたオンライン会議で検討中であり, 2021 年 5 月に決定する予定である。

また, MSUM からの学生の受け入れについては, MSUM のアウトバウンド担当者を含めたオンライン会議で検討し, 受け入れ時期としては 2022 年夏以降で, 台北医学大学と同時期の 7 月で検討を進めている。

5) 台北医学大学の研修生の受入れと研修への学生の派遣に関する検討

新型コロナウイルス感染拡大予防のため, 前期に台北医学大学の学生受け入れの中止が決定し, 後期に本学学生の派遣も中止が決定した。次年度前期の受け入れまで中止が決定している。

6) MSUM 主管のオンライン国際交流学習プログラム (Web International Module) 導入に向けた準備

MSUM の de Ruiter 教授より, MSUM が主管で実施しているイギリス, オランダ, ベルギー, デンマーク, 南アフリカ等の国々とのオンライン国際交流学習プログラムへの参画の打診を受け, 2021 年度からの導入に向けた整備を行った。

情報収集のため, MSUM との計 5 回のオンライン会議を行うと共に, 本プログラムのオンライン教員会議に参加し, 本プログラムの内容や参加学生らの学びについて情報収集した。また, 英語版シラバスを日本語に翻訳し詳細な内容を検討し, 2021 年度からの導入に向けた学生の募集要項を作成した。また, 看護学部教員への周知を図るために国際交流 FD にて本プログラムの説明を実施し (事項参照), 円滑な運用のために中山国際医学医療交流センターとの役割の明確化の調整を行った。

7) 国際交流 FD 研修の実施 (協力: 中山国際医学医療交流センター)

国際交流に関する土壌づくり活動の 1 つとして, 看護学部教員を対象に国際交流 FD 研修を実施した。

日時: 2020 年 10 月 7 日 (水) 16:00-17:00

参加者: 看護学部教員 36 名

FD 研修の内容は, 講師に中山国際医学医療交流センターの副センター長である近藤恵先生を迎えて, 「本学の国際化に向けた取り組みについて」をテーマに講演を行った。他に実践研究センターの国際交流に関する方針説明, 2021 年度より

参加予定の Web International Module についての説明を行った。事後アンケートでは、回答者のほぼ全員が大学の国際化への取り組みについて理解をしており、オンラインを活用した国際交流プログラムへの期待を示していた。

8) 国際オンライン講演会の開催（共催：看護学部「精神看護学援助論」・大学院委員会 FD 研修）

国際交流に関する土壌づくり活動の 1 つとして、看護学部生、大学院生および教員を対象に国際オンライン講演会を実施した。

日時：2020 年 12 月 21 日（月）9：00-10:30

参加者：看護学部生、大学院生、教員

講師には、米国で Nursing Practitioner として活躍する儀宝 由希子先生を迎えて「飛び立て看護の卵・海外で活躍する看護職より」をテーマに講演を行ってもらった。事後アンケートでは、回答者の全員が講演に満足しており、9 割以上が国際交流に対して興味をもつようになっていた。本講演会は、精神看護学領域、大学院委員会と共催することができ、幅広い対象に周知することができた。

9) 国際交流プログラムの単位化

協定校への派遣プログラムおよび 2021 年度より実施予定のオンライン国際交流学習プログラム（WIM）について、2022 年 4 月入学生から対象の新カリキュラムにおける単位化を検討し、「国際交流演習」として導入予定である。

2. 生涯学習・研修支援・研究支援・情報発信

1) 生涯学習・研修支援・研究支援

予定していた活動は、生涯学習・研修支援として附属病院看護研修セミナー、市民公開講座、人材育成教育セミナー、高槻フェスタへの参加の 4 項目と研究支援・情報発信としてカムカムサロンの開催、看護研究会、研究ポスター掲示、英語版パンフレット作成、HP 更新の 5 項目であった。しかし、今年度は covid-19 感染拡大の影響により、ほとんどの活動が中止となった。そのため、「生涯学習・研修支援」「研究支援・情報発信」の役割分担の枠を超えて可能な活動を探る取り組みを行った。

検討した内容としては、感染対策のため催事の規模縮小をはかり、カムカムサロンと市民公開講座合同で 10 月 10 日に青空健康フェスタを企画した。しかし、緊急事態宣言発出のため開催中止とした。高槻フェスタへの参加も予定していたが、COVID-19 感染拡大の影響により中止となった。カムカムサロンは、ブランディング事業であった取り組みを今年度から本センターが引き継ぐ形となった。しかし、対面での開催は実施できなかった。昨年の参加者からは開催の要望が複数寄せられていたため、ステイホームでできる体操の紹介を盛り込んだお便りを送付した。お便りを受け取った人から感謝の返信もあった。人材育成教育セミナーについても COVID-19 感染拡大により開催できなかったが、看護研究会の講演会を合同企画として開催した。講演は、鯨岡 峻先生を講師としてお招きし、「コロナ禍の今だからこそ必要になる心の問題に定位した質的研究の構築～理論から

	<p>実践へ～」をテーマに開催した。今年度の開催は、昨年度予定していた講演を実現する形となった。開催方法は対面と Zoom でのライブ配信を組み合わせる方式で行った。参加者は合計 80 人（対面 31 人，Zoom 49 人）であった。その後行ったアンケートでは 34 人から回答を得られた。参加者からの意見は研究方法に興味をもつ等好評であり満足度が高かった。看護研究会の発表は、本年度においては感染対策と参加形式により口頭発表のみとした。Zoom を含んだ 4 題の発表がありいずれもスムーズに進行することができた。看護研究会においては、毎年卒業生となる学生への入会案内を実施しているが、対面での説明が困難であったため、学部生には 2 月 15 日にユニパにて案内文を発信し、大学院生には修了式時に配布した。</p> <p>2) 情報発信</p> <p>活動項目は、英語版パンフレットにおける 3 学部共通パンフレットの看護学部部分の作成，看護実践研究センター分の作成，HP の更新である。大学統合にともない，3 学部合同の英語パンフレットを作成されることとなり，看護学部の HP・英語版パンフレットより内容を抜粋して中山センターに報告した。また，英語版パンフレットの本センター作成分として，本学看護学部および看護学研究科の教育目標や教育内容の特徴，および教員の研究テーマなどを含んだ英語版パンフレットを英語版 HP の更新に合わせて内容を更新し，WIM の提携校に送付した。</p> <p>HP の更新については，看護実践研究センターの実施した活動について活動後にニュースを更新し情報発信を行った。</p>
<p>評価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 国際交流活動においては，国際交流活動に関する体系図を整理し，目標の整理や評価方法の設定等を行い，効果的な実施・評価体制を整備することができ，また中山国際医学医療交流センターとの連携強化も促進することができた。また国際交流に関するオンラインプログラムの実施に向けた整備ができ，感染症流行時にも実施できる国際交流活動を構築することができた。さらに学生が多く時間を費やし，貴重な学びを得ることができる国際交流プログラムを単位化する準備ができた。</p> <p>2) 3 学部合同国際交流用パンフレットの作成により，医療系総合大学としての本校の特色を全般的に周知できる。また，学部のみならず大学院の機構改変を反映した情報を発信することができた。WIM の提携校に送付することで，幅広い対象に本学部の教育や教員の研究活動について情報発信できた。</p> <p>3) HP を定期的に更新しセンターの活動を掲載したため，外部に向けてタイムリーに情報発信することができた。</p> <p>2. 改善すべき事項（国際交流関連）</p> <p>1) 国際交流活動において，PA 会に援助頂いている英会話教室は，コロナ禍の中，オンラインの形をとり，参加した学生にとっては有意義かつ満足度の高いものとなったが，参加者が少ないことが課題である。次年度にむけて学生へのアン</p>

	<p>ケート結果を踏まえつつ、参加しやすい実施方法・プログラム内容を検討している。また、国際交流プログラムを単位化する準備はできたが、今後は評価方法の整備など詳細の検討が必要である。また、単位互換については看護学部ではまだ実施できていないため、その検討が必要と考えられる。さらに、補助金獲得に向けた留学生受け入れや国際共同研究推進のための研究者との交流体制の整備についても課題であり、大学院委員会との協働が必要である。学生の国際交流への興味・関心を高める土壌づくりは継続的な課題である。</p> <p>2) 生涯学習・研修支援・研究支援については、依頼先の意向との調整が必要となるが、開催目的・ニーズと感染拡大に伴う別の案の提示がさらに必要となる。</p>
<p>将来に向けた 発展方策 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流に関する看護学部の現状を踏まえ、意識を含む基盤づくりを重点課題としてプログラムを検討するとともに、補助金獲得に向けた留学生受け入れや国際共同研究推進のための研究者との交流体制構築に向けて、看護学部内関係部署との調整および全学的部署との連携をさらに強めていく必要がある。 2. 附属病院開催の市民公開講座と内容の差別化をはかること、感染状況に応じて対面以外の情報発信方法を検討する。 3. 英語版パンフレットについては、中山国際医学医療交流センターと連携し、看護学部・看護学研究科の教育・研究内容や国際交流活動について継続的に情報を発信する体制を整えていく。また、看護学部独自の英語版パンフレットの作成は3学部共通パンフレットと内容が重複するため、次年度より中止が決定した。 4. 対面でのカムカムサロンの実施を中止し郵送でのコラムを配布した際に、電話での問い合わせやお便りがあるなど看護学部での企画に関心がある方たちが一定数おられることが改めてわかった。今後は、地域住民との関わりを学部教育の場に還元する1つとして、地域住民と学生たちを育てていく「模擬患者さん」としての仕組みづくりの具現化を検討していく。

センター名	(2) 看護学教育センター
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画，教育環境整備，医看融合教育，授業評価，FD (Faculty Development) 等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする。
構成員	鈴木久美 (センター長)，池西悦子 (副センター長)，吉田久美子，瓜崎貴雄，カルデナス暁東，久保田正和，小林道太郎，川北敬美，佐野かおり，宮川幸代 (9月まで)，川端由夏，中野恵梨子，高橋七枝 (看護学事務課)
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程全般の運営 2. 教育センター担当科目の運営 3. FD 企画と実施 4. 多職種連携教育の運営と充実 5. 授業評価と改善 6. 実習ポートフォリオの実施 7. 実習に関する事項 8. 教育環境整備の充実 9. 新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の導入と整備 10. その他
活動概要	<p>教育センター会議は全 18 回 (臨時含む) 開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程全般の運営 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学事日程および時間割の調整 <p>2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が数回にわたり発出されたため，コロナ感染症に対する文科省の通達および本学の基本方針に基づき，学生の安全と学修の質保証の確保の観点から，前期と後期の授業内容・方法等について看護学部の授業方針を策定し，時間割調整を行いつつ，学生および常勤教員，非常勤・兼任教員に適宜周知した。2021 年度も新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えないため，2020 年度と同様に学生の安全と学修の質保証の確保の観点から，文科省の通達および本学の基本方針に基づき前期授業の方針を策定し，学事日程および時間割の作成を行い，学生，常勤教員，非常勤・兼任教員に周知した。</p> 2) ベストティーチャー賞の選出 <p>ベストティーチャーの規定に沿い，各学年から 1 名の教員の選抜を行った。</p> 3) 期末試験および不正行為への対応 <p>前期および後期の試験監督補助要請を行い，各教室 2 名試験監督を配置し試験を実施した。しかし，後期期末試験期間中に不正行為を行った学生がいたため，その対応を学生生活支援センターとともにを行った。そして，「授業・試験等の不正行為後の対応マニュアル」を作成した。また，後期試験において追試験対象者が多く，その理由が追試験に該当しない者もいたため，「追試験に関する申し合わせ事項」を作成した。これらの対応マニュアルと申し合わせは，3 月の教授会で審議したのち学科会議で教員に周知した。</p>

4) GPA の分析と平準化

2019 年度および 2020 年度前期の成績について IR 室に分析を依頼し、解析結果をアセスメントポリシーに沿って PDCA シートにまとめ、教授会や教育戦略会議で共有した。科目間の評価の平準化をめざし、IR 室と連携をして各学年の GPA や各科目の箱ひげ図を作成し、教授会で共有した。また、再試験の多い科目について科目責任者に振り返りを依頼し、授業改善につなげた。

5) 成績、進級、卒業判定と成績不良者への学生指導

学生の成績、進級、卒業判定は各要件に基づき教授会で審議し適正に行った。また、GPA が 2.0 (望ましい水準) 未満の学生に対し、チューター教員等による学修指導を依頼・実施し、取り組みによって学生の改善がみられたか評価した。

6) 履修のてびきの見直しと作成

2021 年度より本学と大阪薬科大学が統合すること、2022 年度に看護学教育評価を受審することを鑑みて履修のてびきを見直し、「看護学部教育目的」「教育課程編成の考え方」「カリキュラムマップ」「学年別目標」「忌引きによる欠席」「実習ポートフォリオ」を追加し、各学年のガイダンス時に学生に周知した。

7) シラバス作成要項の修正とシラバス点検の実施

シラバス要領を見直し、それに基づいて次年度のシラバス作成を教員に依頼し、作成されたシラバスについて記載内容が適正であるかといった観点からセンター教員によるシラバス点検を実施した。

8) 各学年のオリエンテーション・ガイダンスの実施

各学年で次年度の履修ガイダンスを企画し、大学統合について、教育目標や 3 ポリシー、学事日程、各学年での履修科目および単位取得に関すること、学年別目標などについて説明した。また、懲戒規程を再確認した。

9) 授業見学の推進

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンデマンド授業やオンライン授業、ハイブリッド授業の導入により授業見学の推進は行わなかった。

10) 規程類の見直しと作成

大学統合に向けて規程類の見直しを行い、「看護学部ファカルティ・ディベロップメント運営要領」の新規作成、「自己学習のための実習室・セルフトレーニングコーナーの使用について」の修正を行った。

2. 教育センター担当科目の運営と実施

1) 卒業演習に関すること

(1) 卒業演習の発表会の運営・実施

新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、Zoom 聴講、領域内対面実施から全面 Zoom 運営に変更し実施した。事前調査で 1 名のみ自宅通信環境の関係上、自宅からの Zoom 参加ができないため来学し会場にて発表を行った。講義室 4・5 の音声環境の不備があり、初日のみ一部急遽講堂へ変更するといった対応を行った。発表者の操作説明に時間を要する PC 設置の段階でスライド投影不可、カメラ機能の不

備等があったが、いずれも開始までに代替 PC を活用し報告会開始に支障はなかった。

(2) 卒業演習要項の作成と領域決定

卒業演習要項を作成し、卒業演習オリエンテーション時に配布した。新型コロナ感染拡大状況から学内での領域決定が困難となることを想定し、オリエンテーションを Zoom と講堂（対面）で行い、事前にターニングポイント接続確認を行った上で、領域決定のデモンストレーションを行った。領域決定は、講堂で行い、3名の欠席者については教員が代理で領域決定作業を行った。ターニングポイント不具合がみられたが全学生の領域決定は行えた。

2) 兼任教員科目の見学実習への対応

- ・今年度は新型コロナ感染症の影響で解剖学実習と地域救命救急に関する施設見学は実施されなかった。

3) 保健師科目・助産師科目への対応

保健師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては、学事予定表を踏まえたスケジュールを立て実施し、スケジュールに沿って実施し、33名を選抜した。また、助産師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては、学事予定表を踏まえたスケジュールを立て実施し、スケジュールに沿って実施し、6名を選抜した。

3. FD 企画と実施

1) 全教員対象の FD 企画と実施

①遠隔授業にむけた Web システム活用について

新型コロナ感染拡大に伴い、非常事態宣言が発令され大学の授業は、遠隔授業となった。そのため遠隔地授業実施に備えて、看護学部における前期授業の方針と遠隔授業の方針、教員がその方法を学び、実践する上での注意事項を学ぶ目的で4月24日と4月27日の2回に分けて実施した。

②教育の質向上のためのティーチング・ポートフォリオ簡易版の作成

前年度3月から延期になっていたティーチング・ポートフォリオ簡易版の作成を Zoom にて企画し、3月17日（水）に大阪府立大学工業高等専門学校教授である北野健一先生による「教育の質向上のためのティーチング・ポートフォリオ簡易版の作成（実践編2）」というテーマで行った。参加者は7名であった。

2) 新人教員対象の FD 企画と実施

看護学教員歴2年未満の教員5名を対象に、3月24日（水）に「看護学教育者としての資質」「臨地実習における学習支援力」「教育全般を見渡す力」について振り返り、自己の課題を明確にすることを目的に教育の質向上にむけた教育活動の振り返りを行った。

4. 多職種連携教育の運営と充実

1) 多職種連携教育科目への対応

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面講義を中止し、オンライン授業あるいはハイブリッド式講義へ変更した。「医療人マインド」のGW（MLによ

る)のファシリテーター担当, レポート評価を担当した。「専門職連携医療論」「医看融合ゼミ」の運営企画, コーディネット, GW (Zoom による) のファシリテーター担当, レポート評価を担当した。「医看融合カンファレンス」については, 新たに追加した 2 領域を含め, 1 月に中間評価と, 2 月末にまとめと評価を行い, 多職種融合 (連携) カリキュラム小委員会で報告・検討した。「地域医療実習」は, 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け, 中止となった。

2) 多職種連携カリキュラム小委員会への参加

新型コロナウイルス感染拡大による講義の形式が大きく変更した。委員会に出席し, 特に学生の授業評価, 委員会での振り返りをもとに評価し, 次年度の運営方法, GW の方法などについて考案した。

5. 授業評価・改善

1) 学生の授業評価

実施要領に基づいてユニパを用いた評価を行った。前期前半や実習時は評価することを失念しやすいため, その都度担当から教員全体メールで学生への促しを依頼した。2020 年度は新型コロナの影響により授業形態が大きく変わったため, 自由記述欄にてオンライン講義に対する学生の意見を募り, 「肯定的」「否定的」「学年別」の意見に分けてまとめた。

2) 教員の授業改善

2020 年度も引き続き授業 (実習) 改善報告書を作成し, 学生に公開した。後期は授業と実習で評価が出される時期が異なるため, 今後は実習評価がだされ次第すぐに実習評価改善報告書を作成し, 授業評価改善と合わせて学生に公開する方針である。

6. 実習ポートフォリオの実施

記入率の向上を目的として, ①実習ポートフォリオの記入時期 (4 年生は統合看護学実習終了時, 3 年生は看護実践と理論の週, 2 年生は基礎看護学実習Ⅱ終了時) にユニパで記入の促しを行う, ②実習ポートフォリオのオリエンテーション動画を moodle にアップし, いつでも視聴できるようにする, といった取り組みを行った。学生と教員を対象に, 実習ポートフォリオに関するアンケートを行った。

7. 実習に関する事項

新型コロナウイルス感染拡大に伴い, 実習計画に変更が生じた場合に, 実習目的達成と学生間の実習内容に差が生じないように対応することを目的に, 実習の考え方 (単位の考え方, 代替方法, 運営上の留意点等), 実習受け入れ・調整状況, 感染症への対応について実習委員会と情報共有・連携をはかった。4 月: 4 年次看護学実習の受け入れ・調整状況, および看護学実習に関する考え方の共有, 5 月: 実習における感染症対策の共有, 6 月: 3 年次看護学実習の受け入れ・調整状況の共有, 9 月: 後期授業の方針で実習の考え方を提示した。

8. 教育環境整備の充実

セルフトレーニングコーナーの活用を目的とし、領域別実習前の8月と基礎実習終了後の2月に勉強会を実施した。8月は51名、2月は13名の参加があった。参加者は自己の学習課題に沿い、モデル等を活用していた。フィジカルアセスメントの学習課題においては、科目を担当する教員の応援を得て実施した。実習室・セルフトレーニングコーナーの使用法に一部齟齬があったため、共通した運営方針を作成した。

9. 新型コロナウイルスに伴うオンライン授業の導入と整備

- 1) 事前課題：緊急事態宣言を受けて、4月の授業は行わず各科目の事前課題を課した。4月10日に学部教員の協力を得て、課題等印刷物の発送作業を行った。
- 2) オンライン授業準備：5月は原則 moodle 上のオンデマンド授業とした。マニュアルを作成し、4月24日・27日に教員向けFDで授業方針と moodle 利用方法を説明した。学生のPC環境の調査を行い、一部学生に大学PCを貸与した。4月28日・30日に学生対象のWebEX接続・動作テストを行った。
- 3) 対面授業再開：6月より一部対面授業を再開した。2つの講義室を使って授業ができるよう、講義室3から1、講義室4から5へ映像と音声の中継されるようにし、6月2日に教員向け説明会を行った。7月からは全学年（1-3年生）対面授業を実施した。前期終了後、前期科目の授業評価からオンライン授業に関連する学生のコメントを抜粋し、教員に共有した。
- 4) 後期授業準備：後期は、各学年の半分は対面、半分はZoomのハイブリッド授業とした。WebEXの法人契約が切れるため、看護学部用のZoomアカウントを購入した。マニュアルを作成し、9月14日に教員対象説明会を実施した。学生（1・2年生）には後期授業説明時にマニュアル配布と説明を行い、9月29日に希望者対象Zoom接続テストを行った。
- 5) 後期授業トラブル対応：ハイブリッド授業ではPC・音声・映像等の不具合が多発したため、都度それらに対応するとともに、学生・教員に緊急アンケート（10月13日まで）を行い、不具合の内容や要望を調査した。その結果等も踏まえ、10月14日教授会に報告して時間割変更等の対策を行った。

10. その他

1) 私立大学等改革総合支援事業への対応（タイプ1）

タイプ1の獲得をめざし、看護学部で必要な要件が整っているか確認した。

2) 大学基準協会大学評価受審への対応

今年度は大学評価受審をしたため、実地調査に向けた質問への対応や報告書の修正、実地調査に参加した。

3) 大学統合に関する分科会および全体会議への参加

教育センターとして2021年度の大学統合に向けての分科会および全体会議に参加し、その準備を行った。

	<p>4) 2022 年度看護学教育評価受審に向けた対応</p> <p>看護学教育評価受審に向けて評価基準に沿って自己点検・評価を行い、課題の明確化を行った。そして、課題の改善のための対応を実施した。</p>
<p>評価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 教育課程全般に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症拡大のため緊急事態宣言が発出され、4 月から大学への登校ができない状況であったが、文科省の通達と本学の基本方針を基に「学生の安全確保と学修の質保証」の観点から前期および後期の授業に関する方針を状況に合わせて策定し、学生、教員、非常勤教員に周知した。大きな混乱もなく、また平常時と学生の成績は殆ど変わることなく学修の質担保につながった。 ・例年 2 年次の学年 GPA 値が 2.4 前後に低下するが、今年度の 2 年次 GPA 約 2.7 と他学年と同じレベルに維持できた。また、2 年次の GPA2.0 未満の学生が少なくなり、成績の平準化につながっている。 ・大学統合および看護学教育評価受審に向けて、履修のてびきや規程を見直し、課題の明確化につながり課題となっていた事項を改善できた。 ・遠隔授業にむけた Web システムの FD では、1 回目の参加者 35 名（内訳：学内 26 名、Zoom 9 名）と 2 回目の参加者 7 名（学内 3 名、Web 4 名）であった。初めての遠隔事業の取り組みとなり、積極的な質問等があがった。この FD により、5 月から遠隔授業にスムーズに取り組むことができた。 <p>2) 実習ポートフォリオに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業（実習）評価についてはその都度促しを行うことで高い回答率を維持できている（前期科目 61.1%，後期科目 68.3%）。授業改善報告書は 2018 年度に開始後、今年度で 3 年目となり年度別で改善点の推移が見やすくなっている。 ・実習ポートフォリオの実施については、学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を概ね達成できている、と評価していたこともあり、次年度は 1 年次の基礎看護学実習 I においても実習ポートフォリオを使用する。 <p>3) オンライン授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部はこれまでオンライン授業を実施しておらず、利用したシステム（moodle, WebEX, Zoom）の準備も直前になったため、オンライン授業（オンデマンドやハイブリッド等）の対応が難しかったが、説明会の実施や教員・学生の努力により、また不具合等には都度対応することにより、全体としてはおおむね必要な授業内容を実施することができた。 ・前後期を通じた授業方法の整備と教員・学生の経験の蓄積により、次年度以降必要な場合はよりスムーズにオンライン授業に対応できるものと期待される。 <p>4) FD について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティーチング・ポートフォリオ FD では、アンケートの結果、今後の教育を考えていくために十分よい機会になった・よい機会になったが 7 名（100%）であった。自らの教育理念を明確化する機会となり、今後キャリアアップするとき

	<p>に使いたいと、参加者の TS 版を共有できたことは、今後の活動の参考になるといった意見がきかれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人対象 FD では、アンケートの結果、研修の必要性は大いに感じる・やや感じるであった。研修時間については、適切であった。研修内容は役立つと回答された。 <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 教育課程全般に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験時は不正行為防止のためのマニュアルに従って対策を行っていたが、後期期末試験期間中に不正行為が発生した。そのため、不正行為後の対応マニュアルを作成し、教員に周知した。各学年のガイダンス時に懲戒規程を毎年説明し、不正行為防止のための対策をはかる必要がある。 <p>2) 授業評価・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業（実習）評価について、今年度は新型コロナの影響により実際の授業形態と合致しない評価項目があった。今年度は自由記述欄に記入するよう促したが、今後多様な授業形態が増えることも予想されるため、評価項目を再検討する必要がある。 ・卒業演習の授業評価の実施をする必要がある。 <p>3) 教育環境整備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護基本技術経験チェックリスト」の記入率が低く、アンケートでは、実習ポートフォリオを活用した学習状況の把握に課題があり、「負担」との意見もあったため、次年度は「看護基本技術経験チェックリスト」を3年生は2回（実習の中間と全実習終了時）、4年生は1回（全実習終了時）の使用へと変更する。 ・セルフトレーニングコーナーの充実を図る。 ・講義室の接続システムの不安定さに由来すると思われる授業時の不具合（ハイブリッド時や2講義室利用時）は完全には解決されていないため、できるだけ早期に改善が必要である。
<p>将来に向けた 発展方策 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3つのポリシーに基づくアセスメントの概要、各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿った各委員会と連携 2. GPA2～0 未満の学生への学修指導の強化および GPA の分析と平準化の促進 3. 2021年4月の大学統合による多職種連携教育の推進と他学部との連携 4. 教育環境整備の充実 5. 2022年度看護学教育評価受審に向けた対応 6. タイプ1関連事項の推進 7. ティーチング・ポートフォリオの研修について定例化し、中堅層もふくめた教育活動についての大学全体でサポートする体制づくり

センター名	(3) 看護学学生生活支援センター
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供をめざし、学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応をはかり修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	佐々木綾子（センター長）、津田泰宏、府川晃子、土肥美子、大橋尚弘、山埜ふみ恵、倉橋理香
活動計画	<p>2020 年度の年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総代・副総代との連絡会 2. (チューター制度) チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り（継続） 3. (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施 4. (奨学金) 特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正 5. (健康管理) 保健管理室との連携の一層の緊密化（継続） 6. (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇談会の実施 7. (学生自治) 学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援 8. (新入生学外合宿) 薬学部との合同参加への取り組み 9. ホームページの内容の充実 10. 学習環境の整備 11. 正課外活動ポートフォリオの充実 12. 医学部との連絡会議 13. 感染予防対策 14. その他（学外研修会、障がい学生関連、懲戒規程関連、学籍移動、学生生活ガイド修正、大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価）
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総代・副総代との連絡会 <ol style="list-style-type: none"> 1) COVID-19感染症対策のため、新年度の総代・副総代は後期に入り決定した。 2) 総代連絡会については、今 COVID-19 感染症対策により今年度は活動していないため開催できなかった。 2. (チューター制度) チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り（継続） <ol style="list-style-type: none"> 1) チューターグループの編成：教員 2-3 名のグループにより、1-3 学年の学生 16-17 名を担当した。感染予防の観点から登校が制限されていた時期も含め、各チューターグループの判断でユニパやメールでの連絡、Zoom 等を用いた Web 面談なども活用し、学生との連絡を取り合った。4 年生は例年の通り、卒業演習担当教員とした。 2) 1-3 年生のチューター教員の組み合わせは下記の通りとした。 <p>表 1. 2020 年度チューターグループ（1～3 年生担当）</p>

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	久保田, 川北, 柴田	6	安田, 宮川, 柚木	11	佐々木, 山埜
2	田中, 竹, 倉橋	7	竹村, 山本	12	鈴木, 仲下, 二宮
3	宮島, 樋上, 大橋	8	津田, 近澤	13	山崎, 土肥
4	荒木, 佐野	9	小林, 府川, 赤崎	14	真継, 土井
5	土手, 寺口	10	吉田, 山内	15	池西, 瓜崎
				16	カルデナス, 草野, 勝山

3) 1年生オリエンテーション時の顔合わせ実施： 5月18日(月), 25日(月)の2回に分けて実施した1回生オリエンテーションの際, チューター担当教員との顔合わせの時間を設け, チューター教員やチューターグループメンバー間との自己紹介, 簡単な相談などのやり取りができる機会を設定した. また, Zoom参加の学生もスムーズにやり取りできるよう調整を行った.

4) チューター活動評価: 1年間のチューター活動に関する評価のため, 教員を対象としたアンケートを実施した. 本年度は特に前期の登校制限下でのチューター学生とのやり取りについて, 後期の健康観察票・行動記録票の確認を含めた学生との面談や相談の内容について確認した.

5) 現在「チューター制度に関する指針」の見直しを行い, ハラスメントの予防や学生・チューター教員への負担軽減ができるよう, 学生への適切な指導方法について検討した. 次年度用にチューター面談シートを作成した.

3. (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し, 実施・調査内容の見直し, 実施した.

4. (奨学金) 特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正希望学生に対する, 募集説明会, 選考, 手続きを行った. 内容は以下の通りであった.

- 2020年度各種奨学金
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への経済的支援対策(公的支援策, 本学独自の支援策)
- 勤労学生援助会2020年度 勤労学生援助会 表彰学生
- 日本私立看護系大学協会「新型コロナウイルス感染症禍に伴う学生支援給付金」
- あしなが育英会「あしなが奨学会」
- 特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準は修正せず使用した.

5. (健康管理) 保健管理室との連携の一層の緊密化(継続)

- 保健管理室, 実習委員会と連携して4種感染症, B型肝炎ウイルス, インフルエンザワクチンの期限内接種を促した.
- 看護学部学生の保健管理室の年間の利用状況は年間で23件, 休養室および保健管理室のベッド使用は年間で5件であった. 体調不良の学生の把握, 状況確認および必要に応じて受診勧奨を行った.

	<p>3) COVID-19 感染症に対する対策として、健康観察票・行動記録票を配布し、発熱等の有症状の学生の把握と対応を行った。</p> <p>6. (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見箱：月 1 回の開箱とした。今年度の投書は 1 件であった。 ・学生懇談会：本年度は感染予防の観点から集合での懇談会は控え、各学年の総代・副総代を通じて意見を集約した。 <p>7. (学生自治) 学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援</p> <p>1) COVID-19 感染症対策のため、学生自治支援、謝恩会は開催されなかった。</p> <p>2) 1 年生学友会役員選考のための支援を行った。</p> <p>8. (新入生学外合宿) 薬学部との合同参加への取り組み</p> <p>2020 年度の学外合宿は感染予防の観点から中止となった。2021 年度の代替プログラムに向け、オンライン開催や一部オンラインでの実施に向けて計画案を立案した。2021 年度より薬学部の新入生も交えての実施となることを踏まえ、引き続き準備を進めている。</p> <p>9. ホームページの内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを改変した。 <p>10. 学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非接触型体温計を設置した。 ・COVID-19 対策として教室の定員数を半数、使用する机と椅子を固定してそれ以外の座席には使用禁止の掲示を行った。 ・情報処理室の使用は予約制とし、共用するキーボードやマウスは各自で使用後にアルコール消毒を行うことを義務付けた。教室以外の感染対策に関しては感染予防対策のところに記載した。 <p>11. 正課外活動ポートフォリオの充実</p> <p>前期、後期に同ポートフォリオへの入力を学生にアナウンスした。今年度は新型コロナウイルス感染拡大によるクラブ活動などの自粛により、学生が例年のように正課外活動をできない状況にあった。そのため、ポートフォリオの内容評価が困難であるため、次年度に行うこととした。</p> <p>12. 医学部との連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部との連絡会議に出席した。 <p>13. 感染予防対策</p> <p>1) 健康観察票・行動記録票：日々の健康状態や行動の記録がつけられるよう、健康観察票・行動記録票の作成と配布を行った。チューターとの連絡を通じて、学生の健康管理を支援した。</p> <p>2) 学内の環境整備：感染予防行動を促すポスターや案内表示の掲示、手指消毒剤の設置、昼食時の教室の管理、トイレ前の立ち位置表示等を行った。</p> <p>3) 感染予防対策についてどのように取り組んでいくか、学生からの意見を求め</p>
--	---

	<p>て集約を行った。</p> <p>14. その他（学外研修会，障がい学生関連，懲戒規程関連，学籍移動，学生生活ガイド」修正，大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価）</p> <p>1) 学外研修会：コロナ禍のため，参加できなかった。</p> <p>2) 障がい学生関連：現支援システムの活用</p> <p>3) SNS，学割などの適切な使用に関して情報提供と具体的な取り扱いに関して随時周知</p> <p>4) 懲戒規程関連：懲戒規程の内容を周知する。</p> <p>5) 学籍移動について：学籍移動対応した。</p> <p>6) 学生生活ガイド」修正：「学生生活ガイド」を見直した。</p> <p>7) 大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部との連携により，2019年度大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価報告書を作成した。 ・2019年度学生生活支援センター各種行事等のPDCAシートを作成した。
<p>評価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 総代・副総代との連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19感染症対策のため，成果は得られなかった。 <p>2) （チューター制度）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は新型コロナ感染拡大を予防するため，特に前期は学生の登校が制限されている状況下で例年と異なる関わり方が必要となっていた。しかし年度末に行ったチューター活動に関するアンケートの結果からは，9割以上の教員が1年間を通じて学生と定期的もしくは必要に応じて連絡をとり，面談を行うなどしてコミュニケーションを取っていた。中でも1年生は入学時から登校が自由にできない状況であったが，オリエンテーションでチューター教員との顔合わせと相談の機会を設けたことで，今後の学生生活についての疑問や不安の軽減に役立てられたと考える。2～3年生についても同様に定期連絡の機会があったことから，授業や実習，成績などに関するきめ細やかな指導ができていた。 ・指針にチューター活動などにおける指導上の留意点についてを追加し学科会議で説明することで周知できた。 <p>3) （学勢調査）医学部看護学部合同の調査内容の見直し，実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-4年の回収率は96-99%と高率であった。 <p>4) （奨学金）特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望学生はほぼ全員受給できた。対象学生7名の面談を行い全員適格であった。 <p>5) （健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象学生のうち95.4%がインフルエンザの予防接種を行った。しかし，昨年度98.8%より3.4%低下したため，次年度接種率をさらに向上させるための働きかけが必要である。

<p>・2020年度メンタルヘルス業務報告 7-11月の健康診断時実施において、看護学部3年生のGHQ得点が（17点以上 精神健康度が低い）39名（46.4%）と高い結果であった。保健管理室でさらなる分析予定であるが注意が必要である。</p> <p>6) (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用, 懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニパ・メール等でのやり取りで47件の要望（重複あり）が提出された。内19件は講義や成績評価等に関する内容であり, 教育センターからの回答も集約して, 2月にユニパと掲示により学生に提示した。 <p>7) (学生自治) 学生が自ら話し合い, 学生生活の問題を解決していくことの支援, 学友会役員選考支援, 謝恩会準備の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19感染症対策のため, 主たる成果は得られず。 <p>8) (新入生学外合宿) 薬学部との合同参加への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度は感染予防の観点から合宿は中止となった。本年度は2021年実施予定のプログラム開催に向け, 計画案の立案と準備を行った。 <p>9) ホームページの内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19感染症の状況に応じて「コロナ基本方針・行動指針」「コロナに負けるな」を随時HPに掲示した。 ・大学休講期間中は「看護学部教員だより」として大学の感染対策の状況を掲示した。 <p>10) 学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のみならず入棟者が活用できた。 <p>11) 正課外活動ポートフォリオの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計229名の入力があった。内訳は, 1年生29名（12.7%）, 2年生76名（33.2%）, 3年生78名（34.1%）, 4年生46名（20.1%）であった。 <p>12) 医学部との連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬大も参加した定例会議によって, 両学部の学生生活支援に関する情報共有と合同の行事や学友会の運営を円滑に行うことができ連携できた。 <p>13) 感染予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康状態や行動の記録がつけられるよう, 健康観察票・行動記録票の作成と配布を行った。チューターとの連絡を通じて, 学生の健康管理を支援した。 ・学内の環境整備: 感染予防行動を促すポスターや案内表示の掲示, 手指消毒剤の設置, 昼食時の教室の管理等を行った。 <p>14) その他(学外研修会, 障がい学生関連, 懲戒規程関連, 学籍移動, 学生生活ガイド)修正, 大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外研修会: コロナ禍のため, 参加者は0であった。 ・障がい学生関連: 対象学生は1名であった ・各学年のガイダンス時周知した。 ・懲戒規程関連: 懲戒規程関連学生がのべ5名みられた(厳重注意3名, 停学2名)。 ・学籍移動について: 退学, 休学各2名(2年生, 4年生各1名)であった(3月末)。チューターが窓口になり, 関係諸機関とも連携を取り対応した。
--

	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活ガイド」修正：大学統合に合わせ、3 学部共通編，看護学部編の 2 部構成とした。 ・大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価：点検評価を行った。 <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 総代・副総代との連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19 感染症対策の緩和に伴い，活動が再開すれば状況を鑑み総代連絡会を開催する。 <p>2) (チューター制度) チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り (継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター活動に関するアンケートの結果から，本年度のチューター制度への負担感について，昨年度に比べて増していた。特に前年度と異なる点として，健康問題についての相談件数が増える傾向が見られたが，新型コロナウイルス感染症との関連が考えられる。さらに近年の傾向として，学生それぞれの多様な背景を踏まえた関わりや，心理的な問題についての支援が求められている。次年度以降も学生の相談に幅広く対応していく必要があり，センターとしてチューター教員を支援する必要がある。昨年度から導入した「支援が必要と考えられる学生に関する情報のフローチャート」についての認知度は上昇しており，さらに本年度「チューター制度に関する指針」の修正を開始して，周知に向けた検討を進めている。今後はこれらの指針や支援体制がチューター教員の活動に役立てられているかの評価が必要であると考え。 <p>3) (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し，実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部は Web 入力であった。看護学部も次年度 Web 入力を実施できるよう準備する。 <p>4) (奨学金) 特別奨学金貸与規定変さらに伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集の周知と希望学生が受給できるよう，募集説明会，選考，手続きを行う。 ・適格審査次年度も継続する <p>5) (健康管理) 保健管理室との連携の一層の緊密化 (継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き活用してもらう。 ・期限内の予防接種を促す。 ・コロナ禍などのメンタルヘルスへの影響について，保健管理室の分析結果をふまえ，対応が必要である。 <p>(学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用，懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の開催方法については次年度以降も検討し，学生が意見を出しやすいように方法を整備していく。 <p>6) (学生自治) 学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決していくことの支援，学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19 感染症対策の緩和に伴い，活動が再開すれば状況を鑑みて各支援を開始する。 <p>7) (新入生学外合宿) 薬学部との合同参加への取り組み</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き 2021 年度に開催されるオンラインプログラムの準備に取り組んでいく。2020 年度は学生からの意見として、特に 1 年生から「コロナでなかなか友達をつくる機会がない、他学部との交流を増やしてほしい」といった要望もみられたことから、学生間の交流を活性化する効果的な機会となるよう検討を進める。 8) ホームページの内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き HP を通して COVID-19 感染症の状況に応じた感染対策の情報を発信する。 9) 学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き活用してもらう。 ・期限内の予防接種を促す。 10) 正課外活動ポートフォリオの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生全員が入力できるようはたらきかける。 11) 医学部との連絡会議 <ul style="list-style-type: none"> ・統合後も情報共有し、連携する。 12) 感染予防対策 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の感染状況を踏まえ、引き続き学生の健康管理の促進と環境整備を行っていく。 14) その他（学外研修会、障がい学生関連、懲戒規程関連、学籍移動、学生生活ガイド」修正、大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価） <ul style="list-style-type: none"> ・学外研修会：Web で参加する。 ・障がい学生関連：活用し、洗練する ・懲戒規程関連：学生・教員に予防の必要性について繰り返し周知する。 ・学籍移動について：規程に沿って速やかに対応する。 ・「学生生活ガイド」修正：洗練する。 ・大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価：明らかとなった各課題に対応する。
<p>将来に向けた 発展方策 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. チューターが安心して活動できるような環境、学生が相談しやすいような環境を整備する。 2. 外部各種団体の奨学金情報をタイムリーに学生に周知し、推薦者の選考に関して、獲得を目指して吟味する。 3. 保健管理室と情報共有をはかり、コロナ禍対策を含めた学生の感染症等予防対策を強化する。 4. 障がいをもつ学生の支援システムの構築が重要な課題であり、講義・演習等における障がいのある学生に対する申し合わせ事項を作成する。 5. 学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加、新入生学外合宿への在校生の参加や懇親会への参加者の増加、学年縦割りの交流の機会を設けるなどの運営ができるように支援する。 6. 学生が主体的に勉強し、安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う。 7. 学生が懲戒規程の対象とならないよう予防策を教育センターと協力し予防する。 8. 大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価による内部質保証を継続する。

3) 委員会

委員会名	(1) カリキュラム委員会
目的	本学部の教育目標の下、カリキュラムの改善のために科目の設定や統合、教育内容、教育評価などの事項について PDCA を実施する。
構成員	鈴木久美（委員長）、池西悦子、土手友太郎、宮島多映子、小林道太郎 川北敬美、竹 明美、山埜ふみ恵、川端由夏、中野恵梨子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握 <ol style="list-style-type: none"> 1) ジェネリックスキルテストの実施 2) ディプロマポリシーに基づく卒業時看護実践能力到達度調査の実施 2. 現行カリキュラムの運営評価の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 常勤教員を対象とした調査 2) 学生を対象とした調査 3) 4年生を対象とした調査 3. 2022年度カリキュラム改正に向けたカリキュラム検討の実施 4. 2022年度カリキュラム改正に関する文部科学省申請への手続きの準備 5. 非常勤教員・兼任教員対象の調査の実施
活動概要	<p>会議は合計 13 回開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握 <ol style="list-style-type: none"> 1) ジェネリックスキルテストの実施 対象者（時期）は 2020 年度生（1 年次前期）および 2018 年度生（3 年次末） 学生には批判的・協働的・創造的思考力の個人結果レポートを活用し在学中と就活に活用を促し、チューターにも面談カルテ（アンケート追加）を指導の参考とした。また、3 月の学科会議で 3 年次生の結果の説明会をもち全教員でそれを共有し、教育改善につなげる場とした。 2) DP に基づいた卒業時看護実践能力到達度調査の実施 全学生を対象に調査を実施し、報告書をまとめた。 2. 現行カリキュラムの運営評価の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 常勤教員を対象とした調査 常勤教員を対象に、現行カリキュラムの評価と課題・必要な改正について意見調査を行った（2020 年 8 月）。得られた意見は改正案作成の参考とした。 2) 学生を対象とした調査 4 年生を対象に、現行カリキュラムに対する評価と意見を問うアンケートを行った（2020 年 8 月）。回答者の約 9 割はおおむね適切であると回答した。 2 年生・3 年生の総代副総代にカリキュラム改正案を説明し意見を求めた（2021 年 3 月）。新科目や開講期変更等はよいと思うとの意見であった。 3. 2022 年度カリキュラム改正に向けたカリキュラム検討の実施 カリキュラム委員会中心に 4 回にわたる全体会議を開催した。また、学科会議でカリキュラム改正の内容を全教員で共有した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム検討全体会議の開催 本会議のコアメンバーは、各領域の責任者および科目責任者、カリキュラム委

	<p>員とし、会議への参加者は基本的にオープンとした。第1回会議は2020年9月23日(水)、第2回会議は2020年10月21日(水)、第3回会議は11月20日(金)、第4回会議は12月24日(木)に開催した。</p> <p>2) 検討内容</p> <p>検討内容は、①現行カリキュラムの検討課題等や教員と4年生を対象としたカリキュラムアンケート結果の共有と、②各領域からカリキュラムや科目に対する意見の共有を行った上で、③教育目的、教育目標、3ポリシー、④教育課程編成の考え方とカリキュラムポリシーの一貫性、⑤基礎科目、専門基礎科目、専門科目の科目区分、科目内容、新設科目、単位数等及び科目配置、⑥新カリキュラムの実習計画(案)、⑦学年目標(案)、⑧新カリキュラムの進級及び履修要件改訂(案)について検討を行った。また、⑨保健師科目・助産師科目の指定規則改正に伴う科目内容、新設科目、単位数について検討を行った。そして、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーはカリキュラムの変更に合わせて修正し、全体を報告書としてまとめた。</p> <p>4. 2022年度カリキュラム改正に関する文部科学省申請への手続きの準備</p> <p>カリキュラム検討を踏まえて申請に必要な書類を看護学事務課と協働して作成し、申請に必要な学内手続きおよび書類の準備を行った。</p> <p>5. 非常勤教員・兼任教員対象の調査の実施</p> <p>非常勤、兼任教員への「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動」に関する調査を行った。19名中10名(52.9%)から回答が得られた。学習態度は概ね良好であるが、一部積極性等の課題があった。コロナ禍でもハイブリッド対応で講義が実施できたことへの肯定的意見と学生の理解度に適した授業となっているか助言を求める意見があった。学生へのフィードバックと自覚を促す支援を検討する。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握</p> <p>今年度から1年生を対象にジェネリックスキルテストを実施したため、学生の傾向を早期から把握できた。また、DPに基づいた卒業時看護実践能力到達度調査を全学年の学生に行ったことで学年毎の学修成果の把握ができ、次年度からの教育改善につなげることができる。</p> <p>2) 現行カリキュラムの運営評価の実施</p> <p>コロナ禍において早い段階で授業再開への対応ができた。</p> <p>3) 2022年度カリキュラム改正に向けたカリキュラム検討</p> <p>第4次カリキュラム改正で残された課題や本学部の強みと課題を踏まえて、本学の特色である多職種連携教育の強化をしつつ、時代の要請に対応できる人材育成をめざして、科目内容および単位数、科目配置の検討ができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>なし</p>
<p>将来に向けた発展方策・課題</p>	<p>1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握と教育への活用</p> <p>2. 教育センターと協働したカリキュラム検討</p> <p>3. 2022年度看護学教育評価の受審をふまえたPDCAの推進</p>

委員会名	(2) カリキュラム評価委員会
目的	カリキュラムの質保証を強化するため、内部評価だけでなく（外部委員や学生委員による）外部評価も反映されたカリキュラム評価・改善のための活動を行う。
構成員	荒木孝治（委員長）、仲下祐美子、近澤 幸、原口浩幸（9月まで）、川端由夏（10月から）（看護学事務課）（以上、内部委員のみ記載） 外部委員：医学部教員1名、他大学看護系教員1名、自治体に所属する専門家1名、学生委員：2年生および4年生の学生代表各1名
活動計画	1. 昨年度の課題の振り返り 2. カリキュラムの評価方法の検討と決定 3. カリキュラムに関する評価項目（大項目・中項目・小項目）と評価するための資料の検討および決定 4. 外部委員、学生委員、内部委員が共通に使える評価表の検討 5. 2019年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換 6. 報告書の作成と公開
活動概要	1. 内部委員ワーキング会議は計12回開催した。昨年度の報告書はHPで公開し、教育戦略会議等で報告した。 2. 外部委員、学生委員を含めた第1回カリキュラム評価委員会は2020年9月30日に開催し、評価表の検討・決定を行った。今年度は、2019年度を評価する年度とし、看護学教育カリキュラムの改善に関するPDCAサイクルが連続的に回っているかどうかを、内部、外部の両方の視点で点検・評価するために、評価項目の大項目を①ディプロマポリシー、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤改善とし、それぞれの大項目の下に中項目、小項目を設け、それらの評価項目を評価できる資料を検討し決定した。また、外部委員や学生委員にとっても評価が行いやすい評価表（俯瞰してPDCAサイクルが回っているかを、三段階で評価のできるもの）を検討した。前年度の課題を振り返り、単年度ではなく複数年度で評価することによって、継続した評価ができると考えたため、評価項目、評価基準は昨年度から継続することとした。 3. 2020年12月から2021年1月にかけて、外部委員、学生委員、内部委員がそれぞれの評価項目に対する評価を行い、2021年2月3日開催の第2回カリキュラム評価委員会にて委員が集まり、結果を共有しつつ意見の交換を行った。 4. 今年度実施したカリキュラム評価の結果とその総括および今後の課題を報告書にまとめた。学科会議での報告、HPでの公開によって報告書を公開し、教職員および学生に周知・共有した。
評価	3. 効果が上がっている事項 1) 昨年度の課題として、学生委員への十分なオリエンテーションや配慮について挙がっていたため、今年度は目的や方法、内容など詳細に説明を行った。また、丁寧なフォローができたため、学生委員が委員会に出席し、活発な意見交換ができた。それにより、外部委員、学生委員、内部委員で実り多いディスカッション

	<p>ンをすることができた。</p> <p>2) 報告書は HP で公開した。教育戦略会議で提出し、概ね高い評価を得た。教職員間での共有や、学生には HP の公開について配信し、周知ができた。</p> <p>3) 看護学教育カリキュラム評価は、昨年度に引き続き、外部委員、学生委員、内部委員ともに十分に実施されていると評価している項目、反対に委員間で評価において乖離のあった項目があったことを通して、データに基づいてカリキュラムに関する本学部の強みと課題が明らかになった。</p> <p>4. 改善すべき事項</p> <p>外部委員や学生委員との時間調整や丁寧な説明などによって、学生委員を含めて委員間の活発な意見交換ができたが、学生委員には負担が大きい様子が伺えた。学生委員に負担をかけずに学生側の意見を集約し、評価に反映できるよう今後も工夫していく必要がある。</p>
<p>将来に向けた発展方策 ・課題</p>	<p>1. 学生委員の負担を軽減するため、丁寧な説明とやりとりをしながら、意見を出しやすい環境・関係作りを引き続きしていくことが重要である。方策として、本会議の前に内部委員と学生委員で打合せを行う、学生委員同士で顔合わせができる時間を調整するなどの検討が必要である。</p> <p>2. 今年度は COVID-19 の影響に伴い、教育と教育をめぐる環境等の調整が必要となった。次年度のカリキュラム評価では COVID-19 による影響も含めた新たな視点での評価項目を検討することが必要である。</p>

委員会名	(3) 実習委員会
目的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案，実習要綱の作成，実習連絡協議会の企画・運営，予算案作成，インシデント等に関する検討など）の調整をする。
構成員	池西（委員長），カルデナス，仲下，山崎，佐野，樋上，二宮，宮川（8月迄），近澤（9月以降），山内，土井，勝山，高橋
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習連絡協議会の企画 2. 実習オリエンテーションの企画，運営 3. 看護学実習要綱等の修正と取り纏め 4. 合理的配慮が必要な学生への支援 5. 領域別実習のグループ編成，看護学実習に関する調整，年間計画の立案 6. 実習状況に関する情報共有 7. 対応困難な学生に関する委員会内 FD の実施 8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討 9. 実習前の倫理学習に関する学生および教員へのアンケート調査の実施，まとめ 10. 感染症対策（ワクチン接種状況，COVID-19 感染対策等，）に関わる調整 11. 看護学実習における個人情報取り扱いに関する取り決め事項作成
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催:14 回の委員会を開催した。 2. 実習連絡協議会の企画:2020 年度は本学の感染対策方針に基づき，開催を中止した。2019 年度実習報告書および 2020 年度実習計画・実習要項は，看護部と外部施設 32 箇所に送付し，実習計画の調整は，領域毎に実施した。中止による影響調査の結果，一部領域で調整の遅れがあったが，実習に影響はなかった。新たに大阪医科大学看護学部実習連絡協議会運営マニュアルを作成した。 3. 実習オリエンテーションの企画，運営:領域実習は，夏休み前と直前に開催した。これまで領域で実施していた基礎実習・老年看護学実習も委員会が企画することとし①実習における倫理，②個人情報保護，③健康管理・COVID-19 感染対策の内容を追加した。感染対策は，動画を作成して Moodle から視聴できるようにし，不安対応窓口について説明した。 4. 実習要綱等の作成:2021 年度看護学実習要綱(共通事項)，各領域別実習要項，統合看護学実習要項を作成した。要項作成においては，2021 年度の大学統合による名称変更・規定の見直し，新たに作成した取り決め事項を追加した。 5. 合理的配慮が必要な学生への支援:2020 年度申請のあった学生 3 名に対し，看護学部障害学生支援委員会の基本方針に則り，各領域特性を踏まえた支援計画を作成，対応した。当該学生は問題なく実習を終了した。全実習終了後，全体報告書を看護学部障害学生支援委員会に提出した。 6. 実習グループの編成等:2020 年度の基礎実習・領域実習のグループ編成，2020・2021 年度の看護実践と理論の統合の部屋割を行った。2020 年度版は，領域別実習が始まる前(7-8 月)に，本学感染対策指針に準じて，再調整と変更を行った。実習における昼食・学内教室の使用計画・調整は，学生生活支援センターと協働し，全学年の教室

使用・昼食場所との調整を行った。また、3月中旬に2021年度各領域の統合実習における学生の動向調査を行った。2021・2022年度実習計画表や大学病院実習計画表の作成では、各領域の実習形態の変更や実習の連続に伴う学生の負担を考慮した。

7. 実習状況に関する情報共有:委員会にて、発熱等の感染症状による実習中止や学生の実習状況と課題を確認し、領域間での連携をはかった。
8. 対応困難な学生に関する委員会内FDの実施:看護学実習において対応困難な経験や上手く対応できた経験を振り返り、今後活かすためのリフレクションシートを作成した。また、各領域から提出された事例を基に、委員会内でFDを実施し、今後の対応、領域間の情報共有などについて検討した。感染対策のため学科内FDは次年度以降に見送り、委員会内FDの成果は各領域に情報共有し活用することとした。今後も定期的に事例検討を実施し、教員の実習指導能力向上につなげる仕組みの構築を行うこととした。
9. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策:発生したインシデントを中間(12月)・最終(3月)で分析し、共有した。学生のインシデントは計12件(昨年度17件)、教員のインシデントは1件であった。学生のインシデントは、発生件数が5件減少し、電子カルテ(ログイン・ログアウト忘れ、不適切な操作)が最も多かった。個人情報保護関連が減少したことから、看護学実習における個人情報取り扱いに関する取り決め事項の配布、倫理学習による効果が考えられる。教員のインシデントは記録用紙の紛失で、記録用紙は原則ファイルから取り外さないこと、やむを得ない場合は管理の徹底を確認した。
10. 倫理学習に関する調査:1) 学生対象調査(3年生):実施直後の調査結果では、9割以上が「とても参考になった」「参考になった」と答えていた。良かった点は「倫理について理解できた」「グループワークで意見交流ができ、より理解を深めることができた」などであった。感染対策で用いたWeb会議サービスの中継トラブルに関する意見があり、運営方法の検討が必要である。今年度新たに実施した実習終了後の調査結果では、事例を用いたグループワークが実習中のグループでの話し合いにつながったり、学びが実習に活かせたりした、という意見がみられた。実施時期が実習直前であったことにより、意識づけして実習に臨むことができていた。また、学生は、実習中に指導者からの指導や患者対応について、困ったり、疑問を感じたりしていた。
- 2) 教員対象調査は、領域実習終了後の2月末に実施した。「倫理的な思考や行動を身につける上でグループワークのディスカッションは重要」「病棟で実施した倫理カンファレンスにて活発に意見交換できていた」など一定の評価が得られた。今後取り上げたい事例として、「小児病棟におけるきょうだいの面会」「集団の中で予防行動がとれない患者への対応」などが挙げられた。進行については、「全体でのディスカッションに時間を増やしてはどうか」「医療者としてどう解釈し解決するか」「自分のこととして捉えられる」など学生の学びを深める視点についての意見が挙げられた。
11. 感染症対策に関する調整:
 - 1) 実習前のワクチン接種:例年通り保健管理室・学生生活支援センターと連携し、ワク

	<p>チン接種の奨励を行った。</p> <p>2) 実習中の健康管理:学生に毎日の体温測定, 健康観察票・行動録票の記録を義務付けた。COVID-19 感染者が出なかったことから, 健康管理は実施できていたと考える。一方で, 健康観察票・行動記録票の記録忘れ, 大学の行動指針を順守できなかった学生も一部みられた。</p> <p>3) 必要医療物品管理:感染対策で持参が必要となった医療物品を各領域に調査し, 6月から物品の購入・管理を行った。物品の不足による実習への影響はなかった。実習終了後の3月の在庫調査で, マスク, エプロン, 手袋, フェイスシールドの在庫が多かった理由は, 外部実習施設の受け入れ中止, 直接ケアの制限等であった。次年度より, 在庫物品と必要物品管理は, 物品委員会に移行する。</p> <p>4) 実習調整:緊急事態宣言による実習受入れ中止で, 急遽実習施設・病棟変更の調整を行なった。また, 実習時の感染対策, 実習中断の方針を作成し, それに基づき保健管理室・看護部・他施設との調整を行ったことにより, 学生への不利益が生じることなく臨地実習が実施できた。</p> <p>12. 個人情報取り扱いに関する取り決め事項作成:個人情報に関連するインシデント報告が例年一定数あること, 個人情報取り扱いに関する具体的内容の明文化がなかったことから, 昨年案に修正を加え, 取り決め事項を作成した。</p> <p>13. 実習における態度評価指標の作成:文部科学省が示す「態度・志向性」要素, 日本看護系大学協議会が示すコア・コンピテンシー, 本学のディプロマポリシー・卒業時到達目標項目に基づき, 本学の各領域実習における態度評価指標を作成し, 領域間で共有した。次年度より各実習の評価項目に含め使用する。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症への対応・方針の作成と, それに基づいた実習施設との調整により, 学生への不利益が生じることなく臨地実習を実施できた。 ・ 学生支援センターと連携し, 健康管理や使用教室を調整したことにより, 感染者リスクが軽減できた。 ・ 実習指導の困難事例等を振り返るリフレクションシートの作成と委員会内 FD の実施により, 教員の実習指導能力の向上と FD の体制づくりができた。 ・ 実習における態度評価指標作成により, 段階的な態度育成が可能となった。 ・ 個人情報の取り扱いに関する取り決め事項の配布や, 倫理学習の実施により個人情報保護に関するインシデントの発生数が減少した。 <p>2. 改善すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策を講じた実習連絡協議会の運営方法の検討。 ・ 感染対策を講じた倫理学習の運営方法と全体討議の時間配分の検討。
<p>将来に向けた発展方策 ・ 課題</p>	<p>1. 実習連絡協議会における感染対策を講じた FD 開催。</p> <p>2. 健康障害を持つ学生や対応困難な学生への支援と支援体制の強化。</p> <p>3. 臨地教育教員の実習連絡協議会への参加促進, 指導上の情報共有の促進。</p>

委員会名	(4) ウェブサイト委員会
目的	看護学部のウェブサイトを目滑りに管理運用する。
構成員	土手友太郎（委員長）川北敬美， 土井智生， 川上将弘， 高橋七枝 （オブザーバー）法人広報室 松田久美， 田中庸介 （看護学部大学院課）小林洋樹， 田中佑美
活動計画	1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新 2. 学部長あいさつ， トップページ写真等の更新 3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 4. 看護学部年報， 看護研究雑誌の最新号掲載 5. その他必要な更新および情報公開（随時）
活動概要	1. 委員会（12回）を開催し， サイト更新に関する検討・準備と確認を行った。 2. サイト更新 1) 教員一覧， 各教員情報， 教員からのメッセージ， 領域ページの更新 2) 学部長あいさつの更新， その他年次情報更新 3) 看護実践研究センター・教育センター・学生生活支援センターのサイトの更新， 国家試験合格情報， 就職・進路状況の更新 4) 2019年度看護学部年報， 看護研究雑誌第11巻掲載 5) 各種告知事項， 実施報告等の更新 6) タイトル画像の見直し 7) Web 写真等の変更および追加 8) 大阪医科薬科大学の新 Web サイトの構築作業
評価	1. 効果が上がっている事項 法人広報課および大学院課の事務担当の参加による関連活動の連携ができた。 看護学部広報委員会と本委員会委員長の兼任による広報活動の統括化ができた。 実際の病棟実習風景の撮影と学生の感想と指導教員のコメントを取材しリアル感の 高いコンテンツが作成できた。 2. 改善すべき点 作成した Web サイトの自己点検と評価の方策を要検討である。特に新 Web サ イトの評価は受験生確保の観点からも重要であるため， 新入生からの評価を確認 する必要がある。
将来に向けた 発展方策 ・課題	大学院委員会の委員の本委員会への可及的参加により一層の情報共有をはかる。 各部署の活動計画および実習要項を参考に掲載用可能な内容を選出し情報提供を 依頼する。各領域長に病棟実習風景の撮影可能な時期と場所の提案依頼をする。 毎月の学科会議で取り組みやニュースなどの情報を募集する。 各部署からの新規活動情報を法人広報課の専用メールアドレスに直送する。 Web サイト作成に関する技術的ノウハウの継承（1委員の残留）をする。 対費用効果からの英文掲載から日本語サイトの英語翻訳への転換をする。

委員会名	(5) 看護研究雑誌編集委員会
目的	大阪医科大学看護学部および大阪医科大学大学院看護学研究科の教員と学生が、その研究行政を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読、編集、出版等に係る業務を行う。
構成員	吉田久美子（委員長）、宮島多映子、山崎 歩、寺口佐與子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第10巻のホームページへの掲載 2. 第11巻発行と投稿への働きかけ 3. 必要により学外者も含めて2名の適正な査読体制の維持 4. 査読システムに関する評価と今後の在り方検討
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「大阪医科大学看護研究雑誌」の編集作業 第11巻の発行に向けて、論文の募集、査読者の選出、査読結果を踏まえて採否の決定、修正論文の再査読を踏まえての採否決定、採択論文の校正、雑誌全体の校正等の作業を行った。 2. 編集委員会は2020年6/5, 11/9, 12/1, 12/15, 12/23. 1/12の6回実施。 3. 論文の応募は15本で、そのうち、原著論文1, 研究報告2, 資料9掲載することができた。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 投稿規定に沿って計画通りに編集業務を進めることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、応募者が修正しやすいように日程の変更をした。その結果、辞退者が昨年より減少した。また、教員9名と大学院生4名また共同研究者として外部からの応募があり、学内の教員で査読をすることができた。 2. 改善すべき事項 論文の内容に沿って適切と思われる査読者を選出する必要があることから、査読体制については引き続き検討していく必要がある。
将来に向けた発展 方策 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 来年度は大学統合にて大阪医科薬科大学になることから、看護学部研究雑誌のさらなる内容の検討。 2. 多くの教員と大学院生が論文の投稿と掲載が可能な体制づくり。

委員会名	(6) 予算委員会
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。
構成員	赤澤千春 (学部長), 鈴木久美 (教育センター長), 池西悦子 (実習委員会委員長) 土手友太郎 (教授), 武田千賀, 森川健太 (看護学事務課)
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された2020年度看護学部予算案の審議を行い, 教授会で承認を得た。 1. 学生の教育, 学生の実習に係る備品等 2. 各センターおよび各委員会に係る活動費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他, 学部長が必要と認めたもの
活動概要	予算案を作成するために, 看護学部消耗品等できるだけ削減するように努め, 2020年度には看護学部として以下の新規購入を要望した。 1. 建学の精神入試に係る学費減免制度 (看護学部) 2. 日本看護学教育評価機構「看護学分野別評価」 受審準備の費用 (看護学部) 3. 看護学部貸与奨学金 (看護学部) 4. SpO2 モニター (急性期成人看護学) 5. 吸引シミュレータ "Qちゃん" (基礎看護学) 6. 11インチ iPad PRO 5台 および ポケット Wi-Fi, iPad カバー (在宅看護学) 7. 患者衣 (基礎看護学) 8. ステンレス製洗面器 (基礎看護学) 9. 静脈可視化装置 AccuVein (基礎看護学) 10. 北キャンパス 看護学部 講堂AV機器老朽化に伴う更新 (看護学部)
評価	1. 効果が上がっている事項 例年, 消耗品にかかる経費は一定しており, 予算計画通りに執行できている。 2. 改善すべき事項 経年劣化してきているものを順番に修理などしていくための計画を立て, その予算を計画していくことが必要である。
将来に向けた発展方策 ・課題	2020年度予算の執行状況を確認しながら, 看護学部にとって適正な予算要望を検討することが重要である。

委員会名	(7) 物品管理委員会
目的	講義・演習を円滑に進めるため、授業に関する物品の維持及び管理、物品に関する情報収集と学部内教員への発信、その他物品管理に関する事項を行う。
構成員	竹村淳子（委員長）、二宮早苗、倉橋理香、杣木佐知子、武田千賀（事務）、森川健太（事務）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検 2. 教務関係備品の貸し出し管理 3. 固定資産備品の確認・点検 4. 実習室，器材庫，実験室等の整備 5. 各種申し合わせ事項等の見直しと改正 6. 2021年度教務関係物品購入予算案の作成
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2020年4月～2021年3月に計7回の委員会を開催した。 2. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検および購入 1) covid-19感染症の流行により，感染対策用品（マスク，ふき取り用アルコールシート，ディスポエプロン，グローブ等）の入荷の遅れが懸念されたため，各領域の授業等で必要となる物品の確認をし，事務と協力して発注時期を検討した。 2) 共通物品，領域管理責任の備品点検は2～3月にかけて実施した。 3) 備品点検リストを作成し，要修理となった車いす4台は，修理費と耐久性を勘案し，新規購入した。 4) モデル点検は各業者により12月～1月に実施した。その結果，要修理となったものは使用頻度および予算の範囲で修理依頼を行った。 5) 各領域の授業等で必要となる物品の購入を行った。 3. 教務関係備品の貸し出し管理 フィジコ1体 教育センターへ貸し出し（OSCE試験の為）11月13-17日。 4. 実習室，器材庫，実験室等の整備 1) 準備室2の物品保管棚に棚板2枚を追加購入し，保管スペースの拡大をはかった。 2) 準備室2に置かれていたガラス板は廃棄した。 5. 各種申し合わせ事項等の見直しと改正 看護教育評価に関し，物品委員会が担当する実習用モデルの教材確保，関連機器の整備・更新，実習室運用規定，安全対策の該当項目について資料確認を行った。 6. 2021年度教務関係物品購入予算案の作成 次年度予算の作成を行った。

<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 昨年整理された固定資産備品および物品管理台帳に基づき、物品の把握・管理が円滑になった。</p> <p>2) 教務関係備品およびモデル点検を定期的に行うことで、授業等に必要な物品の提供ができた。また、修理を要する物品の耐用年数・消耗程度を把握して計画的購入ができた。</p> <p>3) 昨年の課題であった枕のクリーニングを計画的に実施できた。</p> <p>4) 看護学事務課との連携により点検・修理および納入期限について授業に支障なく実施できた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) COVID-19 感染症流行により、一時物品の納期が遅れる事態があった。講義・演習が遅滞なく行えるよう、計画的購入及び備蓄に関して検討が必要。</p>
<p>将来に向けた発展方策 ・課題</p>	<p>1. 耐用年数超過，老朽化によって使用できない物品の確認</p> <p>2. 授業内容の変更等により使用しない物品，廃棄物品の確認と整理</p>

委員会名	(8) 就職支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職・進路の支援
構成員	田中克子 (委員長), 山崎 歩, 山埜ふみ恵, 近澤 幸, 川上将弘, 白石和泉
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 就職活動および内定状況の把握 4. 卒業生からの情報提供の充実をはかる 5. 卒業生に関するアンケート調査 6. HP の更新
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供の一環として、就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報、パンフレットなどをキャリアサポートルーム内外に設置し、ポスターは掲示した。また、タイムリーな就職活動ができるよう必要時ユニパで情報発信を行った。 2. 学生の就職活動力の支援として就職ガイダンスを3回実施した。第1回目は2020年6月15日(月)に本学附属病院人事企画研修課担当者、就職支援業者による「自分で行う就職活動に向けた準備講座」を開催した。3年生86名が参加した。第2回目は、2021年1月23日(土)、本学附属病院担当者、卒業生の看護師、保健師、助産師による講演を開催した。3年生76名就職支援業者による履歴書および面接対策の講演を実施した。第3回目は低学年向けガイダンスとして12月21日(月)に就職支援業者による就職活動講座を行い、2年生84名、1年生31(内Zoom参加10名)が参加した。 3. 就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い、2021年2月に卒業年次生全員の進路が決定したことを確認し、学部教授会で報告した。 4. 2021年3月10日・12日、履歴書添削セミナーをZoomで開催予定であった。コロナの感染症対策によりZoomによる個別指導とし参加者は29名、ミニレクチャー参加者は43名。 5. 卒業生・施設アンケートは、合同実施の教育センターと検討し毎年、継続実施することとした。 6. HPは今年度の就職先情報として更新することとした。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 採用試験が年々早まっているため、低学年のガイダンス開催やタイムリーな就職情報を発信し、学生の意識向上を図った。情報提供としては掲示板、ユニパ、サポートルームの資料が役立ったという回答は50-70%とあったので必要性が高い。 就職ガイダンスは、低学年ガイダンスに就活スケジュールを前倒しで取り入れ、学生の主体性を育むため任意の参加に変更した。今年度は特にZoom参加も取り入れた。コロナ禍もあり、時間短縮とZoom参加で行ったが、学生の参加率約95%、満足度約70%と共に高く、一定の効果があり学生のニーズに適っていると考え

	<p>る。また、卒業生からの講演は、実際の声が聴けるので学生のキャリア形成・選択には重要である。</p> <p>履歴書添削セミナーの履歴添削は意見交換が活発であった。今後も継続の方向で検討したい。就職活動及び就業調査票は、ユニパでの提出に変更し90%以上の回収率を得、集計作業の簡便化にもつながり、後輩への情報提供の迅速化をはかることができる。</p> <p>卒業生に関するアンケート調査結果より、施設側、学生とも生命の尊重や向上心は優れている点が高評価であった。</p>
<p>将来に向けた発展 方策 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスは、内容を精選し時間短縮を計ること、時期もタイムリーにすることが課題である。 2. 就職活動および就業調査票は、ユニパでの提出を継続し、集計作業の簡便化、後輩への情報提供の迅速化をはかる。 3. 感染症対策で、次年度の採用試験が延期となっている施設が多いため、タイムリーな学生への情報提供、個別相談等の支援が必要と考えられる。 4. 卒業生、施設に関するアンケート結果から社会人としての資質、国際的な視点に関して高めることが課題である。

委員会名	(9) 国家試験対策委員会
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す。
構成員	荒木孝治（委員長）、安田稔人、府川晃子、佐野かおり、宮川幸代（2020年10月まで）、赤崎芙美、柴田佳純、山本暁生、高橋七枝
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 2020年度国家試験対策の模試および対策講座の実施 3. 2021年度国家試験対策の企画および予算案の作成 4. 国家試験対策活動の保護者への周知 5. 模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる方策の検討、チューターとの情報共有およびさらなる協働方法の検討 6. 国家試験対策（模試および対策講座）の評価
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役割分担 委員の役割分担は以下の通りとし、感染予防の観点から実施方法の変更が生じた際などはそのつど調整を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 議事次第作成・委員会進行・全体総括（荒木委員長） 2) 議事録作成（准教授以下で輪番） 3) 東京アカデミー・模擬試験・対策講座 窓口（佐野委員・荒木委員長） 4) 学研およびテコム・来年度の看護師模擬試験 窓口（府川委員） 5) クオリス他・来年度の助産師模擬試験 窓口（宮川委員） 6) 看護師国家試験対策 担当（府川委員・佐野委員・柴田委員・赤崎委員） 7) 国試対策講義 担当（4年生向け・低学年向け）（安田委員） 8) 保健師国家試験対策 担当（山本委員） 9) 助産師国家試験対策 担当（宮川委員） 10) 郵便物・広告物・掲示物担当（柴田委員） 11) 模試・対策講座 感染対策 担当（赤崎委員・柴田委員） 12) 来年度予算・必要物品購入（荒木委員長・府川委員・佐野委員・宮川委員） 2. 模試と対策講座 国家試験を受験する学生の全員合格を目指して、4年生を対象に実施した全国規模の模試および対策講座の回数は、看護師国試対策講座12回、看護師国試模試6回、保健師国試対策講座5回、保健師国試模試3回、助産師国試対策セミナー2回、助産師国試模試2回であった。3年生については全国規模の模試2回、2年生および1年生に関しては全国規模の模試を1回ずつ実施した。新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、3月に予定されていた3年生および2年生の対策講座は延期された。 3. 国試対策関連の図書購入 登校機会の減少により図書の新規購入および貸出は実施しなかった。

4. チューターとの情報共有

対策講座・模試出欠状況や成績を確認しやすいように share 内のフォルダー配置を見直してアクセスの利便性を高め、9月の学科会議で活用方法を周知した。第1・2期、直前勉強会の対象学生の選定にあたり、選定基準のための資料を11月・1月の学科会議にて全教員に提示した。また、直前勉強会での対象学生の出欠状況を報告し、Zoom を用いていることから、教員の勉強会参加方法についても周知した。欠席がちな学生にはチューターから直接連絡をしてもらうよう調整した。

5. 看護師国試対策勉強会

看護師国試対策については、4年生の模擬試験の結果の推移に基づいて11月～12月期、1月～2月期に勉強会を実施した。

1)11～12月期：本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大学へ集合しての勉強会の実施が困難となったことから、Zoom を使用したオンライン勉強会を企画した。初めてのオンライン開催にあたり、まずこれまでの模試の結果から特に成績が伸び悩んでいる対象者10名程度を対象にした2週間の集中勉強会を行い、学生の反応や効果を検証してから、対象を拡大して1カ月の勉強会を行う二段階で実施した。

(1) 第1期勉強会

11/16(月)～11/20(金)の5日間(9:00～12:00)、対象者は第1回全国・テコム必修・第2回全国模試で一度も必修8割をクリアしておらず、第2回全国模試の必修得点割合の下位9名(内1名は実習のため第2期からの参加)であった。

教員から Google Form によって提示した小テストの実施と、必要時に簡単な解説を行う以外は、自習を中心とした学習とした。終了前の30分程度はブレイクアウトルームを利用し、学生同士が少人数のグループで相互に質問や相談ができる環境を整えた。

5日間を通して出席率は100%(事前連絡のあった欠席者を除く)であり、学生からの意見として、「Zoom でやるとみんなの勉強の様子が見えて良い」「集中が切れてしまった時も、画面を見たら自分もやろうと思う」等、参加できてよかったとの反応であった。

(2) 第2期勉強会

11/25(水)～12/11(金)の10日間(授業のある日を除く、9:00～12:00)、対象者は、本年度の模試で一度も必修8割をクリアしていない、第2回全国模試の必修得点割合が低い、第2回全国模試の総合成績が下位である者とし、計30名を選抜した。第1期勉強会と同様に、Google Form での小テストの実施やフィードバック以外は自習を中心とした学習とし、ブレイクアウトルームを利用した相互学習の時間も継続した。

出席率は92.4%(事前連絡のあった欠席者を除く)であった。こちらも学生からの意見として、「朝起きて勉強する生活リズムが整った」「みんなの様子を見て頑張れた」「普段は図書館を利用して勉強していたが、外出せずに集中できて良か

った」といった反応がみられた。

2) 1～2 月期 (直前勉強会) : 11～12 月と同様, Zoom を使用したオンライン勉強会を行った。

1/18 (月) ～2/5 (金) の 15 日間 (9 : 00～12 : 00), 対象者は第 3 回全国公開模試の必修得点割合が 8 割以下, 同模試の総合得点による学年順位の低位の者とし, 31 名を選抜した。また, 対象でない希望者の参加も可とした。

勉強会の内容は, 教員から Google Form によって提示した小テストの実施と, 正答率が低かった問題への解説の案内を行い, 自習を中心とした学習時間をもつこととした。開始 30 分以降からブレイクアウトルームを設定しておき, 自習時間中にも学生同士が相互に質問や相談ができるようにした。

期間中は Google Form や監督者へのメッセージを通じて学生からの質問を募り, 1/22, 29 の 2 回, 安田委員からの Zoom でのフィードバック講義を行った。1/19, 27 の 2 回, 過去の模試問題を配布してオンライン模試を行った。

2/8～10 の 3 日間は引き続き自習室としてオープンした。

選抜対象者の出席率は 84% (事前連絡のあった欠席者を除く) であり, 無断欠席や遅刻・早退の続いた学生に対しても, チューターを通じて連絡を取ることで出席できるようになった事例もあった。また期間を通じて毎日平均 7.6 名の希望者が参加していた。終了後の直前勉強会に対するアンケートでは, 対象者の 92.7% が「役に立った」または「非常に役に立った」と回答した。一部の学生からは「対象者と希望参加者で場所を分けてほしい」「顔が映ることで気が散ってしまう」といった意見もみられた。次年度に向けて, 方法を検討していく。

6. 保健師・助産師国試対策

保健師の国試対策については感染対策のために対策講座や模擬試験を後期より Zoom で行った。1 月から, 初めて保健師対象の直前勉強会を 1 月の模擬試験低学力者向けに実施した。公衆衛生看護学領域の協力を得て成績の伸びない学生に対する個別指導を行なうなどの対策を続けた。助産師の国試対策においても学生に密に連絡を取り模試の情報などを伝えた。更に, 母性看護学領域の協力を得て成績の伸びない学生に対する個別指導を行い対策を重ねた。

7. 自己採点会

2/22 に看護師・保健師・助産師国家試験の自己採点会を実施し, 学生の全員から自己採点結果の報告を受けた。

8. 学生へのアンケート

1) 国家試験対策に関する実態調査 (中間)

10/2 に 4 年生学生を対象として国試対策の状況についてアンケートを行なった。84 名中 80 名の学生から回答が得られた (回答率 95.2%)。国試を自覚したのは 4 年生になってからの割合が高いこと, 自覚する要因は模試の結果や周囲の学生からの影響等であることなどがわかった。

	<p>2) 1年間の国試対策に対するアンケート（期末）</p> <p>2/16 に 4 年生 88 名を対象とする 2020 年度国試対策に関するアンケートを実施した（回答率 88.6%）。学生の情報収集源としては国試オリエンテーション（67.6%）や模擬試験・講座等の情報提供（57.7%）が役に立っており、継続を希望する支援として、模擬試験（98.7%）、対策講座（73.1%）、成績の振るわない学生への選抜勉強（55.1%）、業者による模擬試験や講座等の案内（46.2%）が挙げられた。</p> <p>9. その他</p> <p>本年度は対面での講義や指導等が難しい状況であったことから、後期より「医学書院 看護師/保健師国家試験問題 Web サービス」を導入して、学生がオンラインで国試の過去問や予想問題を解くことができるようにした。2020 年 8 月～2021 年 2 月末までに延べ 1015 件のアクセスがあり、国試終了後のアンケートでは 41%の学生が「医学書院 Web を活用した」回答していた。活用していた学生は主に、Web 上で過去問を解いたり模擬試験を行っていた。有効な活用がされていたと考えるが、一方で「医学書院 Web を活用しなかった」理由として、「使い方が分からなかった」「Web での勉強が使いにくかった」という意見が多くみられた。本年度は後期からの導入であったため、次年度からは早期からの導入や十分な説明を行い、より学生に活用してもらいやすいよう環境を整えていく。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 第 110 回看護師国家試験は受験生 87 名中 86 名が合格した（全国平均 90.4%）。第 107 回保健師国家試験は受験生 37 名が全員合格した（全国平均 94.3%）。第 104 回助産師国家試験は受験生 7 名が全員合格した（全国平均 99.6%）。</p> <p>2) Web を活用した情報提供、学習支援は有効であった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 模擬試験は緊張感の中で受験する練習のため対面形式の機会を何度か設ける。</p>
<p>将来に向けた発展方策 ・課題</p>	<p>1. これまで模試と対策講座については特定の業者を中心としたスケジュールを組んできたが、学生にとって勉強しやすい方法や媒体を少しでも増やすことができるように、Web 上でのオンライン講座等の利用など、多角的に検討していくことが求められる。</p> <p>2. 不合格者への継続した具体的な支援方法を決定する。</p>

委員会名	(10) 看護学部年報編集委員会
目的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する
構成員	吉田久美子（委員長）、寺口佐與子、樋上容子、山内彩香
活動計画	1. 2019 年度年報の取り纏め・発行 2. 2019 年度年報の HP 上での公開 3. 2020 年度年報作成のための原稿依頼
活動概要	1. 委員会の開催 2020 年度 4 回の委員会を開催した。 2. 2019 年度年報の発行 1) 2019 年度の原稿の校正と編集 看護学部と大学院研究科を分けて構成し、大学院研究科の運営組織を明確に示した。運営組織図,看護学研究科カリキュラムワーキング,看護学研究科カリキュラム評価委員会の追加 2) 大阪医科大学年報に大阪医科大学大学院看護学研究科を表題に追加 3) 2020 年 7 月 31 日に年報を発行した。 4) 冊子 35 部作成し関連部署に配布した。 5) 看護学部教員へはホームページ上で PDF を公開した。 3. 2019 年度年報作成について 1) 看護学部と看護学研究科の委員会の増加に伴い、原稿の目次や執筆要領の見直しと見本を呈示した。 2) 2019 年度年報作成のための原稿を依頼した。 3) 各センター・委員会・領域・部署および各教員から原稿を集めた。
評価	1. 効果が上がっている事項 大阪医科大学大学院看護研究科を表題に掲載し、内容も看護学部と分けることで大学院の運営組織と活動内容がわかりやすくなった。 2. 改善すべき事項 看護学部の分野別評価もあることから、センターや委員会活動で行っているアンケート等の資料の保管と提示を行う。
将来に向けた発展方策・課題	1. 2021 年度年報内容の検討 2. 2021 年度年報の印刷部数および予算の見直し。

委員会名	(11) 看護学部広報委員会
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学学務部入試・広報課、本学部各種委員会との連携を図り、本学部の受験者を募集する。
構成員	土手友太郎（委員長）、瓜崎貴雄、仲下祐美子、竹明美、大橋尚弘、柚木佐知子、高橋七枝（看護学部学務課）、堀江雅彦（入試・広報課）
活動計画	1. オープンキャンパス（OC）企画・運営 2. 進学ガイダンス出向の調整・実施 3. 看護学部案内の企画
活動概要	1. 委員会の開催：定例会を11回開催した。 2. OC企画・運営：今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年のような来校型および体験型OCは感染対策の観点から中止した。これに代わり、OCホームページの充実、ならびにミニキャンパス見学会（9月23日～11月26日29回、1日1組（2人）～2組限定とし、29組51名（保護者を含む）参加）とWeb相談会（7月13回、8月14回、9月11回、38名参加）とした。 3. 各種進学相談会には2会場に参加した。 4. 大学案内の製作にあたり、在校生の紹介等の取材協力を行った。
評価	1. 効果が上がっている事項 申込が容易にできるようにWebのレイアウト構成を工夫したこともあり、ミニキャンパス見学会は毎回満員で盛況であった。見学会やWeb相談会などの企画により2021年度の受験数は、前年に比し9人上回った。ウェブサイト委員会と本委員会委員長の兼任による広報活動の統括化ができた。 2. 改善すべき事項 当委員会の活動とウェブサイトによる広報との一層の連携が必要である。また、男子学生数を増やせるような工夫が一層必要である。広報媒体としてのパンフレットは必要であるが、時代のニーズおよび対費用効果を鑑み、徐々に比重を紙から電子に移行すべきか今後の検討が必要である。大学案内の製作において今年度の写真撮影では、コロナ禍により討議や講義など密になりうる授業内容および課外活動、各種イベントの掲載が困難であった。
将来に向けた発展方針・課題	1. 広報委員会とウェブサイト委員会を必要に応じて臨時合同開催する。入試・広報課がOCの写真撮影と保管をしており、同写真等の情報を密に共有する。 2. ウェブサイトおよびオンラインを一層活用した広報活動への転換が求められるため検討が必要である。 3. 高校生からのニーズにより実習内容が分かる写真掲載を検討する。また、他大学では実施していない演習や実習の様子やキャッチコピーなどを盛り込む。 4. 看護学部のwebサイトのトップに男子学生の写真とエピソードを掲載する。 5. 掲載が困難であったOCなどのイベントの広報の方策を検討する。 6. 大学統合後のパンフレットの作成方法を検討する。

委員会名	(12) 教員再任審査準備委員会
目的	本委員会は、大阪医科大学看護学部任期付教員の再任手続きに関する細則に基づいて、1) 当該教員より提出された再任手続きに必要な上申書類を審査し、2) 教員としての適格性の有無について教授会に報告・上申するために設けられ、その活動を目的とする。
構成員	荒木孝治（委員長）、竹村淳子、津田泰宏
活動計画	1. 当該教員の再任手続きに必要な上申書類の審査 2. 「任期満了による継続の件上申審査結果」の学部長への報告
活動概要	1. 再任審査委員会の開催（2020年11月27日） 2021年1月31日任期満了の審査対象者2名（准教授2名）、及び2021年3月31日任期満了の審査対象者5名（准教授1名、講師2名、助教2名）の計7名より提出された上申書類を確認し、「再任の評価視点」に基づいて審議し、審査対象者全員について教員としての適格性を認めた。 2. 上申書類に基づく適格性の審議の学部長への報告 教員再任適格性事前審査を行い、審査対象者7名について適格性を認めた旨の報告書を学部長に提出した。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 2019年度に教授会で承認された再任の評価視点に基づく審査が定着したこと。 2) 再任審査の手続きに関するフロー図に基づいて学務部看護学事務課との連携もスムーズで迅速に審査が進められたこと。 2. 改善すべき事項 1) 運営としては特になし
将来に向けた発展方策・課題	1. 再任の評価視点に関する定期的な検証が求められる。

委員会名	(13) 本学部看護学生を対象とする研究審査会
目的	看護学部生に対し学部内及び学部外から研究協力の依頼があった場合に、基本的な事項、内容および日程等から研究協力の受諾の可否を検討する。
構成員	佐々木綾子（委員長）、瓜崎貴雄、府川晃子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究協力依頼方法のホームページでの公開 2. 研究審査書類の不足・不備の確認および研究協力依頼申請者への再提出の依頼 3. 研究協力受諾の可否の審議 4. 研究協力依頼申請者への審議結果の通知
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究審査会の開催 研究協力依頼申請は 2 件あった。申請があった際に、その都度、研究審査会議を開催した。 2. 研究協力受諾に関する審議 「看護学部学生への研究協力の依頼に対する対応」（2019 年 5 月改訂版）に則り、研究協力の時期や分量などが学生にとって無理がないか、研究への協力が学生に還元されるものであるかの観点で審議した。研究協力は、原則として研究協力に同意した学生が個別に回答することとしていることから、学生に強制したり、単位認定に影響がでないか、また、学生が研究活動に対する理解を深められるよう配慮がなされているかの視点でも検討した。 研究協力受諾可は 2 件すべてであった。 3. 研究協力依頼方法および審議結果についての問い合わせ 学部内および学部外から研究協力依頼申請に関して不明な点や、申請者から審議結果に対する問い合わせはなかった。 4. その他 看護学部学生への研究協力依頼申請書 結果の通知 担当者会議の印は、廃止とした（学部長印で十分なため）。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 研究協力依頼申請があった際に、速やかに研究審査会議を開催し、審議した。研究者にとっては、研究協力が得られるかどうかは研究遂行において重要であり、審議結果を速やかに通知することができた。 2. 改善すべき事項 特になし。
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究協力依頼申請があった場合の迅速な審議の実施。 2. 1 の審議結果の通知実施。

委員会名	(14) 障がい学生支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の講義・演習・実習等に対して、障がいのある学生の修学を支援する。
構成員	鈴木久美（委員長）、赤澤千春（学部長）、佐々木綾子（学生生活支援センター長） 池西悦子（実習委員長）、澤村律子（保健管理室）、津田泰宏（校医） 原口浩幸（9月まで）、川端由夏（10月から）、川上将弘（看護学事務課）
活動計画	1. 次の各号に掲げる事項について審議し、その実施にあたる。 1) 講義・演習・実習の課題に関すること 2) 支援体制に関すること 3) 施設・設備の整備に関すること 4) その他、障がいのある学生への支援に関する必要なこと
活動概要	4回の委員会（メール会議）を開催した。 1. 第1～3回障がい学生支援委員会の開催 障がい学生支援委員会運営要領および学生への支援に関する申し合わせ事項に基づき、申し出のあった3名の学生への実習対応について委員会を開催し、審議した。 第1回（2020年4月15日）：公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱ，統合看護学実習における継続支援について 第2回（2020年8月5日）：3年生領域別実習の支援について 第3回（2020年8月20日）：2年生の老年看護学実習Ⅰ・基礎看護学実習Ⅱの支援について 2. 第4回障がい学生支援委員会の開催（2021年3月25日） 1) 申し出のあった3名の学生への実習が終了したため、経過を報告・今後の対応を検討するため委員会を開催した。 2) 講義・演習等における障がいのある学生への支援に関する申し合わせ事項の検討 臨地実習のみならず講義・演習でも支援を必要とする学生のために、学生への支援に関する申し合わせ事項や申請書類を修正し、内容を検討した。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 運営要領に沿って3名の学生への適切な支援が行え、看護学部教授会や実習委員会等で報告し、支援状況を共有できた。 2) 臨地実習のみならず講義・演習でも障がいのある学生への支援が可能となる。 2. 改善すべき事項 1) 支援を受けている学生の「面談記録」の取り扱いに問題がみられた。
将来に向けた発展方策・課題	1. 講義・演習等における障がいのある学生への支援に関する申し合わせ事項を運用し、学生への適切な支援体制を整備・検討する。 2. 障がい学生支援のあり方について情報を継続的に収集する。 3. 障がい学生支援に関する資料は個人情報が含まれているため、面談記録の記載内容やファイル・印刷物の取り扱いには十分な注意を要する。

委員会名	(15) 将来構想ワーキング
目的	大阪医科大学看護学部および看護学研究科の将来構想について検討し、それに基づいて領域再編の検討を行う。
構成員	鈴木久美（委員長）、赤澤千春、佐々木綾子、真継和子、川端由夏（看護学事務課）、小林洋樹（大学院課）
活動計画	1. 領域再編および各領域における教員定数を検討する。 2. 看護学部・看護学研究科の将来構想の報告書を完成させ、教育に活用する。 3. 大学統合に向けて看護学部のスローガンを検討する。
活動概要	1. 委員会の開催 6回の委員会を開催した。 2. 領域再編および各領域における教員定数の検討 領域編成に関しては、大学院の編成と同様に【実践支援看護学】【療養生活支援看護学】【地域家族支援看護学】とし、【実践支援看護学】は「基礎看護学」「看護教育学」「人文社会学系」の7名、【療養生活支援看護学】は「急性期成人看護学」「慢性期成人看護学」「精神看護学」「老年看護学」「がん看護学」「医学系」の17名、【地域家族支援看護学】は「小児看護学」「母性看護学・助産学」「在宅看護学」「公衆衛生看護学」「医学系」の17名とすること、教授・准教授枠は各15名、助教枠は11名であること、また教員定数は状況に合わせて流動的に変更すること、助教は必要時に他領域の実習を担当することが教授会で承認され、2022年度より実施することが確認された。 3. 看護学部・看護学研究科の将来構想の報告書の活用 昨年度に作成した報告書が7月の教授会で承認され、全教員にメール配信をして周知した。また2022年度保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改訂に伴い新カリキュラムの検討を行う際の参考資料とした。 4. 看護学部のスローガンの検討 大学統合に向けてスローガンを検討することになり、常勤教員対象にスローガンの募集を行った。5つのスローガンが寄せられ、教員投票により「未来を創るスキルを磨け」が決定し、次年度よりホームページ等で使用することとなった。
評価	1. 効果が上がっている事項 (1) 学部と大学院の領域編成が統一されること、助教は必要時に他領域の実習を担当することが確認できたことは、隣接領域の教育を相互に理解し、かつ交流することが促進され、学生への効果的な教育につながれると考える。 (2) 大学統合後の看護学部のスローガンを掲げることができた。 2. 改善すべき事項 なし
将来に向けた発展方策・課題	1. 今回決まった領域編成を2022年度より運用し、今後の教育・研究において支障がないかどうかを点検・評価していく必要がある。

委員会名	(16) 看護学分野別評価ワーキング
目的	看護学教育の質の維持・向上をめざして、2022年度に受審する看護学教育評価に向けて自己点検・評価を行い、本学部の課題を明確化し、教育改善をはかる。
構成員	鈴木久美（委員長）、赤澤千春、真継和子、草野恵美子、小林道太郎 中野恵梨子、川端由夏、森迫宏幸（看護学事務課）
活動計画	1. 2022年度の分野別評価の受審に向けたロードマップを検討する。 2. 評価基準に基づいて各センター・委員会の自己点検・評価を促し、本学部の教育における課題を明確化する。 3. 明確化された課題に基づき各センター・委員会で教育改善をはかれるように推進する。
活動概要	1. 委員会の開催 4回の委員会を開催した。 2. 2022年度の分野別評価の受審に向けたロードマップの検討 初回の委員会で2022年度の受審に向けたロードマップを検討し、具体的な工程を明確化した。7月の教授会で作成したロードマップを共有した。 3. 評価基準チェックシートに基づいた自己点検・評価の実施と課題の明確化および改善策の検討 評価基準チェックシートに基づき自己点検・評価を依頼する各センター・委員会を検討し、9月の教授会で自己点検・評価、及び課題の明確化と改善策の立案の依頼を行った。そして、当該センターと委員会に評価基準チェックシートに基づき自己点検・評価し、根拠資料の確認を行ってもらった。その後、ワーキンググループで看護学部全体の課題と改善策についてとりまとめを行い、12月の教授会でそれらを共有し、次年度の教育改善につなげられるようにした。 4. 看護学教育評価事前申請書の提出 日本看護学教育評価機構に看護学教育評価の申請書を提出し、2022年度の受審校決定通知を受けた。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 看護学教育評価に関する評価基準チェックシートに基づき当該センターや委員会で自己点検・評価をしたことで、現段階における本学部の課題が明確になった。また、課題に基づき次年度に向けた改善策も検討し、課題の改善につながった。 2) 改善すべき事項 ・なし
将来に向けた発展方策・課題	1. さらなる学部教育の質向上に向けて、自己点検・評価を定期的に行い、課題の明確化と教育改善をはかる予定である。 2. 2022年度の看護学教育評価の受審に向けて、次年度は報告書の作成及び根拠資料の収集を手掛けていく予定である。

委員会名	(17) 看護学部受託・共同研究審査会
目的	看護学部所属の研究者が受託研究，共同研究を開始する際に研究内容や実施者に対して，その適切性や妥当性などの審査を行う．
構成員	津田泰宏，竹村淳子，安田稔人
活動計画	看護学部において受託研究，共同研究が発生した場合に会議を開催する．
活動概要	1. 審議案件 2020年度は1件の共同研究の申請があり，メール会議を開催し審議した．その結果，特に研究内容や契約内容に問題は認めず承認された．
評価	1. 効果が上がっている事項 1件の共同研究の案件の内容を審査し，その妥当性や適切性を確認できた．
将来に向けた発展方策・課題	1. 医学部の委員会の方から研究内容をもう少し具体的に説明する必要性が指摘されており，新たに研究実施計画書を作成した．

4) 教育活動

(1) 授業科目一覧

1) 授業科目の一覧

2017～2020 年度入学生 (2～4 学年次) 用

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 養 *	講義 演習 実習	単位数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業要件 単位数 127単位 以上	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	人間理解		講義	2	●									↑ 20単位 以上 ○●必修科目13単位 以上 (人間理解と異文化理解から2単位以上含まれていること) ↓
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			講義	1		○								
			講義	1		○								
			講義	1		○								
			講義	1		○								
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			演習	1		○								
			演習	1			○							
			講義	1	●									
		社会理解		講義	1	●								
			講義	1	●									
			演習	1	●									
			演習	1				○						
			講義	2		●								
			講義	2	○									
			講義	2	○									
			講義	2	○									
	異文化理解		講義	1	●									
			講義	1		●								
			講義	1			●							
			講義	1				●						
			演習	1					●					
			講義	2	○									
		講義	—		◇									
基礎科目必修単位数				13	7	3	1	1	1	0	0	0		
専門基礎科目	人体の構造と機能		講義	2	●								↑ 28単位 以上 ○●必修科目25単位 以上	
			講義	2		●								
			講義	1	●									
			講義	2		●								
			講義	1		●								
			演習	1			●							
			演習	1				○						
			講義	1				○						
	病気と治療		講義	2			●							
			講義	2			●							
			講義	2			●							
			講義	2				●						
			講義	2					●					
			講義	1						○				

区分	授業科目	助☆ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	保健と医療		講義	1		○						28単位以上 ○●必修科目 以上325単位 ↓	
	医学概論		講義	1	●								
	医療人マインド		講義	1									
	専門職連携医療論		講義	1				●					
	保健医療福祉概論		講義	2		●							
	公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
	ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
	医療倫理学		講義	1				●					
	リスクマネジメント		講義	1					●				
異文化看護入門		演習	1					○					
専門基礎科目必修単位数				25	4	7	9	4	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤		講義	2	●							↑ 79単位以上 ○●必修科目 574単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、 看護実践発展科目から2単位以上含まれていること)	
		看護学概論		演習	3		●						
		日常生活援助技術		実習	1		●						
		基礎看護学実習Ⅰ		演習	1			●					
		看護アセスメント		演習	2			●					
		治療過程に伴う援助技術		実習	2			●					
		基礎看護学実習Ⅱ		講義	1								●
		看護管理		講義	1						●		
	看護教育		講義	1						●			
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●						
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●				
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●			
		急性期成人看護学実習		実習	3						●		
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●					
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●				
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●		
		精神看護学概論		講義	2			●					
		精神看護学援助論		演習	1				●				
		精神看護学援助方法		演習	1					●			
		精神看護学実習		実習	2						●		
		老年看護学概論		講義	2			●					
		老年看護学援助論		演習	1				●				
		老年看護学援助方法		演習	1					●			
		老年看護学実習Ⅰ		実習	2						●		
		老年看護学実習Ⅱ		実習	2						●		
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●						
		母性看護学援助論		演習	1				●				
		母性看護学援助方法		演習	1					●			
		母性看護学実習		実習	2						●		
		小児看護学概論		講義	2			●					
		小児看護学援助論		演習	1				●				
		小児看護学援助方法		演習	1					●			
		小児看護学実習		実習	2						●		
在宅看護学概論			講義	2			●						
在宅看護学援助論			演習	1				●					

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 養 *	講 義 演 習 実 習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業 単 位 数 要 件	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	127単位 以上	
専 門 科 目	地 域 家 族 支 援		演習	1				●					↑ 79単位 以上 ○●必修科目 574単位 以上 (看護師国家試験 受験資格のみ希望 の場合には、 看護実践発展科目 から2単位以上含 まれていること) ↓	
			実習	2					●					
			講義	2			●							
			講義	2				●						
	看 護 実 践 発 展			講義	1				○					
				演習	1						○			
				演習	1						○			
				演習	1						○			
				実習	2						○			
	保 健 師 科 目		◎	演習	1				○					
			◎	講義	2				○					
			◎	演習	1							◇		
			◎	実習	1						○			
			◎	実習	4							◇		
	助 産 師 科 目		☆	講義	2			○						
			☆	演習	1				○					
			☆	演習	3							◇		
			☆	講義	1							◇		
			☆	実習	8							◇		
	統 合			講義	1			●						
				講義	1				●					
				講義	1				●					
				講義	1				○					
			☆	講義	1						○			
				演習	3					●				
				講義	1						●			
				演習	1						●			
			演習	3							●			
			実習	2							●			
専門科目必修単位数				74	2	8	14	13	8	20	4	5		
必修単位数合計				112	13	18	24	18	10	20	4	5		
履修登録できる単位数の上限				167	48		47		39		33			
☆助産師国家試験受験資格必修科目				◎保健師国家試験受験資格必修科目				*養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目						

(2) 各領域の教育活動

領域名	基礎看護学
担当教員	宮島多映子, 小林道太郎, 土肥美子, 川北敬美, 二宮早苗, 赤崎美美
担当科目	くらしの中の倫理, 哲学, キャリアマネジメント, 国際言語文化, 情報リテラシー, 医療倫理学, 原著講読, 看護学概論, 日常生活援助技術, 看護アセスメント, 治療過程に伴う援助技術, 看護管理, 基礎看護学実習 I, 基礎看護学実習 II, 卒業演習, 統合看護学実習
現状の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしの中の倫理, 哲学, 医療倫理学では基本事項を講義した. 国際言語文化ではドイツ語の入門と歴史・文化について論じた. 原著講読では英語論文を読んだ. 情報リテラシーは前半の大学で学ぶことに関する導入と PC 操作を担当した. ・看護学概論では, 看護の歴史, 看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」の関係性, 看護活動の場, 看護倫理等について教授した. ・キャリアマネジメントでは, 社会人基礎力, 看護職のキャリア等を講義した. ・看護アセスメントでは, 腰椎椎間板ヘルニアの患者事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した. ・日常生活援助技術および治療過程に伴う援助技術では, 密を避けるため, 講義はハイブリッド型授業で, 演習は学生を半分に分け同じ演習を 2 回実施した. フェイスシールドを着用して演習を行ったが, 口腔ケアなど唾液が飛散する演習は, 遠隔演習を実施した. 日常生活援助技術のみ, 看護部指導者の協力を得て実施した (治療過程に伴う援助技術は緊急事態宣言中であり、見送った). ・基礎看護学実習 I・II では, マスクとアイシールド着用し, 実習を行った. COVID-19 による延期や中断なく, 予定通りの実習を実施した. ・卒業演習では教員 1 名が 2~3 名の学生を担当し卒業論文を作成した. 12 月の発表会はハイブリッド型で行い, 各人の発表に対し活発な意見交換を行った. ・統合看護学実習では, 当初予定していた緩和ケア病棟での実習が不可となったため, 三島南病院に変更した. 第 2 東和会病院と合わせて, すべての学生が臨地実習を展開し, 実習終了後は OSCE にて看護実践能力を評価した.
点検評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 <ul style="list-style-type: none"> ・統合看護学実習は COVID-19 により, 実習病院の変更があったが, 病棟実習終了後の OSCE により, 学生自らの臨床技術の習得度の確認や課題が明確になった. ・オンラインであっても個人で完結する演習内容であれば指導可能であることが分かり, 新たな教授方法が広がった. 2. 改善すべき事項 <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の満足度が低下しているため, 各科目における教授方法の見直しが必要である. 今後も COVID-19 によるリモートと対面の授業の組み合わせが想定される. 思考を深め実践力につながる教授内容や方法を検討する.
将来に向けた発展方策 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニフィケーション体制のもと教育指導者と共に看護実践能力の育成に尽力する. 新カリキュラムで本領域の担当となるフィジカルアセスメントを含め, 学生の臨床技術の習得度を評価するため, 2 年生においても OSCE 導入を検討する.

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春, 寺口佐與子, 勝山あづさ
担当科目	成人看護学概論, 急性期成人看護援助論, 急性期成人看護学援助方法, 急性期成人看護学実習, 統合実習, 卒業演習, 災害看護論
現状の説明	急性期成人看護学領域では 1 年生の時に成人看護学概論で成人を対象とする一般的な概念や理論を学習する。2 回生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の概念と理論を学び, 身体的心理的社会的な看護問題とその介入について学習する。3 回生前期に急性期成人看護学援助方法で, これまでの既習の知識を活用し, 事例をもとに急性期にある患者(手術を受ける患者)の看護計画を立案し, 周術期に沿ってロールプレイ演習を行いながら, 具体的な看護介入方法を学ぶ。後期に急性期看護学実習で手術を受ける患者を通して, 生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し, 実行し, 評価することで, 急性期看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。また, 選択科目の災害看護論では今年初めて自衛隊の第 37 普通科連隊から災害時の応急処置や搬送についての実技指導を受けた。4 回生の統合実習では 1~3 回生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て, 超急性期看護について学ぶ。また, 興味のあるテーマについて卒業演習で取り組み, まとめて論文とし, 発表まで実施する。
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について, 講義, 演習, 実習と「命を守る」ための一貫した内容を教授し続けることで, 急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象, アセスメント, 看護ケアを学ぶことができています。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 1, 2 回生で「生命の危機的状況」にある対象のアセスメントが難しいため繰り返しの知識の定着を図ることと, その応用について決して暗記ではない事例を通して理解させる必要がある。この知識の定着ができていないと, 3 回生以降の演習や実習での急性期の看護過程の展開は難しいと感じてしまい, やる気が出さなくなる可能性があるため, 根気よく指導する必要がある。</p> <p>2) 演習の看護問題抽出を多角的にとらえることができるように, 必要な基礎知識とその応用ができるように絶えず学生に問いかけ, 指導していく必要がある。</p> <p>3) 実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や, 患者入院期間の短縮に伴い, 心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ, 早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	現象を自信の持っている知識に照らし合わせて「言語化」することで学びはより深くなる。そのために, 演習, 実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に開き, 「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる。

領域名	慢性期成人看護学
担当教員	田中克子, カルデナス暁東, 柴田佳純
担当科目	成人看護学概論, 慢性期成人看護学援助論, 慢性期成人看護学援助方法, 慢性期成人看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>講義演習科目では, コロナ対策のためリモートと対面の両方の方法で授業をおこなった。「概論」では, 援助論, 援助方法, 実習に関連できるようにライフステージ, 健康レベルにおける身体・社会・精神的特徴が理解できるように授業を展開した。「援助論」では, 病期の特徴と発症頻度を考慮して代表的な疾患事例を用いて, 成人期の主な病気の成因・症状・治療と看護援助の関係が理解できるように中間にまとめの時間も設けた。「援助方法」では, 教員が作成した事例展開と看護援助方法の演習資料を用い, 事例展開と技術演習を含む講義・演習を行った。考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて, 学生の創意工夫の視点を重視し, 双方向にできるように授業を展開した。また, 複数の課題のある看護援助を考えるために視力障害のある人を対象とした技術試験を実施した。「領域実習」は, 継続看護の理解を深めるために, 今年度附属病院(2単位)では4つの病棟と三島南病院(1単位)の病棟で, 原則として一人の受け持ち患者を担当し, 対象者とその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて, 慢性期看護学の特質を考察できることを重視した実習を展開した。広域統合実習は, 学生の各自の実習テーマに応じて行った。「卒業演習」は, 教員が2-4名の学生を受け持ち, 学生がテーマに応じて文献検討を行い, 論文を作成した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>コロナ禍においても独自に作成した臨地実習でよく体験することを前提とした事例の演習資料に基づき, 学習課題, 講義, 実技演習, 実習と体系化したことは学習を創意工夫し, 深める上で効果があったと考える。中間のまとめや自主参加の技術等の自己練習の時間を設けたことは再試験対象者が7名と少なかったことから効果的であった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>コロナ禍にある中でリモートと対面の授業の組み合わせが想定される。思考を深めるために授業内容や方法も工夫をしていきたい。「実習」は, 学生個々の学習の進捗と学習の到達度に対応して指導を行うが, 体験を通じて学ぶことが多いので, 受け持ち患者の選定や学習の個々の能力, 指導体制に関して今後も工夫が必要と考える。倫理的課題に関しても理解を深めるようにカンファレンスを充実させていきたい。</p>
将来に向けた 発展方策 ・課題	<p>毎回の授業を大事にして, 関連知識・技術を統合的に活用して, 病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め, その特質を理解できるように科目間, 学習課題間を系統的に焦点化して計画する。特に実技試験に関しては授業以外に, 教員が積極的に指導する時間を設けたことが効果的であったと考える。今後, 学生の体験, 自律性を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である。事例の倫理的課題, 意思決定に関しても理解を深め, 自己の意見が言えるようにカンファレンスなどで積極的に取り上げていきたい。</p>

領域名	老年看護学
担当教員	久保田正和, 樋上容子, 柚木佐知子
担当科目	老年看護学概論, 老年看護学実習Ⅰ, 老年看護学援助論, 老年看護学援助方法, 老年看護学実習Ⅱ, 看護実践と理論の統合, 統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、「講義演習科目」では、対面授業とオンライン授業を併用して行ったが、授業資料の事前配布と事前課題を増やすなど学生が主体的に授業に取り組めるよう工夫した。「実習Ⅰ」では、新型コロナウイルスの影響で例年より施設利用者が少なく、学生は高齢者と関わる機会が減ったが、積極的に高齢者とコミュニケーションを取り、老年期の発達の特徴や健康維持・向上を目指した看護援助への理解を深めた。「演習科目」では、感染予防に留意し学生を分散させ、グループワークを中心とした実技演習や事例展開を行った。「実習Ⅱ」は、一部老健施設での実習が中止となり、学内で多職種連携の場면을動画視聴しイメージした後、グループワークやディスカッションを行い、実際の場면을想定した思考を深めることができた。大学病院での実習でも一部病棟で途中から病棟実習が中止となったが、カルテより患者の経過を把握しながら学内で模擬患者を用いて看護実践を補った。展開が早い中でも加齢性変化を念頭に置き、退院後の生活を見据えた看護の重要性を学ぶことができた。「実践と理論の統合」では、個々の学びをグループディスカッションすることで、他学生と学びを共有できた。「統合看護学実習」は、学生が立案した実習計画のもと主体的に実習を進めることができた。「卒業演習」では、学生の関心のあるテーマに沿い計画的に進め、事例研究や文献研究などを行い、卒業論文としてまとめ、学内発表を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項： 前年度の授業（実習）評価を踏まえ、講義や演習ではグループワークを中心に学生が主体的に取り組める内容を増やした。今年度は新型コロナの影響があったが、オンラインでもスムーズにグループワークを行うことができ、学習効果は高かったと考えられる。また、実習では昨年度の評価から記録用紙をマイナーチェンジし、記録の質を向上させることができたと考える。</p> <p>2. 改善すべき事項： 次年度もオンライン講義があるため、教材や動画の活用、事例検討演習を増やすなど、授業方法の工夫を継続して行う必要がある。 老年看護学実習の場所は病棟や施設によって違いがあるため、いかにしてそれぞれの学生の学びを共有できるか工夫する。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>「実習Ⅱ」では、今年度まで看護展開実習を附属病院で行い、急性期病院における老年看護学について学びを深めた。しかしながら、現在の老年看護学において最重要テーマである認知症看護を学ぶ機会が少なかったため、次年度より多機能型のケアミックス病院と老健施設で看護展開実習を行う。本領域の方針として第一に認知症看護の実践を学ぶことに重点を置く。また、外部での実習が増えるため、外部の実習指導者と学生フォローアップ体制として密に連携し、効果的な実習となるよう調整をはかる必要がある。</p>

領域名	小児看護学
担当教員	竹村淳子, 山崎 歩, 倉橋理香
担当科目	小児看護学概論, 小児看護学援助論, 小児看護学援助方法, 家族看護学, 小児看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習 (小児), 卒業演習
現状の説明	<p>今年度は、全般的に COVID-19 感染拡大により、授業形態はオンデマンド・オンライン・対面と課題学習の組み合わせで実施した。「小児看護学概論」は、従来実施していた院内保育室見学が中止となったため、子どもの発達について行動面について授業内容を補強した。「小児看護学援助論」では、小児期特有の疾患の理解と小児の症状や処置についてイメージしやすいよう視聴覚教材を効果的に用い講義を展開していった。「小児看護学援助方法」では、学生が主体的に看護過程の展開を行うとともに、感染予防に努めながら看護技術演習の授業を検討し実施した。</p> <p>「家族看護学」は、学生の看護に関する基本的知識をベースに、家族をとらえるための理論と実践事例の展開を行った。</p> <p>領域実習では小児病棟と NIUC 病棟の 2 か所および病院実習後の小中学校・特別支援学校実習を合わせて「小児看護学実習」とし実習を展開した。病棟実習は全ての学生の実習時間を確保できた。学校実習では 2 校から受け入れ不可となったため、学内演習で養護教諭の役割および学校での健康障害を想定した演習を実施した。「看護実践と理論の統合」の事前演習では、各々病棟の特徴に合わせた事例に関する実技演習を実施し学生の準備性を整えた。「統合看護学実習 (小児)」では、covid-19 感染拡大により実習生受け入れ不可の施設があったため、一部、大阪医科大学付属病院に協力を依頼し、65 病棟と NICU および院内保育室での実習に変更した。施設変更はあったものの、看護マネジメントの視点に重点をおいた実習を展開し、実習後に実習施設指導者を招いて発表会を実施した。「卒業演習」では、8 人の学生が個々関心からテーマを絞り文献研究を実施していくプロセスを学ぶことができた。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>今年度は授業形態が多様となったため、新たな授業ツールを使用することができた。また、授業評価から視覚教材の使用についてもイメージをもちにくい小児領域では理解の深まりにつながっていた。領域実習の時間が確保できたことで多くの学生が子どもの年齢や状況に応じた看護技術を実践することができていた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>感染対策として、対面授業が困難な場合における技術演習授業について、学生個々の実技の確認について検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>「統合看護学実習」において、難病キャンプへの参加を予定している。従来の実習形態と異なる点が多いため、多職種連携や家族へのかかわり等新しい学びの成果を見出すことができる。</p>

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子, 竹 明美, 宮川幸代 (令和2年9月末まで), 近澤 幸
担当科目	セクシュアリティと看護, リプロダクションと看護, 母性看護学概論, 母性看護学援助論, 母性看護学援助方法, 母性看護学実習, 助産学概論, 助産診断・技術学 I, 助産診断・技術学 II, 助産管理, 助産学実習, 看護実践と理論の統合, 卒業演習, 統合看護学実習
現状の説明	<p>講義科目では, 新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し, 対面とオンライン授業を行った。講義の冊子体資料を前半と後半に分け配布した。最新の国家試験出題傾向を分析し, 教育に活用した。また, 15 回開講の科目のうち 2 科目において期末試験, 小テストの他, 中間試験を行った。</p> <p>演習科目では, 実践的演習をめざし, オリジナルのアセスメントツール, 実践的模擬事例, 教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした。また, 助産診断・技術学 II では, シミュレーション教育を行った。</p> <p>実習では, 実習施設との連携, 教育設備の充実, 教材整備・教材開発, 医学部・附属病院看護部との連携により, 基本的な看護実践能力の育成を行った。さらに周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み, 施設と地域の切れ目ない支援の視点を持てるようにした。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>前年度の学生の授業評価をふまえ, また, コロナ禍に臨機応変に対応しながら講義・演習内容の改善を行うことができた。試験では期末試験, 小テストの他, 中間試験を導入し, 形成的評価を行った結果, 平均点が増加した科目と減少した科目がみられた。助産学実習においては, 9 月末までに 7 名全員が分娩介助実習を終了することができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>次年度も, 対面とオンライン講義による小テスト・中間テストや練習問題, 予習課題, 反転授業, 復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。2021 年度の助産師国家試験受験資格選抜は 6 名を選抜した。2021 年度はコロナ禍の影響を受けさらに出産数の減少が予想されている。10 例程度の分娩介助例数を確保できない可能性もあるため, 事例展開などによる教育の質の担保を行っていく。また, 引き続き実習施設の確保が課題である。さらに, 周産期医療・地域母子保健関連の課題, 2022 年度のカリキュラム改正をふまえ, 施設と地域の切れ目ない支援の視点の強化を次年度も継続していく。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>視覚支援教材などの積極的活用, 学生の習得状況を丁寧に確認し, 看護実践力を育成する。各学生が, 確実な知識・技術習得に加え, 生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する。</p> <p>助産師基礎教育に関する国内外の状況をふまえ, 大学教育における助産学教育のあり方について検討する。新規も含めた助産学実習施設確保のための努力を行っていく。</p>

領域名	精神看護学
担当教員	荒木孝治, 瓜崎貴雄, 山内彩香
担当科目	人間関係論, 精神看護学概論, 精神看護学援助論, 精神看護学援助方法, 精神看護学実習, 看護実践と理論の統合, 統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>講義演習科目は COVID-19 対策のため, 遠隔と対面授業を行った。「概論」では精神看護の基本概念と精神医療の歴史と法制度, リエゾン精神看護などを, 「援助論」では統合失調症や気分障害といった精神疾患とその看護に関する基本的知識を教授した。「援助方法」では統合失調症やうつ病などの事例を用い, セルフケア理論に基づいて看護過程を展開して, 入院中あるいは地域で生活する精神障がい者への看護の方法を教授した。「卒業演習」では計 8 名を担当し, 学生の関心に沿って文献研究を指導した。</p> <p>実習科目は, 実習内容を修正して実施した。「精神看護学実習」は今年度より, 附属病院精神神経科病棟で 1 週間, 精神科訪問看護ステーションで 1 週間の実習とし, 病院から地域へと続く, 生活を中心に据えた切れ目のない看護の視点を養えるようにした。「統合看護学実習」では, 単科精神科病院のデイケアと病棟で, 精神科リハビリテーション, 看護管理, 医療安全といった包括医療の視座を盛り込んだ実習展開とした。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>講義演習科目では, コロナ禍で制限がある状況のなか, ロールプレイや視聴覚教材の活用など教授方法を工夫して実施した結果, いずれの科目の授業評価においても 9 割以上の学生から, 「学習目標を達成できた」「この分野への興味・関心が高まった」との回答を得た。実習科目では, 個別に事例検討を行い, 既習の精神看護学関連科目の学習内容と照らしつつ指導した結果, 学生は患者に関心を向け続け, 患者の生活歴や強みを踏まえた看護について考えることができた。授業評価で 9 割以上の学生が「実習目標を達成できた」「看護(観)を深める機会になった」と回答し, 「退院後の生活を想像しやすくなった」といった意見も得られた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>講義では学生が基本的な知識を習得できるように, 引き続き教授方法の工夫をはかっていく必要がある。演習ではコロナ禍の状況を考慮して, 学生同士で学びを共有できるように課題設定や運営方法を検討する必要がある。実習では, 学生が実習ポートフォリオに記した個人目標が達成できるように, 実習計画の立案, 看護場面の振り返りなど, より具体的に指導していく必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>精神障がい者の地域生活を支えることについて, 学生は実習の経験を通し, その課題の重要性に気づいていたが, 既習の知識を活用して具体的な援助方法を考えることができるように, 授業内容や教授方法を工夫していく必要がある。</p>

領域名	在宅看護学
担当教員	真継和子, 佐野かおり, 大橋尚弘
担当科目	在宅看護学概論, 在宅看護学援助論, 在宅看護学援助方法, 在宅看護学実習, 看護実践と理論の統合, 統合看護学実習 (在宅), 卒業演習, 家族看護学, 医療カウンセリング
現状の説明	<p>COVID-19 感染拡大により, 授業はオンデマンドと課題学習, 双方向型 Web. 授業, 対面授業の組み合わせで実施した。「在宅看護学概論」の大半はオンデマンド授業となったことから, 授業に対する学生からのコメントに対し丁寧に回答することを心がけるとともに, UNIPA 上の Moodle を活用し学修内容の補充を強化した。一方, 視聴覚教材や訪問看護師による実践紹介などによる在宅看護のイメージ化, ディスカッションによる社会資源の理解には課題が残った。「在宅看護学援助論」では視聴覚教材を活用し在宅における医療的処置についてのイメージ化をはかるよう展開した。また, 演習は 2 クラス制として少人数で実施した結果, 通常よりも学生の主体的参加につながった。「在宅看護学援助方法」では, ロールプレイングなど実践的な試みはできなかったものの, アセスメント力を深めるため Web. 上でのディスカッションと個別指導を強化し, 領域別実習に繋がるように展開した。「在宅看護学実習」は, 感染拡大のため実習内容の制限があったり, 受け入れ不可となったりした。特に後半 2 グループは学内実習となったものの, 実習施設の協力により受持ちケースの紹介, アセスメントや看護計画に関するカンファレンスや学内での模擬訪問の実施と振り返り, 視聴覚教材の効果的活用により, 学生のアセスメント力や看護ケアの実践力強化, 多職種連携の理解が深められるよう展開した。3 月には実習施設と Web 会議システムを活用し実習報告会を実施した。COVID-19 禍における学内実習の状況を共有することかできたと同時に, 実習施設側と大学側の役割やそれぞれが強化すべき点が明らかになった。</p> <p>「統合看護学実習 (在宅)」は 8 名が選択し, 直接的ケアの実施にあたり制限はあったものの, 訪問看護ステーションでの実習を行うことができた。例年実施している高知県での多職種連携地域医療実習は中止となった。「卒業演習」では, 学生の関心からテーマを絞り込み文献研究を実施し, 論文作成, 学内発表ができた。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>オンデマンドなど新たな授業ツールを有効活用できた。実習では模擬訪問の実施や振り返りの強化などにより, 学生個々の課題が明確にできた。COVID-19 禍においても実習施設との連携強化により学生の課題に沿った対応が実施できた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>感染予防対策をした上での学内演習及び実習方法の検討, また, 学内実習におけるマンパワーの確保, 実習評価のあり方の検討が必要である。</p>
将来に向けた発展方策 ・課題	<p>多種多様な授業ツールを有効活用しながら, 在宅看護への関心が高められるよう早期体験学習を含む講義, 演習, 実習の展開方法を検討していく。他領域との学習内容の重なりを整理し, 教授内容の精選をはかる。</p>

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子, 土手友太郎, 草野恵美子, 仲下祐美子, 山埜ふみ恵, 山本暁生
担当科目	必修: 保健医療福祉概論, 情報リテラシー, 統計学, 公衆衛生学・疫学, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護学活動論, 公衆衛生看護学実習Ⅰ, 統合看護学実習(公衆衛生看護学領域), 卒業演習 選択科目: 大阪を学ぶ, 暮らしと社会・環境, 公衆衛生看護学活動方法, 公衆衛生看護学管理論, ヘルスプロモーション論, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習Ⅱ, 災害看護論
現状の説明	講義は COVID-19 感染拡大により, 4 月は課題学習, 5 月はオンデマンドと課題学習, 6 月からハイブリッド型や対面授業, 後期は対面授業となった. オンデマンドは, 掲示する内容に限界があるため, 内容を厳選することになったが, 学生は繰り返して聞くことができ理解が深まる等良い面の意見があった. 「公衆衛生看護学活動方法」では健康教育の企画, 実施について, Web の双方向授業で教員が個人対応を行い, 対面授業が可能になった時点で希望者による発表会を実施した. 「公衆衛生看護学管理論」の地域診断演習は 3 回まで個人課題, その後グループ作業を行うことでお互いの視点を学び分析が深まっていた. 「公衆衛生看護学実習Ⅰ」は学生 40 名が履修し, COVID-19 感染拡大のため 8 月に実習を延期して実施した. 「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の履修者は 38 名であり, 7 グループに分かれて実習を行った. 実習地は, 守口保健所と守口市, 枚方市, 堺市中保健所, 兵庫県宍粟市(波賀町, 一宮町), 兵庫県赤穂市, 兵庫県神崎郡神河町であった. COVID-19 感染拡大により予定施設の臨地実習期間は, 遠隔地では 8 日間, 大阪府内は 9 月から 3 日間となった. そのため, ハイリスク母子, 結核, 高齢者, 災害看護等の事例検討の学内実習を行うとともに, 大阪府内の実習グループでは, 代替実習地として子育て総合支援センターや高齢者主体の介護予防活動等に参加し, 健康教育も実施した. 今年度から開始した当領域の「統合看護学実習」は 13 名が履修し, 学生は主体的に実習課題を設定して, 社会福祉協議会と地域包括支援センターで実習し, 最終日には発表会にて学びを共有した. 「卒業演習」は 12 名の学生が研究テーマを設定し, 論文作成と研究発表を行った.
点検評価	1. 効果が上がっている事項: 統合看護学実習では学生自身が課題を持ち, 主体的に取り組んだ. 社会福祉協議会の実習では住民の主体的な活動に参加し, 地域包括支援センターでは地域住民の健康課題を解決するための方法を学び, 今までの実習を統合し深く考察できていた. 実習指導者の熱心な指導も学生の心情に響くものであった. 2. 改善すべき事項: COVID-19 の感染拡大に対応した講義や演習内容の検討と臨地実習期間の制限がある中での効果的な体験学習の検討.
将来に向けた発展方策・課題	統合看護学実習の時期は, 公衆衛生看護学実習Ⅱの実習時期との兼ね合いで 11 月後半となっている. そのため, 卒業演習や国家試験の準備のことを考慮すると少しでも早期の実習期間を考える必要がある. 調整して体制づくりを検討する.

領域名	看護実践発展
担当教員	鈴木久美, 池西悦子, 津田泰宏, 府川晃子, 土井智生
担当科目	健康科学概論, 病気の診断, 病気の治療, 病気の成り立ち, からだの仕組みと働きⅡ, がん看護学総論, チーム医療論, 看護研究法, 看護教育, 看護と生体診断法, 看護実践発展総合演習, 看護実践発展実習, 統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>「健康科学概論」は一部オンラインとなったが、講義とグループ学習の形で授業を行った。「病気の診断・治療Ⅰ, Ⅱ」もオンラインやハイブリッド形式となったが、中間と最終日に「まとめ」を入れて要点が身につくよう工夫した。「病気の成り立ち」「からだの仕組みと働きⅡ」も同様であったが、冊子を配布し随時記入する形式の授業を行なった。「フィジカルイグザミネーション」では三密を避けつつ、予定通り演習と実技試験を実施した。「がん看護学総論」では授業後に学生からの授業の感想や質問を募り、フィードバックを行うことで疑問点を解消した。「チーム医療論」はアクティブラーニングを取り入れ、学生の理解の促進に努めた。「看護研究法」は理解度確認の課題提示と解説を行い、理解を促す工夫をした。「看護教育」は事前課題による準備性向上と小レポートの多様な意見を紹介し内省を促した。「看護と生体診断法」は、講義及び事例を用いた演習で展開し、オンライン授業を行った。「看護実践発展総合演習」では複雑な疾患の事例を分析し、学生はそれぞれ患者に必要なケアについて学びを深め、相互にオンラインでの解説講義と技術演習での指導を行った。「看護実践発展実習」では重症度やケア度の高い患者を受け持ち、判断力や実践力を強化する実習を行った。「統合看護学実習」と「卒業演習」では11名の学生を受け入れ、学生の関心に沿ってテーマを決めて取り組み、Zoomでのオンライン形式で成果発表会を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>授業は概ね学生の主体的な学びを推進できたと考える。前期はオンライン授業が中心であったが、学生はその利点を活かして学習に取り組んでいた。「がん看護学総論」では多くの学生から、事前課題の自己学習を行うことで授業での学びが深まったという評価が得られた。「看護実践発展実習」では、学生は自己の課題を意識し、積極的に看護実践力を高められていた。「統合看護学実習」および「卒業演習」は、学生の関心を尊重し、学生自らが目標を立て主体的に取り組めた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「病気の成り立ち, からだの仕組みと働きⅡ」は専門科目の基礎となる重要な科目であるため、小テストやアンケートを組み込んで理解の状況を確認していく。「病気の診断・治療Ⅰ, Ⅱ」は範囲が広いので、オムニバス担当教員と連携を密にして要点を明確化する。「がん看護学総論」では授業の内容や課題が多かったという学生からの意見を踏まえ、さらに内容を精選するよう努める。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>本年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、Zoomを用いたオンライン授業やMoodle等のシステムの活用が求められた。今後も学習環境に沿って最適な教授方法、学習に必要な資料の提示方法などを検討し、積極的にICTを取り入れていく。</p>

Ⅲ. 看護学研究科

1. 教員組織

1) 教員構成および教員数

2021年3月31日現在

【看護系教員】

領域	専門分野	教授	准教授	講師	助教
実践 支援看護学	看護教育学	1			
	看護技術開発看護学	1	1	1	
療養生活 支援看護学	移植・再生医療看護学	1	1		
	がん看護学	1	1		
	慢性看護学	1	1		
	精神看護学	1	1		
	老年看護学		1	1	
地域家族 支援看護学	母性看護学	1		1	
	小児看護学	1	1		
	地域看護学	1	2		
	在宅看護学	1		1	1
計		10	9	4	1

【医学系・人文社会系教員】

領域	教授	准教授	講師	助教
公衆衛生学	1			
内科学	1			
整形外科学	1			
哲学		1		
計	3	1	0	0

2. 年間事業

1) 年間事業活動内容

【看護学研究科】

看護学研究科では表に示すように大学院委員会が年間計画を立案し、教育および研究の向上を目指し事業を実施している。2020年度に実施した主な事業を報告する。

(1) 教育活動について

教育活動に関しては大学院委員会が院生の教育がスムーズに展開できるように計画事項している。詳細は大学院委員会報告で述べている。

新型コロナウイルス感染症の影響で、講義、実習、研究計画発表会などリモートを用いて行い、年間計画通りに実施できた。

(2) 研究活動について

大学院生に個人研究費を配分しているが、これに加えて民間助成金への応募も活発に行われる

ようになってきている。

(3) 教育環境整備

新型コロナウイルス感染症のためにリモート講義ができる体制を整えた。

2020 年度看護学研究科年間計画

看護学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程全般の運営 2. 大学院組織体制の強化 3. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し 4. 大学院博士前期課程・後期課程定員枠の検討 5. 入学試験方式変さらに伴う試験方式の評価と入学試験合否基準の検討 6. 広報活動推進と受験者獲得のに向けた対策 7. FD の推進 8. 学習環境, 学生サービスの充実 9. 大学院運営力の強化 (教員と事務の連携強化)
看護学研究科大学院委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程全般の運営 2. 大学院組織体制の強化 3. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し 4. 大学院博士前期課程・後期課程定員枠の検討 5. 入学試験方式変さらに伴う試験方式の評価と入学試験合否基準の検討 6. 広報活動推進と受験者獲得のに向けた対策 7. FD の推進 8. 学習環境, 学生サービスの充実 9. 大学院運営力の強化 (教員と事務の連携強化)
看護学研究科カリキュラム委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラムの検討 2. ディプロマポリシー, カリキュラムポリシー, アドミッションポリシーの検討 3. アセスメントポリシーに沿った学修成果の評価
看護学研究科カリキュラム評価委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育目的・目標, 各種ポリシーの評価 2. カリキュラムの評価 3. 各種ポリシーに沿った評価を実施

2) 2020 年度看護学研究科予算執行額

予算執行額 1,699,847 円 (予算額 220 万円)

「内訳」

予算額 200 万円 執行額 1,699,847 円 (看護学研究科設置経費 (入試, 入試・教育要項作成, 学生証, 実習費, 申請業務費用等))

予算額 10 万円 執行額 0 円 (大学院特別講義)

予算額 10 万円 執行額 0 円 (大学院学院看護学研究科 FD ワークショップ)

3) 学生在籍数

【博士前期課程】

2020年5月現在

コース	専門分野	1年	2年	在学年限 延長他	合計
教育研究	看護教育学	1			1
	看護技術開発学		2		2
	移植・再生医療看護学	2	1		3
	がん看護学				0
	慢性看護学	1			1
	精神看護学	1	1		2
	老年看護学	1	1		2
	母性看護学	1	1		2
	小児看護学		1		1
	地域看護学				0
	在宅看護学	1	2		3
高度実践	がん看護学	1	1		2
	慢性看護学				0
	精神看護学				0
	老年看護学	1			1
	母性看護学				0
	小児看護学	1			1
合計		11	10	0	21

【博士後期課程】

2020年5月現在

領域名	1年	2年	3年	在学年限 延長他	合計
療養生活支援看護学	3	3	7		13
地域家族看護学		2	3	2	7
合計	3	5	10	2	20

4) 学事一覧 (次頁)

2020年度 看護学研究科学事予定表

4 月 内 容		5 月 内 容		6 月 内 容		7 月 内 容		8 月 内 容		9 月 内 容	
日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜
1 水	1 金(院)金④	1 月 創立記念日	1 水	1 土(院)土⑤	1 火	1 水	1 土(院)土⑤	1 土(院)土⑤	1 火	1 土(院)土⑤	1 火
2 木	2 土	2 火(院)火⑧	2 木(院)木⑬	2 日	2 火(院)火⑧	2 木(院)木⑬	2 日	2 日	2 日	2 日	2 水
3 金	3 日 憲法記念日	3 水	3 金(院)金⑬	3 月	3 水	3 金(院)金⑬	3 月	3 月	3 月	3 月	3 木
4 土	4 月 びどりの日	4 木	4 土(院)土⑯	4 木	4 木(院)木⑨	4 土(院)土⑯	4 土	4 火	4 火	4 金	4 金
5 日	5 火 子どもの日	5 金	5 日	5 金	5 金(院)金⑨	5 日	5 日	5 水	5 水	5 土	5 土
6 月	6 水 振替休日	6 土	6 月(院)月⑫	6 月	6 土(院)土⑩入試説明会	6 月(院)月⑫	6 月	6 木	6 木	6 日	6 日
7 火	7 木(院)木⑤	7 日	7 火(院)火⑬	7 火	7 日	7 火(院)火⑬	7 火	7 金	7 金	7 月	7 月
8 水	8 金(院)金⑤	8 月	8 水	8 月	8 月(院)月⑧	8 水	8 水	8 土	8 土	8 火	8 火
9 木	9 土(院)土④	9 火	9 木(院)木⑭	9 火	9 火(院)火⑨	9 木(院)木⑭	9 木	9 日	9 日	9 水	9 水
10 金	10 日	10 水	10 金(院)金⑭	10 水	10 水	10 金(院)金⑭	10 金	10 月	10 月	10 木	10 木
11 土	11 月(院)月⑤	11 木	11 土(院)土⑱	11 木	11 木(院)木⑩	11 土(院)土⑱	11 土	11 火	11 火	11 金	11 金
12 日	12 火(院)火⑤	12 金	12 日	12 金	12 金(院)金⑩	12 日	12 日	12 水	12 水	12 土	12 土
13 月	13 月(院)月②	13 水	13 月(院)月⑬	13 土	13 土(院)土⑨	13 月(院)月⑬	13 月	13 水	13 水	13 日	13 日
14 火	14 木(院)木⑥	14 木	14 火(院)火⑭	14 日	14 日	14 火(院)火⑭	14 火	14 金	14 金	14 月	14 月
15 水	15 金(院)金⑥	15 月	15 水 高度実践コース実習報告会	15 土	15 月(院)月⑨	15 水 高度実践コース実習報告会	15 土	15 土	15 土	15 火	15 火
16 木	16 土(院)土⑤	16 火	16 木(院)木⑮	16 日	16 火(院)火⑩	16 木(院)木⑮	16 日	16 日	16 日	16 水	16 水
17 金	17 日	17 水	17 金(院)金⑮	17 月	17 水	17 金(院)金⑮	17 月	17 月	17 月	17 木	17 木
18 土	18 月(院)月⑥	18 木	18 土(院)土⑱	18 木	18 木(院)木⑪	18 土(院)土⑱	18 火	18 火	18 火	18 金	18 金
19 日	19 火(院)火⑥	19 金	19 日	19 金	19 金(院)金⑪	19 日	19 水	19 水	19 水	19 土	19 土
20 月	20 水	20 土	20 月(院)月⑬	20 土	20 土(院)土⑩	20 月(院)月⑬	20 木	20 木	20 木	20 日	20 日
21 火	21 木(院)木⑦	21 日	21 火(院)火⑮	21 火	21 日	21 火(院)火⑮	21 金	21 金	21 金	21 月	21 月
22 水	22 金(院)金⑦	22 月	22 水 看護学研究科教授会 15:00	22 水	22 月(院)月⑩	22 水 看護学研究科教授会 15:00	22 土	22 土	22 土	22 火	22 火
23 木	23 土(院)土⑥	23 火	23 木(院)木⑮	23 火	23 火(院)火⑪	23 木(院)木⑮	23 日	23 日	23 日	23 水	23 水
24 金	24 日	24 水	24 金 看護学研究科教授会 15:00	24 月	24 水 看護学研究科教授会 15:00	24 金 スポーツの日	24 月	24 月	24 月	24 木	24 木
25 土	25 月(院)月⑦	25 木	25 土(院)土⑫	25 土	25 木(院)木⑫	25 土	25 土	25 火	25 火	25 金	25 金
26 日	26 火(院)火⑦	26 金	26 日	26 日	26 金(院)金⑫	26 日	26 水	26 水	26 水	26 土	26 土
27 月	27 水 看護学研究科教授会 15:00	27 土	27 月(院)月⑮	27 月	27 土(院)土⑪	27 月(院)月⑮	27 木	27 木	27 木	27 日	27 日
28 火	28 木(院)木⑧	28 日	28 火	28 火	28 日	28 火	28 金	28 金	28 金	28 月	28 月
29 水	29 金(院)金⑧	29 月	29 水(院)水⑪	29 水	29 月(院)月⑪	29 水	29 土	29 土	29 土	29 火	29 火
30 木	30 土(院)土⑦	30 火	30 木(院)木⑫	30 火	30 火(院)火⑫	30 木	30 日	30 日	30 日	30 水	30 水
31 日	31 日	31 日	31 金	31 金	31 日	31 金	31 月	31 月	31 月	31 月	31 月

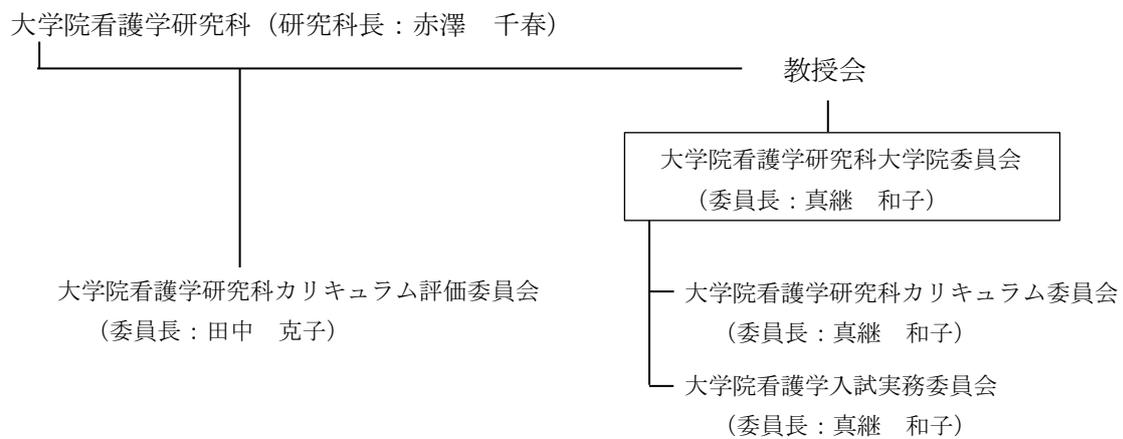
授業日程表の見方
 ・〇数字は、各曜日授業の回数を示します。
 ※各授業、特別研究、課題研究については、指導教授と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。
 ※月曜日・火曜日・木曜日・金曜日の授業科目については、時間割表を参照してください。

2020年度看護学研究科学事予定表

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	内容	日曜	内容	日曜	内容	日曜	内容	日曜	内容	日曜	内容
1 木	(院)木①	1 日		1 火	(院)火⑧	1 金		1 月	(院)月⑮ 博士修士口頭試験(最終試験)	1 月	
2 金	(院)金①	2 月	(院)月⑤	2 水		2 土		2 火		2 火	
3 土	(院)土①	3 火	文化の日	3 木	(院)木⑩	3 日		3 水		3 水	臨時看護学研究科教授会 (学位授与可否審議・授与)
4 日		4 水		4 金	(院)金⑩	4 月	(院)月⑫	4 木		4 木	
5 月	(院)月①	5 木	(院)木⑥	5 土	(院)土⑩	5 火	(院)火⑫	5 金		5 金	
6 火	(院)火①	6 金	(院)金⑥	6 日		6 水		6 土		6 土	入試説明会
7 水		7 土	(院)土⑥	7 月	(院)月⑨	7 木	(院)木⑭	7 日		7 日	
8 木	(院)木②	8 日		8 火	(院)火⑨	8 金	(院)金⑭	8 月		8 月	
9 金	(院)金②	9 月	(院)月⑥	9 水		9 土	(院)土⑭	9 火		9 火	
10 土	(院)土②	10 火	(院)火⑤	10 木	(院)木⑪	10 日		10 水		10 水	
11 日		11 水		11 金	(院)金⑪ 主査・副査推薦締切	11 月	成人の日	11 木	建国記念の日	11 木	
12 月	(院)月②	12 木	(院)木⑦	12 土	(院)土⑪	12 火	(院)火⑬	12 金	研究計画発表会	12 金	修士博士論文原本提出17:00
13 火	(院)火②	13 金	(院)金⑦ 論文タイトル締切	13 日		13 水		13 土	研究計画発表会	13 土	
14 水		14 土	(院)土⑦	14 月	(院)月⑩	14 木	(院)木⑮	14 日		14 日	
15 木	(院)木③	15 日		15 火	(院)火⑩	15 金	(院)金⑮	15 月		15 月	
16 金	(院)金③	16 月	(院)月⑦	16 水		16 土	(院)土⑮	16 火		16 火	
17 土	(院)土③ 解剖霊祭	17 火	(院)火⑥	17 木	(院)木⑫	17 日		17 水		17 水	
18 日		18 水		18 金	(院)金⑫	18 月	(院)月⑬	18 木	論文発表会	18 木	
19 月	(院)月③	19 木	(院)木⑧	19 土	(院)土⑫	19 火	(院)火⑭	19 金	論文発表会	19 金	
20 火	(院)火③	20 金	(院)金⑧	20 日		20 水		20 土	論文発表会	20 土	春分の日
21 水		21 土	(院)土⑧	21 月	(院)月⑪	21 木		21 日		21 日	
22 木	(院)木④	22 日		22 火	(院)火⑪	22 金		22 月		22 月	
23 金	(院)金④	23 月	勤労感謝の日	23 水	看護学研究科教授会15:00 (主査・副査の決定)	23 土		23 火	天皇誕生日	23 火	
24 土	(院)土④	24 火	(院)火⑦	24 木	(院)木⑬	24 日		24 水	看護学研究科教授会15:00 (博士・修士論文提出(正午迄))	24 水	看護学研究科教授会15:00
25 日		25 水	看護学研究科教授会15:00	25 金	(院)金⑬	25 月	(院)月⑯ 博士・修士論文提出(正午迄)	25 木		25 木	
26 月	(院)月④	26 木	(院)木⑨	26 土	(院)土⑬	26 火	(院)火⑮	26 金		26 金	学位授与式
27 火	(院)火④	27 金	(院)金⑨	27 日		27 水	看護学研究科教授会15:00	27 土		27 土	
28 水	看護学研究科教授会15:00 研究計画発表会	28 土	(院)土⑨	28 月		28 木		28 日		28 日	
29 木	(院)木⑤	29 日		29 火		29 金		29 月		29 月	
30 金	(院)金⑤	30 月	(院)月⑧	30 水		30 土		30 火		30 火	
31 土	(院)土⑤	31 木		31 木		31 日		31 水		31 水	

3. 運営と教育活動

1) 運営組織



2) 委員会

委員会名	(1) 看護学研究科大学院委員会
目的	看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。
構成員	真継和子（委員長）、田中克子（副委員長）、竹村淳子、津田泰宏、草野恵美子 小林洋樹（大学院課）、田中佑美（大学院課）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程全般の運営 2. 大学院組織体制の強化 3. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し 4. 大学院博士前期課程・後期課程定員枠の検討 5. 入学試験方式変更にとともなう試験方式の評価と入学試験合否基準の検討 6. 広報活動推進と受験者獲得のに向けた対策 7. FDの推進 8. 学習環境、学生サービスの充実 9. 大学院運営力の強化（教員と事務の連携強化） 10. 新型コロナウイルス感染症にとともなう対応
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催 16回の委員会（定例9回、臨時7回）を開催した。 2. 教育課程全般の運営 <ol style="list-style-type: none"> 1) 2020年度学事日程および時間割の調整 新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス感染症）の拡大による緊急事態宣言発令に伴い、文部科学省通達ならびに本学基本方針に基づき、院生の安全と学修の質保障の観点から、授業方法等に関する授業方針を検討、特に共通科目の時間割調整を行った。院生、常勤教員への周知、専門科目は科目責任者から非常勤・兼任教員への周知を依頼した。変更後のシラバスは、授業形態（対面、オンデマンド、Web）と変更内容を記載し、ホームページ上に掲載した。 さらに、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、研究計画発表会や中間発表会などの日時を変更しながら、学生への不利益や支障が生じないように実施した。 2) 新入生の科目等履修等による大学院授業科目の単位認定 大学および大学院学則に沿って、新入生1名の既修得単位の認定について審議を行った。 3) 新入生オリエンテーション 新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言下であったため、教育目的・目標、履修の流れ、学事予定と時間割、研究倫理教育研修の受講などに関するオリエンテーションを動画配信にて実施した。履修相談は随時受け付けた。 4) 特別研究（博士後期課程・博士前期課程）および課題研究の指導教員の調整 教員退職に伴う主指導および副指導教員の後任に関する選出方法を明確にする

	<p>とともに、一部の教員に偏りがいないか確認し対応することとした。</p> <p>5) 研究計画・中間発表会の開催</p> <p>新型コロナ感染症拡大により日程変更はあったが、以下のとおり実施した。</p> <p>(1) 博士前期課程 研究計画発表会：2020年10月28日(3名),2021年2月13日(6名)</p> <p>(2) 博士後期課程 研究計画発表会：2021年2月12日(3名)</p> <p>(3) 博士後期課程 中間発表会：2020年10月28日(2名)</p> <p>6) 学位論文発表会の開催</p> <p>(1) 博士前期課程 論文発表会：2021年2月18日(4名),19日(3名)</p> <p>(2) 博士後期課程 論文発表会：2021年2月20日(5名)</p> <p>7) 高度実践コース実習報告会の実施</p> <p>2021年2月12日に、1名の報告会を実施した。</p> <p>8) 2019年度博士後期課程修了者の学位論文要旨・審査結果要旨の公表</p> <p>2020年5月1日付けで、ホームページ上で公表を行った。</p> <p>9) 研究業績調査の実施</p> <p>6月に在学院生、修了生に調査依頼をし、主指導教員に最終確認を依頼した。カリキュラム委員会にてアセスメントポリシーの検討が行なわれた。教授会での審議を経て策定され、ホームページに公開した。</p> <p>10) 大学統合に伴う大学院研究科規定等の見直し</p> <p>2021年4月の大学統合に向け、各種規定の見直し、一部修正を行った。</p> <p>11) 博士前期課程入学予定者 補習授業の実施</p> <p>2021年度博士前期課程入学予定者を対象とする補習授業を、3月6日、13日の2日間にわたり実施した。Web.受講も可能とし、新入生8名全員の参加があった。</p> <p>12) ベスト・ティーチャー賞アンケートの実施</p> <p>ベスト・ティーチャー候補者の選考に関する要領に沿って該当教員を選出し、ベスト・ティーチャー細則にもとづき博士前期課程および博士後期課程の院生に2021年1月末に公示、2月に投票を実施した。</p> <p>13) カリキュラム表の見直し、作成</p> <p>履修科目選択のわかりやすさ、NP教育課程設置に伴う科目の変更などからカリキュラム表の見直しを行った。</p> <p>14) 大学院設置基準一部改正による学則の変更</p> <p>既修得単位認定の上限を10単位から15単位とし、他大学院等での既修得単位の認定に向けて検討し、単位認定に係る細則を策定した。</p> <p>15) 成績評価基準ならびに評点の見直し</p> <p>従来の4段階の評点を、「秀、優、良、可、不可」の5段階とし、成績評価基準の明文化、2021年度入学生からの適用を検討した。</p> <p>16) 履修登録期間の設定</p> <p>従来は随時受付をしていたが、受講生の確定および出席管理上の課題が生じて</p>
--	--

	<p>いたため、履修登録期間を Semester 毎に 1 週間の期間を設けることとした。</p> <p>17) 特別研究担当教員 担当基準の見直し</p> <p>医系および人文社会学系の教員が特別研究の主指導を担当するにあたっての基準について検討，設定した。</p> <p>18) 学位論文審査申請から学位論文提出までの課題の明確化と対応の検討</p> <p>3. 大学院組織体制の強化</p> <p>昨年度にカリキュラム委員会，カリキュラム評価委員会，入試実務委員会が設置され，各委員会が主体的に本格的な活動を開始し，大学委員会との連携を図りつつある段階である。カリキュラム委員会での審議事項は大学院委員会で報告され，教育課程運営に活用されてきている。また，入試実務委員会は大学院委員長と委員で構成され，入試に関する実務（スケジュール作成，作問依頼，入試問題のチェック，採点集計等）を集約して進めてきた。第三者をメンバーに加えたカリキュラム評価委員会との連携強化は今後の課題である。</p> <p>4. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し</p> <p>1) 教育目的・目標，各種ポリシーの検討</p> <p>大学統合に併せて他研究科との文言の調整を行った。3 ポリシーについては，2019 年度より検討してきた内容を検討，整理した。</p> <p>2) アセスメントポリシーPDCA シートのよる振り返りと課題提示</p> <p>カリキュラム委員会から提出された 2019 年度アセスメントポリシーPDCA シートについて検討した。課題について 2021 年度カリキュラムに反映できるよう具体的検討を進め，成績評定基準の設定，収容定員の据え置き等を決定した。</p> <p>3) 高度実践コース プライマリケア看護学ナースプラクティショナー設置準備</p> <p>外来看護・在宅看護への貢献の観点から，2021 年 4 月の開設をめざし，高度実践看護師・ナースプラクティショナー（NP）の申請準備を進めた。7 月に設置申請，2021 年 2 月に認可を得た。</p> <p>5. 博士前期課程・博士後期課程定員枠の検討</p> <p>博士後期課程の収容定員増加に係る認可申請の検討を行った。定員増加に伴う教育の質担保，修業年限内での修了率，教員への負担を考慮し，収容定員増加ではなく，まずは集合年限内での修了支援を強化していくこととした。</p> <p>6. 入学試験の実施と評価，入学試験方式変更にともなう試験方式の評価と入学試験合否基準の検討</p> <p>1) 入学試験要項の見直し</p> <p>ポリシーやカリキュラム変更に伴う記載事項の加筆修正，願書提出時の必要書類の見直しをはかった。また，願書様式について記載漏れがないよう見本を示した。</p> <p>2) 2021 年度大学院入試 資格審査の実施</p> <p>出願資格審査基準に沿って，申請者 5 名の審査を実施した。</p> <p>3) 入学試験の実施</p>
--	--

2020年9月19日、文科省のガイドラインに沿った感染予防対策を講じた上で実施した。

4) 口述試験の評価方法の見直し

博士前期課程教育研究コースでは、該当分野教員は面接担当からは外されていたが、事前相談なしで入学するケースが発生し入学後の学業進行に影響していることから面接官の選出について検討し、該当分野の教員が担当することも可能とした（ただし責任者にはなれない）。また、博士後期課程における口述試験の評価の妥当性を確保するため、3段階評価、点数配分を設定した。

5) 入学試験の評価

入試問題の難易度については専門分野間での得点差の偏りもなく、例年同様の難易度が担保できていることを確認した。博士後期課程は口述試験の評価基準を変更したが特に大きな問題は生じなかった。両課程とも定員通りの入学者を確保できた。

7) 科目等履修生の募集

大学院学則に沿って科目等履修生の募集を2020年7月、2021年1月に実施し、2020年度後期は4名、2021年前期は5名の受講が決まった。

7. 広報活動推進と受験者獲得の向けた対策

1) 入学者用パンフレット・リーフレットの見直し、作成

2021年度版では内容構成や写真等を新たに更新するとともに、2021年度開講予定であった高度実践コース ナースプラクティショナー（以下、NP）教育課程の紹介を掲載した。さらに、2022年度版は、引き続きNP紹介ページを掲載するとともに、変更事項や写真の更新などを行っていく予定である。

2) 入試説明会・個別相談会の実施

新型コロナウイルス感染症拡大により通常の対面型での開催を極力控え、オンデマンド形式による入試説明と領域紹介、修了生による大学院紹介を実施し、2020年5月よりホームページ上での動画配信を行った。さらに、Web会議システム（Zoom）による個別相談ならびに、感染予防対策を講じた上での予約制対面式個別相談を実施した。また、Webによる個別相談は随時、受け付けた。

(1) 第1回個別相談：2020年7月4日（土）対面式27名

(2) 第2回個別相談：2021年3月6日（土）対面式10名、Web.式1名

3) ホームページの更新

随時ホームページ更新を実施し、情報発信に努めた。

8. 国際交流FD講演会の開催

看護学部看護実践研究センターとの共催で、2020年12月21日（月）に国際交流FDオンライン講演会を開催した。「飛び立て看護の卵ー海外で活躍する看護職よりー」をテーマに、米国でNursing Practitioner（以下、NP）として活躍する儀宝由希子先生にオンラインにてご講演頂き、学部生82名、教員・大学院生10名が参加した。2021年4月に看護学研究科に設置されるNP教育課程への関心を

含めて、学生・大学院生・教員の看護学部・看護学研究科の国際的視野を広げる機会となった。

9. 学習環境、学生サービスの充実

1) 博士前期課程を対象とした教育訓練給付金および職業実践力育成プログラムへの申請および認可

博士前期課程に在籍する社会人のキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進をはかることを目的とした教育訓練給付金（厚生労働省による）制度への申請を行い認可された。また、博士前期課程の高度実践コースの全ての専攻が、文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP；Brush up Program for professional）として認定された。

2) ユニバーサルパスポート（UNIPA）の導入

これにより、授業や事務的な連絡のほか、成績開示も可能となった。

3) 大学院生と教員との交流会

新型コロナウイルス感染症拡大により、博士前期および後期課程1年生を主な対象とするなど対面での参加者を限定したうえで、例年より4カ月遅れの10月10日に開催した。参加した上級学年から大学院生活に関する1年生への助言があり高評価であったが、コロナ禍であったため交流および意見交換の場としては課題が残った。

10. 大学院運営力の強化（教員と事務の連携強化）

大学院委員会、委員会開催前の打ち合わせのほか、適時、連絡調整を密に行い情報共有を行いながら運営に努めた結果、院生対応が円滑に進めることができた。

11. 新型コロナウイルス感染症にともなう対応

1) オンライン授業開始に向けての環境整備

Web会議システムとしてWebexとZoom活用について院生に周知するとともにオンライン受講の手引きを作成、配布した。また、使用前に希望者に対して試験配信を行った。また、動画配信ではUNIPAでのMoodle活用を実施した。

2) 講義室・研究室の使用にあたっての留意事項の周知

対面授業の使用教室を博士前期課程と博士後期課程、また領域科目は分野によって固定した。また、「研究室使用に伴う留意事項」をまとめ、院生への周知徹底、感染予防対策を強化した。

3) CNS実習・研究実施体制の把握と対応

新型コロナウイルス感染症によるCNS実習・研究に関する方針を策定した。7月には大阪医科大学付属病院病院長ならびに看護部長に対し、高度実践コース実習等の受け入れについて配慮いただきたい旨を文書で依頼した。また、CNS実習受け入れのためのPCR検査実施が必要な場合は公費対応ができるよう要望、実現した。

4) オンライン授業 受講アンケートの実施

インターネット環境整備に関連した経費等の支出状況を含め、8月に実施した。

5) 研究遂行に関する調査の実施、学位論文提出方法等の柔軟化

新型コロナウイルス感染症による研究遂行上の困難さや課題について調査した。緊急事

	<p>態宣言下における大学院生室の条件付き使用許可、郵送による学位論文提出、博士後期課程における論文掲載証明書の提出期限の延長など対応した。</p> <p>12. その他</p> <p>1) 各種アンケート調査の実施</p> <p>調査票および UNIPA からの回答も可能とし、2021 年 2 月に実施した。</p> <p>① 授業評価アンケート：回収率は約半数と昨年度より低下したが、両課程ともわかりやすさや思考の深化など、概ね高評価であった。</p> <p>② 学勢調査（大学院生生活実態調査）：回収率は約半数であった。仕事やアルバイトが研究活動の妨げとの回答が 8 割近くであった。また、教員や職場の上司からハラスメントを受けたとの回答が 2 名みられた。</p> <p>③ 修了生アンケート（DP 到達度調査）：回収率は約 8 割であった。終了時の目標到達は前期・後期課程ともにほぼ達成できていたが、国際的視野の有無を問う項目では若干低かった。</p> <p>④ カリキュラム評価アンケートの実施：教員ならびに在学生対象に実施し、回収率は教員が約 7 割、在学生が約 7 割であった。科目・指導体制に対する評価は概ね高かったが、博士前期課程における教育目標の高さを問う意見があった。</p> <p>2) 学位論文提出遅延に伴う対応</p> <p>提出期限内の学位審査申請提出の遅延 1 名、修正論文提出の遅延 2 名（いずれも博士前期課程）がみられた。遅延理由書とともに経緯を確認し対応を検討し、教授会での審議により受付が認められた。このことに鑑み、学位論文審査申請に関する課題の明確化と対応を検討することとなった。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントリストに基づくカリキュラム評価と見直し、整備 ・WEB や UNIPA を活用した大学院生への情報発信と対応の迅速化 ・受験生への相談対応の充実と入学試験方法変更後の受験者、入学者数の確保 ・2021 年 4 月の大学統合に向けての各種規定等の整備 <p>2. 改善すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文申請審査に関する事項（提出方法、審査の流れの確認、整備） ・大学院生間の情報交換、交流の場の確保
<p>将来に向けた 発展方策 ・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験方式の違いによる入学後の学修成果の評価、AP の評価 ・カリキュラム変更に伴う学修成果の経年的評価 ・博士前期課程（修士）高度実践コースのカリキュラム検討と再申請に向けた準備、および CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立 ・本大学院における学位論文審査の位置づけの明確化と学位論文審査の見直し ・本学卒業生の大学院進学に向けた働きかけと仕組みづくり ・博士前期課程（修士）修了者数を見込んだうえでの博士後期課程（博士）の入学定員数の検討

委員会名	(2) 看護学研究科カリキュラム委員会
目的	大学院看護学研究科のカリキュラムに関わる事項の調整を行なうことを目的とする。
構成員	真継和子（委員長）、荒木孝治、竹村淳子、寺口佐與子、 小林洋樹（大学院課）、田中佑美（大学院課）
活動計画	1. カリキュラムの検討 2. ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの検討 3. アセスメントポリシーに沿った学修成果の評価
活動概要	<p>1. カリキュラムの検討</p> <p>1) 新規科目配置と科目廃止案の検討</p> <p>高度実践看護師養成機関としてのさらなる充実をはかるため、NP 設置申請における新たな科目として「コンサルテーション論」と「看護政策論」、さらに、グローバル力強化を考慮し「英語論文演習」を配置することとした。現行の「医療科学」の学修内容は「看護政策論」で補填できることが確認され、また「国際保健」は各分野科目の学修内容に含めることとし、廃止とした。</p> <p>2) 履修方法（修了要件）の確認とカリキュラム表の検討</p> <p>博士前期課程（修士）の教育研究コースの現行カリキュラムでは、専門分野における必修科目の配置が明確になされておらず、学生の履修への混乱を招いていたため、分野ごとに必修科目および選択必修科目を明確に定めた。さらに、カリキュラム表に明示することとし、カリキュラム表のレイアウトを修正した。また、高度実践コースでは CNS 教育課程と新設の NP 教育課程の修了単位数が異なるため、それぞれの修了要件を明示することとした。</p> <p>3) カリキュラム評価アンケートの実施（在学生、教員）</p> <p>教育の質保証と向上のために在学生・教員に対してカリキュラム評価アンケートを実施した（隔年実施）。評価結果をもとに次年度の委員会において 2022 年度カリキュラム改革の検討を行う。</p> <p>2. 教育目標・3 ポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）の検討</p> <p>博士前期課程（修士）の現行のディプロマポリシーはコース共通になっており評価しにくいという課題があったことから、教育研究コースと高度実践コースそれぞれにおいて育成する人材に修得を期待する能力を示した。また、2021 年 4 月の大学統合に向けて、文言の調整や統一をはかった。</p> <p>3. アセスメントポリシーに沿った学修成果の評価</p> <p>アセスメントリストに基づき、データ収集、分析・評価を実施し、PDCA シートに取りまとめた。特に、DP 到達度は博士前期課程（修士）においてやや低い結果となっていること、またカリキュラム評価では博士前期課程（修士）における時間割の過密さが課題に挙げられていたことから、次年度のカリキュラム見直し以降の評価をしていく。また、2019 年度高度実践コース修了生の専門看護師資格審査不合格の原因について、カリキュラム上の課題がないか検討していく。</p>

<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 博士前期課程（修士）における授業科目の整備による学修内容の充実</p> <p>2) アセスメントポリシーに沿った評価による課題の明確化</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 学修成果の評価時期を早め、次年度カリキュラムに活かせるようにしていく</p> <p>2) 大学院委員会との役割の明確化と課題に対するタイムリーな連携による対応</p>
<p>将来に向けた 発展方策 ・課題</p>	<p>1) 博士前期課程（修士）における授業科目配置の適切性、順序性の検討</p> <p>2) 専門看護師資格審査の合格率 100%をめざしてのカリキュラムの検討</p>

委員会名	(3) 看護学研究科カリキュラム評価委員会
目的	カリキュラムの質保証を強化するため、内部評価だけでなく（外部委員や学生委員による）外部評価も反映されたカリキュラム評価・改善のための活動を行う。
構成員	田中克子（委員長）、久保田正和、小林洋樹、田中佑美（大学院課）（以上、学内委員のみ記載） 外部委員：寺崎文生医学部教員1名、林 優子、他大学看護系教員1名、芦田泰弦、企業に所属する専門家1名、坪井茉莉、近澤 幸、研究科学生
活動計画	1. 教育目的・目標、各種ポリシーの評価 2. カリキュラムの評価 3. 各種ポリシーに沿った評価を実施
活動概要	1) 大学統合に向けて①教育目的,②アドミッションポリシー,③カリキュラムポリシー,④ディプロマポリシー, ⑤アセスメントポリシー,の文言の調整をおこなった。博士前期課程において④ディプロマポリシー教育研究コースと高度実践コースの個別性がないことが課題であったので、共通項目とそれぞれのコースの個別性を示した内容の評価を行った。 2) プライマリケア看護学専攻を設置に伴い「コンサルテーション論」「看護政策論」、グローバルな視点の強化を目指して「英語論文演習」の新たな配置をおこなった。「医療科学」「国際保健」は他の科目で補填できることから廃止した変更の評価を行った。 3) 分野ごとの科目選択の基準を明確にし、必須選択科目の区分を配置した変更の評価を行った。 4) 各種ポリシーに沿った評価を実施し PDCA としてまとめた。 5) 外部委員や学生委員にとって評価が行いやすいように意見交換できるように計画した。最終的には委員会は,2021年3月29日コロナ感染対策によりオンライン審議となった
評価	1. 効果が上がっている事項 1) プライマリケア看護学専攻を設置に伴うカリキュラムの改善に関する本研究科の強みを生かすために①教育目的,②アドミッションポリシー,③カリキュラムポリシー,④ディプロマポリシー, ⑤アセスメントポリシー,の見直しを行い課題が明らかになった。3ポリシーに関しては具体的には,②に関して前期の試験方式を変更したが混乱なく終了した。また,後期に関して口述試験の評価基準を明確にした。今後新制度に関しては継続して検討する。 2) カリキュラムに関しては,プライマリケア看護学専攻を設置に伴い共通科目の配置をおこなったが高度実践コースの共通科目が重複している。 3) 授業評価に関して専門分野の内容や難易度の適切性に関しては概ね高い評価であった。改定した内容に関して継続的に検討する。 2. 改善すべき事項 1) コロナ感染対策で予定していた委員会が開催できなかったことに関して,環境

	<p>整備等の準備不足であったことが課題である。</p> <p>2) 新設分野を設置したことに伴いカリキュラム全般を複数年度にわたる評価を取り入れる必要がある。カリキュラム評価におけるグローバル力の育成に関しては今後の課題となる。</p> <p>3) プライマリケア看護学専攻を設置に伴い共通科目の配置をおこなったが高度実践コースの共通科目が重複しているため整理が必要である。</p>
<p>将来に向けた 発展方策 ・課題</p>	<p>2021 年度からナースプラクティショナー（NP）を開設した。大学統合に伴い教育目的の改変，各種ポリシーの改正，それに伴い科目配置，科目整理をおこなった。以上のことからカリキュラム全般に関して大学の強みを生かし、長期的な視点での評価が必要となると考える。</p>

3) 教育活動

(1) 博士前期課程

① 授業科目一覧

● 博士前期課程教育研究コース

2020 年度入学生用

(注) ※ : コース共通必修科目、* : 地域家族支援看護学領域選択者必修科目

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
共通科目	国際保健	1	1～2前 (隔・偶数年度)	以下の①～④を満たし32単位以上 ① 「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の3科目6単位 ② 自領域専門科目から必修科目及び選択科目3科目6単位以上 ③ 全科目から6科目12単位以上 ただし実践支援看護学科目の「看護教育学」を受講することを推奨する ④ 「特別研究」1科目8単位
	医療科学	1	1～2後 (隔・偶数年度)	
	看護倫理※	2	1後	
	看護学研究方法論※	2	1前	
	看護現任教育論	2	1～2前 (隔・奇数年度)	
	看護理論※	2	1前	
	看護管理学	2	1後	
	看護哲学	2	1後	
	フィジカルアセスメント論	2	1前	
	臨床薬理学	2	1後	
病態生理学	2	1前		
実践支援看護学領域	看護教育学	2	1前	
	看護教育課程論	2	1後	
	看護教育学演習	2	1後	
	看護技術開発学特論Ⅰ	2	1前	
	看護技術開発学特論Ⅱ	2	1前	
	看護技術開発学演習Ⅰ	2	1通	
	看護技術開発学演習Ⅱ	2	1後～2前	
療養生活支援看護学領域	移植・再生医療看護学特論Ⅰ	2	1前	
	移植・再生医療看護学特論Ⅱ	2	1後	
	移植・再生医療看護学演習	2	1後～2前	
	がん看護学特論Ⅰ	2	1前	
	がん看護学特論Ⅱ	2	1後	
	がん看護学援助論Ⅰ	2	1前	
	がん看護学援助論Ⅱ	2	1後	
	がん看護学演習Ⅰ	2	1前～1後	
	がん看護学演習Ⅱ	2	1後～2前	
	慢性看護学特論Ⅰ	2	1前	
	慢性看護学特論Ⅱ	2	1前	
	慢性看護学援助論Ⅰ	2	1前	
	慢性看護学援助論Ⅱ	2	1後	
	慢性看護学演習Ⅰ	2	1後	
	慢性看護学演習Ⅱ	2	2前	
	精神看護学特論Ⅰ	2	1前	
	精神看護学特論Ⅱ	2	1後	
	精神看護アセスメント論	2	1前	
	精神看護学援助論Ⅰ	2	1前	
	精神看護学援助論Ⅱ	2	1後	
	精神看護学演習Ⅰ	2	1後	
	精神看護学演習Ⅱ	2	2前	
	老年看護学特論	2	1前	
	老年看護アセスメント論	2	1前	
	老年期病態治療論	2	1前	
	老年看護援助論	2	1後	
	老年看護サポートシステム論	2	1後	
老年看護学演習Ⅰ	2	1後		
老年看護学演習Ⅱ	2	1前		

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論*	2	1前	
	周産期看護論	2	1前	
	母性看護学特論	2	1前	
	ウィメンズヘルス看護論	2	1前	
	周産期看護援助論Ⅰ	2	1前	
	周産期看護援助論Ⅱ	2	1後	
	周産期看護演習Ⅰ	2	1後～2前	
	周産期看護演習Ⅱ	2	1後～2前	
	小児看護学特論	2	1前	
	小児と病気	2	1後	
	発達障害看護論	2	1～2前 (隔・偶数年度)	
	小児看護アセスメント論	2	1後	
	小児看護学演習	2	1後～2前	
	地域看護学特論	2	1前	
	地域ケアシステム特論	2	1後	
	地域母子保健論	2	1～2前 (隔・奇数年度)	
	地域看護学演習	2	1後～2前	
	在宅看護学特論Ⅰ	2	1前	
	在宅看護学特論Ⅱ	2	1後	
	在宅看護学演習	2	1後～2前	
特別研究	特別研究	8	1～2通	

●博士前期課程高度実践コース

(1)高度実践コース

2020 年度入学生用

(注) ※：コース共通必修科目、*：コース共通選択必修科目

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
共通科目	国際保健	1	1～2前 (隔・偶数年度)	以下の①～③の全て、④～⑨のいずれか、及び⑩を満たし42 単位以上 ① 共通科目「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」「フィジカルアセスメント論」「臨床薬理学」「病態生理学」の6科目12単位 ② 共通科目「看護現任教育論」または「看護管理学」のいずれか1科目2単位 ③ ①～②を含む14単位以上 ④ 療養生活支援看護学領域選択者のうち、がん看護専門看護師を希望する者は、「がん病態治療論」「がん看護学特論Ⅰ」「がん看護学特論Ⅱ」「がん看護学援助論Ⅰ」「がん看護学援助論Ⅱ」「がん看護学演習Ⅰ」「がん看護学演習Ⅱ」「がん看護学実習Ⅰ」「がん看護学実習Ⅱ」「がん看護学実習Ⅲ」「がん看護学実習Ⅳ」の11科目24単位 ⑤ 療養生活支援看護学領域選択者のうち慢性疾患看護専門看護師を希望する者は、「慢性看護学特論Ⅰ」「慢性看護学特論Ⅱ」「慢性看護アセスメント論」「慢性看護援助論Ⅰ」「慢性看護援助論Ⅱ」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅰ」「慢性看護学実習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅲ」の10科目24単位 ⑥ 療養生活支援看護学領域選択者のうち精神看護専門看護師を希望する者は、「精神看護学特論Ⅰ」「精神看護学特論Ⅱ」「精神看護アセスメント論」「精神看護学援助論Ⅰ」「精神看護学援助論Ⅱ」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学演習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅰ」「精神看護学実習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅲ」の10科目24単位
	医療科学	1	1～2後 (隔・偶数年度)	
	看護倫理※	2	1後	
	看護教育学	2	1前	
	看護学研究方法論※	2	1前	
	看護現任教育論*	2	1～2前 (隔・奇数年度)	
	看護理論※	2	1前	
	看護教育課程論	2	1後	
	看護管理学*	2	1後	
	看護哲学	2	1後	
	フィジカルアセスメント論※	2	1前	
	臨床薬理学※	2	1後	
病態生理学※	2	1前		
療養生活支援看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	2	1前	
	がん看護学特論Ⅱ	2	1後	
	がん病態治療論	2	1後	
	がん看護学援助論Ⅰ	2	1前	
	がん看護学援助論Ⅱ	2	1後	
	がん看護学演習Ⅰ	2	1前～1後	
	がん看護学演習Ⅱ	2	1後～2前	
	がん看護学実習Ⅰ	2	1後	
	がん看護学実習Ⅱ	2	1後	
	がん看護学実習Ⅲ	3	2前	
	がん看護学実習Ⅳ	3	2前	
	慢性看護学特論Ⅰ	2	1前	
	慢性看護学特論Ⅱ	2	1前	
	慢性看護アセスメント論	2	1後	
	慢性看護援助論Ⅰ	2	1前	
	慢性看護援助論Ⅱ	2	1後	
	慢性看護学演習Ⅰ	2	1後	
	慢性看護学演習Ⅱ	2	2前	
	慢性看護学実習Ⅰ	2	1後	
	慢性看護学実習Ⅱ	4	2通	
	慢性看護学実習Ⅲ	4	2通	
	精神看護学特論Ⅰ	2	1前	
	精神看護学特論Ⅱ	2	1後	
	精神看護アセスメント論	2	1前	
精神看護援助論Ⅰ	2	1前		
精神看護援助論Ⅱ	2	1後		
精神看護学演習Ⅰ	2	1後		
精神看護学演習Ⅱ	2	2前		
精神看護学実習Ⅰ	2	1後		
精神看護学実習Ⅱ	6	2前		
精神看護学実習Ⅲ	2	2通		

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
療養生活支援看護学領域	老年看護学特論	2	1前	⑦ 療養生活支援看護学領域選択者のうち、老人看護専門看護師を希望する者は、「老年看護学特論」「老年看護学アセスメント論」「老年期病態治療論」「老年看護学援助論」「老年看護サポートシステム論」「老年看護学演習Ⅰ」「老年看護学演習Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「老年看護学実習Ⅲ」の10科目24単位 ⑧ 地域家族支援看護学領域選択者のうち母性看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「周産期看護論」「母性看護学特論」「ウィメンズヘルス看護論」「周産期看護援助論Ⅰ」「周産期看護援助論Ⅱ」「周産期看護演習Ⅰ」「周産期看護演習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅰ」「周産期看護実習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅲ」の11科目26単位 ⑨ 地域家族支援看護学領域選択者のうち小児看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「小児看護学特論」「小児と病気」「周産期看護論」「発達障害看護論」「小児看護アセスメント論」「地域母子保健論」「小児看護学演習」「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」「小児看護学実習Ⅲ」の11科目26単位 ⑩ 「課題研究」1科目4単位
	老年看護学アセスメント論	2	1前	
	老年期病態治療論	2	1前	
	老年看護学援助論	2	1後	
	老年看護サポートシステム論	2	1後	
	老年看護学演習Ⅰ	2	1後	
	老年看護学演習Ⅱ	2	1前	
	老年看護学実習Ⅰ	4	1後	
	老年看護学実習Ⅱ	4	2前	
	老年看護学実習Ⅲ	2	2前	
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	2	1前	
	周産期看護論	2	1前	
	母性看護学特論	2	1前	
	ウィメンズヘルス看護論	2	1前	
	周産期看護援助論Ⅰ	2	1前	
	周産期看護援助論Ⅱ	2	1後	
	周産期看護演習Ⅰ	2	1後～2前	
	周産期看護演習Ⅱ	2	1後～2前	
	周産期看護実習Ⅰ	2	1後	
	周産期看護実習Ⅱ	4	2前	
	周産期看護実習Ⅲ	4	2通	
	小児看護学特論	2	1前	
	小児と病気	2	1後	
	発達障害看護論	2	1～2前（隔・偶数年度）	
	小児看護学アセスメント論	2	1後	
	小児看護学演習	2	1後～2前	
	小児看護学実習Ⅰ	2	1後～2前	
小児看護学実習Ⅱ	6	1後～2前		
小児看護学実習Ⅲ	2	2通		
地域母子保健論	2	1～2前（隔・奇数年度）		
特別研究	課題研究	4	1後～2後	

②修了者学位論文タイトル一覧

氏名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
溝部 由恵	教育研究コース 在宅看護学	訪問介護を行う介護福祉士が療養者の喀痰吸引のコツをつかむプロセス
三原 綾	教育研究コース 在宅看護学	人生の終焉を生きる場の選択におけるがん終末期高齢患者と家族の合意に向けた看護実践
有田 由美	高度実践コース がん看護学	外来化学療法を継続している切除不能進行再発大腸がん高齢患者が体験している困難及び対処
吉田 良平	教育研究コース 老年看護学	認知リハビリテーション実施時において遠隔環境下での看護師のかかわりが脳血流量に与える影響
山崎 友子	教育研究コース 母性看護学	乳児を育てる母親の家族計画に関する認識と支援ニーズの実態
田中 優希	教育研究コース 移植・再生医療看護学	成人生体肝移植レシピエントの自己管理行動習得に関するアセスメント及び看護介入の検討
神谷 道代	教育研究コース 精神看護学	就労を希望する摂食障害をもつ人の困難と対処

(学位記番号順)

(2) 博士後期課程

①授業科目一覧

区分	科目	単位数	配当年次	単位取得要件
共通科目	看護科学研究論	2	1前	以下①～④をすべて満たし、合計14単位以上 ① 基盤科目「看護科学研究論」の1科目2単位 ② 専門科目「実践支援看護学特論」「実践支援看護学演習」または「療養生活支援看護学特論」「療養生活支援看護学演習」または「地域家族支援看護学特論」「地域家族支援看護学演習」の中から2科目3単位以上 ③ 基盤科目から1科目1単位以上 ④ 「特別研究」1科目8単位
	看護学研究法応用論（保健統計）	1	1～2後（隔）	
	看護学研究法応用論（実験法）	1	1～2後（隔）	
	看護学教育開発論	2	1前	
	看護学教育演習	1	2後	
	英語論文演習	1	2前	
	異文化看護論	1	1～2前（隔）	
専門科目	実践支援看護学	実践支援看護学特論	2	1後
		実践支援看護学演習	1	2通
	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	2	1後
		療養生活支援看護学演習	1	2通
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論	2	1後
		地域家族支援看護学演習	1	2通
特別研究	特別研究	8	1～3通	

②修了者学位論文タイトル一覧

氏名	領域	学位論文タイトル
此島 由紀	地域家族支援看護学	祖父母が重症心身障がいの孫の育児に参画するプロセスに関する研究
荒川 千登世	療養生活支援看護学	続発性下肢リンパ浮腫初期段階の患者への簡易な運動をとり入れたセルフケア支援プログラムの開発
中村 五月	療養生活支援看護学	機能性尿失禁を有する高齢者のコントロール感を高める排尿誘導プログラムの開発
田村 沙織	療養生活支援看護学	化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスと精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因
中村 朋子	地域家族支援看護学	20 歳代女性に対する子宮頸がん検診を促す Information Technology (IT) を取り入れた教育プログラムの効果検証

(学位記番号順)

IV. 研究活動

1. 研究実績

1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

2020年度 看護学部 競争的研究資金等の採択状況

研究活動		新規採択件数	継続件数	合計金額(円)	
科学研究費助成事業	基盤研究 (B)	代表	1	0	1,400,000
		分担	0	3	260,000
	基盤研究 (C)	代表	7	7	11,200,000
		分担	5	8	745,000
	挑戦的萌芽研究	代表	0	0	0
		分担	0	1	100,000
	若手研究 (B)・若手研究	代表	3	5	5,200,000
	研究活動スタート支援	代表	1	0	700,000
	厚生労働科学研究費補助金	代表	0	0	0
		分担	0	0	0
省庁・独立行政法人等の競争的資金 (科研費を除く)	代表	0	0	0	
	分担	0	0	0	
財団等による研究助成		3	0	1,100,000	
企業等による共同研究、研究助成		1	0	0	
総 合 計				20,705,000	

2020 年度科学研究費助成事業交付一覧

(研究代表者)

※2020 年度交付決定額

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付額(円)
基盤研究(B)	鈴木 久美	青年前期の子どもと親のための Family-based がん啓発教育プログラム開発	1,400,000
基盤研究(C)	土肥 美子	看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討	1,000,000
基盤研究(C)	カルデナス 暁東	SLE 女性患者の BF の獲得を促進するアピアランスケアプログラムの構築	600,000
基盤研究(C)	宮島 多映子	Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用-PhaseⅢの拡大-	400,000
基盤研究(C)	小林 道太郎	倫理的看護実践を可能にする組織の条件に関する質的・理論的研究	500,000
基盤研究(C)	佐々木 綾子	産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための 3 次元分娩アニメーションソフト開発と評価	900,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する継続可能な手技の開発	500,000
基盤研究(C)	真継 和子	死生観を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	800,000
基盤研究(C)	池西 悦子	看護師のリフレクション学習を支援するファシリテーター育成プログラムの開発	1,200,000
基盤研究(C)	川北 敬美	子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発	1,100,000
基盤研究(C)	府川 晃子	分子標的薬内服治療を受ける肺がん高齢患者の自己管理支援プログラムの有効性の検討	600,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	学校卒業後の在宅重症心身障がい児に適したデイサービスガイドラインの作成	400,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	地域共生社会における発達障害児家族を支える地域高齢者による支援モデルの検討	900,000
基盤研究(C)	久保田 正和	認知リハビリテーションの効果を高める看護学的アプローチの検証	1,300,000
基盤研究(C)	安田 稔人	スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する早期運動療法を併用した多血小板血漿療法	1,000,000
若手研究	瓜崎 貴雄	三次救急の場における看護師の自殺未遂患者に対する態度形成の影響要因の探索と検証	400,000
若手研究	大橋 尚弘	腎移植ドナー、レシピエントの潜在的支援ニーズを抽出するスクリーニングツールの開発	1,200,000
若手研究	山埜 ふみ恵	都市部の男性高齢者における介護予防活動を活用した地域のつながり強化に関する研究	100,000
若手研究	山崎 歩	思春期・青年期 1 型糖尿病患者の身体感覚に着目した性差別支援プログラムの開発	400,000

若手研究	寺口 佐與子	在宅看護ケアで活用できるリンパ浮腫評価モデルの開発	700,000
若手研究	近澤 幸	乳児期の沐浴・入浴時の危険を防ぐ母親と家族のためのデジタルコンテンツ教材の開発	1,200,000
若手研究	山本 暁生	モバイル端末を用いた在宅呼吸リハビリテーション支援システムの開発	800,000
若手研究	樋上 容子	認知機能低下予防のための睡眠障害に対する看護介入の長期的効果の検証	400,000
研究活動スタート支援	赤崎 芙美	看護師の根拠に基づく実践を促進するナレッジブローカリング自己評価尺度の開発	700,000

(研究分担者)

研究種目	氏 名	研究 課 題 名	交付額(円)
基盤研究(B)	佐野 かおり	医療・看護情報を共有化する『THA ケアネットポータル』の構築と質評価	10,000
基盤研究(B)	鈴木 久美	AYA 世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成プログラムの開発	150,000
基盤研究(B)	土肥 美子	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	100,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	40,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	ストレス対処能力の低い新人看護師に対するストレス対処能力向上のための支援の開発	100,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	学生の思考力強化を図る小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発	30,000
基盤研究(C)	倉橋 理香	学生の思考力強化を図る小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発	30,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	看護実践能力の評価指標を基盤とした看護学実習カリキュラムの開発	40,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践知の体系化・倫理的実践の質向上に向けて-	30,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	子育て世代のがんサバイバーのコミュニティ・エンパワメントモデル開発	50,000
基盤研究(C)	竹 明美	高齢患者の術後せん妄予防・緩和のためのハンドマッサージ法による全人的アプローチ	25,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	通院患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの有効性の検証	200,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	100,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	成人期以降の在宅重症心身障がい者を介護する家族の望む看取りを促す看護実践プロセス	30,000

基盤研究(C)	宮川 幸代	大規模疫学研究に利用できる味覚検査方法の開発とその応用に関する研究	50,000
基盤研究(C)	二宮 早苗	画像工学技術を用いて骨盤内を可視化した骨盤底筋訓練用動画の開発と効果検証	20,000
挑戦的研究(萌芽)	二宮 早苗	女性の尿失禁改善用サポート下着の生体力学的根拠に裏付けされた最適設計戦略	100,000

2020 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
該当なし			

2020 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	助成金額(円)
該当なし			

2020 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
同志社大学 赤ちゃん学研究センター	佐々木 綾子	Web 支援システム構築のための新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親をとりまく育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査	400,000
日本私立学校振興・共済事業団	勝山 あづさ	ICU 早期リハビリテーション実施に向けた教育プログラムの開発	400,000
公益財団法人 大阪対がん協会	植村 未奈子	思春期の子どもに母親のがんを伝えた後の乳がん患者からみたこどもとの関係性に関する研究	300,000

2020 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
三田理化工業株式会社 株式会社モアソンジャ パン	佐々木 綾子	音声入力による分娩経過記録システムの開発に関する研究	0

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

佐々木綾子	横尾京子, 常盤洋子, 岡永真由美, 井村真澄, 佐々木綾子他 (2020). 助産師基礎教育新テキスト第6巻, 第5章親子の絆とアタッチメントの形成, 横尾京子 (編), 100-120, 日本看護協会出版会, 東京 定方美恵子, 関島香代子, 佐々木綾子他 (2020). ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他 (編), 2章 1~4, 6~11, 13~17 節, メディカ出版, 大阪
-------	---

鈴木久美	<p>鈴木久美 (2020). がん看護とは, 鈴木久美, 林 直子, 佐藤まゆみ編 (2020). 看護学テキスト NiCE がん看護学, 1-9, 南江堂, 東京</p> <p>鈴木久美 (2020). がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 A. 診断期にあるがん患者の特徴と援助のポイント, 鈴木久美, 林 直子, 佐藤まゆみ編 (2020), 看護学テキスト NiCE がん看護学, 74-77, 南江堂, 東京</p> <p>鈴木久美 (2020). がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 C. 再発・転移がんの診断・治療期にある患者の特徴と援助のポイント, 鈴木久美, 林 直子, 佐藤まゆみ編 (2020), 看護学テキスト NiCE がん看護学, 82-84, 南江堂, 東京</p>
安田稔人	<p>安田稔人 (2020). アキレス腱断裂, 松本秀男, 熊井 司, 西良浩一, 菅谷啓之, 吉矢晋一, スポーツ整形外科学, 510-513, 文光堂, 東京</p>
瓜崎貴雄	<p>瓜崎貴雄 (2021). 精神科病院におけるデスカンファレンス - 文献検討を通じて, 田代誠, 石田正人, 田辺友理子, 白石美由紀編著, 精神に病をもつ人の看取り - その人らしさを支える手がかり, 112-117, 精神看護出版, 東京</p>
草野恵美子	<p>草野恵美子 (2020). II部保健師のワザを事例で実感! 事例 3 確かな根拠と住民との協働活動で地域の“主体的”介護予防力を高めた公衆衛生看護のワザ, 岡本玲子編著, 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 ポジティブヘルス推進へのワザトレ!, 130-140, 医歯薬出版, 東京</p>
小林道太郎	<p>小林道太郎 (2021). 読書案内コラム 5『尊厳ある介護—「根拠あるケア」が認知症介護を変える』里村佳子, 加藤泰史他編, 東アジアの尊厳概念, 388-91, 法政大学出版局, 東京</p>
府川晃子	<p>府川晃子 (2020). がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 B. 治療期にあるがん患者の特徴と援助のポイント, 鈴木久美, 林 直子, 佐藤まゆみ (編集), 看護学テキスト NiCE がん看護, 78-80, 南江堂, 東京</p>
川北敬美	<p>川北敬美, 道重文子 (2020). 与薬・採血, 角濱春美, 梶谷佳子編集, 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第3版, 364-397, メヂカルフレンド社, 東京</p>
竹 明美	<p>竹 明美 (2021). 2章5節, 12節, 4章1節3項, ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術, 荒木奈緒他 (編), 77-81, 104-106, 181-182, メディカ出版, 大阪</p>
樋上容子	<p>樋上容子 (2021). 改訂版 認知症と生きる, 井手 訓, 山川みやえ, 11章: ICTを取り入れた認知症の進行に伴ったケアの実践, 12章: 認知症の医療介護連携からの看取り事例, 173-188, 189-204, 放送大学教育振興会, 東京</p> <p>樋上容子 (2020). よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版, 牧本清子, 山川みやえ編著, IV章: ケーススタディ, V章: 尺度を用いた測定, 205-208, 295-302, web版 http://jnapcdc.com/cq/critique_2nd.html, 日本看護協会出版会, 東京</p>
近澤 幸	<p>近澤 幸, 佐々木綾子 (2021). 2章17節帝王切開時のケア, 荒木奈緒他編, ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術, 122-128, メディカ出版, 大阪</p>

研究活動/【論文】

<p>赤澤千春</p>	<p>Arakawa, C., <u>Akazawa, C.</u>, Teraguchi, S. (2021) . Consideration of the Self-care Supporting Program Including Simple Exercise for Patients with Early Stages of Secondary Lower-limb Lymphedema, Health,13, 238-252.</p> <p>Nakamura, S., Kubota, M., <u>Akazawa, C.</u>, et al. (2020) . A Feasibility Study of Individualized Voiding Program in Japan to Improve the Sense of control in Older People with Functional Urinary Incontinence, Health,13, 253-272.</p> <p>荒川千登世, <u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子 (2020). 続発性下肢リンパ浮腫患者に対する徒手リンパドレナージを代替する運動の効果の検討, 大阪医科大学雑誌, 79 (3), 71-79.</p> <p>中村五月, 久保田正和, <u>赤澤千春</u> (2020). 高齢者施設の看護職・介護職が実施する包括的排尿アセスメントと排尿援助方法との関係, 大阪医科大学雑誌, 79 (3), 59-70.</p> <p>坪井茉莉, <u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子 (2020). 造血幹細胞移植後の口腔ケアの慢性 GVHD における口腔健康管理の動向についての文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 92-102.</p> <p>佐藤智夫, <u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子 (2020). 肺移植患者における呼吸困難に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 61-69.</p> <p>竹明美, 駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>赤澤千春</u> (7人中7番目) (2020). 大阪医科大学におけるシミュレーション教育法の支援ニーズに関する調査, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 70-75.</p>
<p>荒木孝治</p>	<p>山内彩香, 瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u> (2021). 精神科に入院中の高齢者への身体拘束に対する看護師の認識と取り組みに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 111-127.</p>
<p>佐々木綾子</p>	<p>近澤 幸, <u>佐々木綾子</u> (2020) . 新生児期および乳児期の沐浴・入浴についての初産婦・経産婦の困りごとに関する調査研究, 日本母子看護学会誌, 13 (2), 25-36.</p> <p>近澤 幸, <u>佐々木綾子</u> (2020). 乳児の入浴に関連した危険の内容と要因に関する国内外の文献検討, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 19 (1), 27-37.</p> <p>東尾公子, <u>佐々木綾子</u> (2020). 乳幼児をもつ父親に対する父親役割を促す教育支援に関する文献研究, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 19 (1), 45-55.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 岸上きみゑ, 鈴木秀文, 他 (2020). 産後1カ月の褥婦の子宮頸がん・検診・予防ワクチンに関する知識・意識を向上させる小冊子の効果 (2), 日本母子看護学会誌, 13 (2), 56-66.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 佐々木由梨 (2021). 地域母子保健活動を行う助産師による育児期母親への子宮頸がん・検診・HPV ワクチンに関するセミナーの効果, 日本本母子看護学会誌, 14 (1), 2-12.</p>

	<p>中村朋子, <u>佐々木綾子</u> (2020) . 子宮頸がんおよび検診に関する 20 歳代女性の意識と受診行動の文献レビュー, 母性衛生, 60 (4) , 683-690.</p> <p>Nakamura, T., <u>Sasaki, A</u> (2020) . Verifying the Effects of an Education Program Leveraging Information Technology to Promote Cervical Cancer Screening in Women Aged 20 - 29—A One-Year Longitudinal Study, Health, Vol.12 No.11, November 2020, 1526-1542</p> <p>Nakamura, T., <u>Sasaki, A</u> (2020) . A Literature Review regarding Cervical Cancer Prevention Targeting Junior and Senior High School Student, Vol.12 No.8, August 2020, 12 (08) , 932-942</p> <p>名草みどり, <u>佐々木綾子</u> (2020). 成熟期就労女性に対するプレコンセプションケア健康教育プログラムの 3 カ月後までの評価, 日本健康教育学会誌, 28 (2), 81-91.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 近澤 幸, 竹 明美 (2021). 学士教育課程の強みを生かした本学における助産師教育の現状と課題, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 52-60.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 竹 明美, 近澤 幸 (2021) . 分娩時の内診技術の課題に関する文献検討をふまえた目盛つき手袋教材の試作, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 44-51.</p> <p>近澤 幸, 竹 明美, <u>佐々木綾子</u> (2021). 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 82-91.</p> <p>山崎友子, <u>佐々木綾子</u> (2021). 日本における出産経験のある女性とそのパートナーの家族計画に対する認識と支援のあり方に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 128-136.</p>
鈴木久美	<p><u>鈴木久美</u>, 山内栄子, 林 直子, 他 (2021). 再発・転移乳がんを診断され治療を受けている患者への看護実践の様相—がん看護の専門看護師および認定看護師の視点から—, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 14-24.</p> <p>Tamura, S., <u>Suzuki, K.</u>, Ito, Y., et al. (2021) . Factors related to the resilience and mental health of adult cancer patients: a systematic review, Supportive Care in Cancer, Published online: 29 January, 1-16.</p> <p>Yamanaka, M., <u>Suzuki, K.</u> (2020) . Evaluation of appropriateness of a nursing intervention program to promote pain self-management for adult outpatients with cancer pain, Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, 8 (1) , 33-39.</p> <p>Shiino, I., <u>Suzuki, K.</u> (2020) . Process of Patients Telling Children about Newly Diagnosed Breast Cancer, Open Journal of Nursing, 10, 598-612.</p>
田中克子	<p>森つばさ, カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2020). 来日した中国人看護師の看護実践の現状とその困難点についての文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 103-110.</p>

	<p>柴 云花, 杨 辉, 韩 雪, <u>田中克子</u> (5人中5番目) (2020). 日本的家庭访视 照护模式队我国家庭照湖得启示, 健康忠告, 12, 206-207.</p> <p><u>田中克子</u>, <u>カルデナス暁東</u> (2020). 学士課程における離島実習の学びに関する 文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 76-81.</p>
竹村淳子	<p><u>竹村淳子</u>, 泊 祐子, 古株ひろみ (2020). レスパイト入所をする在宅重症心身 障がい児が他者からのケアを円滑に受けるための看護援助, 関西福祉大学研究 紀要, 23, 51-58.</p> <p>Konoshima, Y., <u>Takemura, J.</u>, Tomari, Y. (2020). Processes through Which the Grandparents of a Child with Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID) May Become Involved in Raising the Child, Open Journal of Nursing, 10, 1251-1264.</p> <p>泊 祐子, 大西文子, <u>竹村淳子</u> (2020). 小児看護学実習において「実践と理論の 統合」を必要とする学習課題の構造, 日本看護科学学会誌, 40, 474-483.</p>
土手友太郎	<p><u>土手友太郎</u> (2020). 看護学部を導入された授業支援システムのC B T機能を活 用した教育技法の検討, 大阪医科大学雑誌, 79 (1-2), 29-33.</p>
安田稔人	<p><u>安田稔人</u>, 佐藤久友, 市川俊介ほか (2020). アキレス腱断裂に対する保存療法 および縫合術後のリハビリテーション治療, Monthly Book MEDICAL REHABILITATION, 254, 90-97.</p> <p><u>安田稔人</u> (2020). アキレス腱断裂に対する保存療法, 整形・災害外科, 63 (12), 1637-1642.</p> <p><u>安田稔人</u> (2020). 陳旧性アキレス腱断裂に対する癒痕組織を用いた direct repair method, 整形外科 Surgical Technique, 10 (6), 39-43.</p> <p>Kizawa M, <u>Yasuda T.</u>, Shima H, et al. (2020). Effect of Toe Type on Static Balance in Ballet Dancers, Med Probl Perform Art 2020, 35 (1) , 35-41.</p> <p>中村 玄, <u>安田稔人</u> (2020). アキレス腱断裂の病因・病態, 整形・災害外科, 63 (12), 1619-1625.</p>
瓜崎貴雄	<p>山内彩香, <u>瓜崎貴雄</u>, 荒木孝治 (2021). 精神科に入院中の高齢者への身体拘束 に対する看護師の認識と取り組みに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雜 誌, 11, 111-127.</p>
カルデナス 暁東	<p>森つばさ, <u>カルデナス暁東</u>, 田中克子 (2020). 来日した中国人看護師の看護 実践の現状とその困難点についての文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 103-110.</p> <p>柴 云花, 杨 辉, 韩 雪, <u>Cardenas Xiaodong</u>, 田中克子 (2020). 日本的家庭访 视照护模式队我国家庭照湖得启示, 健康忠告, 12, 206-207.</p> <p>田中克子, <u>カルデナス暁東</u> (2020). 学士課程における離島実習の学びに関する 文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 76-81.</p>
草野恵美子	<p>山埜ふみ恵, <u>草野恵美子</u>, 吉田久美子 (2020). 都市部における介護予防活動参 加者間のソーシャルサポート授受バランス類型と近隣でのつきあいの関連,</p>

	<p>日本健康学会誌, 86 (6), 262-272.</p> <p>Okamoto, R., Gouda, K., Koide, K., <u>Kusano, E</u> (12人中8番目) (2020). Effectiveness of simulation learning program for mastering public health nursing skills to enhance strength of community: A quasi-experimental design, Nurse Education Today, 90, 104432.</p> <p>中山貴美子, 鳩野洋子, 合田加代子, <u>草野恵美子</u> (4人中4番目) (2020). 乳幼児をもつがんサバイバーである母親ががん診断後に抱える困難, 日本看護科学会誌, 40, 279-289.</p> <p>中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, <u>草野恵美子</u> (5人中4番目) (2021). コミュニティ・エンパワメントに向けて地域組織と保健師が協働するための支援モデルの開発, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 3-13.</p> <p><u>草野恵美子</u>, 鳩野洋子, 合田加代子, 他 (2021). 発達障害のある学童期児童と家族に対する社会資源ごとにみた地域での支援の課題, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 35-43.</p>
久保田正和	<p>臼井玲華, 山田晃代, 田辺順子, <u>久保田正和</u> (7人中5番目) (2020). アルツハイマー型認知症を持つ高齢糖尿病患者への関わりー訪問看護師の視点の変化により生きる意欲が回復した事例ー, 糖尿病医療学, 2, 34-38.</p> <p>中村五月, 久保田正和, 赤澤千春 (2020). 高齢者施設の看護職・介護職が実施する包括的排尿アセスメントと排尿援助方法との関係, 大阪医科大学雑誌, 79 (3), 59-70.</p> <p>Asada-Utsugi, A., Uemura, K., Kubota, M. (2021). Mice with a cleavage-resistant N-cadherin exhibit synapse anomaly in the hippocampus and outperformance in spatial learning tasks, Molecular Brain, Jan 25; 14 (1), doi: 10.1186/s13041-021-00738-1.</p>
小林道太郎	<p>杉林 稔, <u>小林道太郎</u>, 坂井志織 (2020). 母であり看護師である女性が関節リウマチを患うこと, 臨床実践の現象学, 3 (2), 15-27.</p>
寺口佐與子	<p>Arakawa, C., Akazawa, C., <u>Teraguchi, S.</u> (2021). Consideration of the Self-Care Supporting Program Including Simple Exercise for Patients with Early Stages of Secondary Lower-Limb Lymphedema Health, 13, 238-252. doi: 10.4236/health.2021.133020.</p> <p>荒川知登世, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> (2020). 続発性下肢リンパ浮腫患者に対する徒手リンパドレナージュを代替する運動の効果の検討. 大阪医科大学雑誌, 79 (3). 71-79.</p> <p>坪井茉莉, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> (2020). 造血幹細胞移植後の口腔ケアの慢性GVHDにおける口腔健康管理の動向についての文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 92-102.</p> <p>佐藤智夫, 赤澤千春, 寺口佐與子 (2020). 肺移植患者における呼吸困難に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 61-69.</p>

土肥美子	<p>土肥美子, 細田泰子 (2020). 看護系大学に所属する若手教員が必要とする学習スタイルの傾向, <i>インターナショナル Nursing Care Research</i> 19 (4) 55-65.</p> <p>土肥美子, 細田泰子 (2021). 看護大学教員が必要と考える能力, <i>大阪府立大学看護学雑誌</i>, 27 (1) 11-20.</p> <p>原明子, 土肥美子, 川北敬美, 他 (2020). 看護学生における血管可視化装置および血管エコーを用いた静脈血採血演習の評価, <i>日本シミュレーション医療教育学会雑誌</i>, 8, 63-69.</p> <p>片山由加里, 細田泰子, 根岸まゆみ, 土肥美子 (7人中4番目) (2020). 地域に根付く米国ホスピスのフィールドワーク: ボランティアとの協働からみた本邦の看護教育についての考察, <i>同志社女子大学総合文化研究所紀要</i>, 37, 64-75.</p> <p>北島洋子, 細田泰子, 長野弥生, 土肥美子 (6人中5番目) (2021). 他者からの支援と経験学習が教育指導者の看護コンピテンシーに及ぼす影響, <i>看護大学教員が必要と考える能力</i>, <i>大阪府立大学看護学雑誌</i>, 27 (1) 1-9.</p> <p>竹 明美, 駒澤伸泰, 大橋尚宏, 土肥美子 (7人中4番目) (2021). 大阪医科大学におけるシミュレーション教育法の支援ニーズに関する調査, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i>, 11, 70-75.</p>
仲下祐美子	<p>仲下祐美子 (2021). 加熱式たばこに関するソーシャルメディアにおける質問の内容分析, <i>厚生</i>の指標, 68 (4), 34-39.</p>
府川晃子	<p>Fukawa, A. (2021). Development of Self-Management Support Program for Elderly Patients with Lung Cancer Receiving Molecularly-Targeted Therapy, <i>Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing</i>, 8(2), 180-187.</p> <p>土井智生, 鈴木久美, 池西悦子, 府川晃子 (5人中4番目) (2020). チーム医療の理解を促すアクティブ・ラーニングを用いた授業の有用性と看護学生の学び, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i>, 10, 23-32.</p>
川北敬美	<p>川北敬美, 勝山貴美子, 撫養真紀子, 青山ヒフミ (2020). 先駆的に制度を導入した病院に勤務する短時間勤務看護師が認識するキャリアの分析, <i>インターナショナル Nursing Care Research</i>, 19 (3), 91-98.</p> <p>川北敬美, 勝山貴美子, 撫養真紀子, 青山ヒフミ (2021). 先駆的に短時間正職員制度を導入した病院の看護師長が実践する短時間正職員への支援, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i>, 11, 25-34.</p> <p>原 明子, 土肥美子, 川北敬美, 二宮早苗, 道重文子 (2020). 看護学生における血管可視化装置および血管エコーを用いた静脈血採血演習の評価, <i>日本シミュレーション医療教育学会雑誌</i>, 8, 63-69.</p>
竹 明美	<p>竹 明美, 駒澤伸康, 大橋尚弘, 他 (2021). 大阪医科大学におけるシミュレーション教育法のニーズに関する調査, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i>, 11, 71-75.</p> <p>近澤 幸, 竹 明美, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナウイルス感染症が乳幼児</p>

	と親に与える影響に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 82-91. 佐々木綾子, 近澤 幸, <u>竹 明美</u> (2021). 学士教育課程の強みを生かした本学における助産師教育の現状と課題, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 52-60. 佐々木綾子, <u>竹 明美</u> , 近澤 幸 (2021). 分娩時の内診技術の課題に関する文献検討をふまえた目盛つき手袋教材の試作, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 44-51.
二宮早苗	内藤紀代子, <u>二宮早苗</u> , 岡山久代, 他 (2020). 産後女性の骨盤底筋機能評価における機器の検討—PFM トレーナーと超音波診断装置の関連—. びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部研究紀要, 12, 67-71. 原 明子, 土肥美子, 川北敬美, <u>二宮早苗</u> (5人中4番目) (2020). 看護学生における血管可視化装置および血管エコーを用いた静脈血採血演習の評価, 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 8, 63-69.
樋上容子	Koujiya, E., Kabayama, M., Yamamoto, M., <u>Higami, Y</u> (19人中5番目) (2020). Association of blood pressure level with clinical events in older patients receiving home medical care. Hypertension Research, 44, 197-205.
宮川幸代	Lee, R.L.T., Chien, W. T., Ligot, J., <u>Miyagawa, S</u> (15人中8番目) (2020). Associations Between Quality of Life, Psychosocial Well-being and Health-Related Behaviors Among Adolescents in Chinese, Japanese, Taiwanese, Thai and the Filipino Populations: A Cross-Sectional Survey, Int J Environ Res Public Health, 17 (1), 1-20.
赤崎英美	片山由加里, 細田泰子, 根岸まゆみ, <u>赤崎英美</u> (7人中6番目) (2020). 地域に根づく米国ホスピスのフィールドワーク: ボランティアとの協働から見た本邦の看護教育についての考察, 同志社女子大学総合文化研究所紀要, 37, 64-75. <u>赤崎英美</u> , 細田泰子, 根岸まゆみ, 他 (2020). 米国におけるシミュレーション教育に関する視察報告, 大阪府立大学看護学雑誌, 26 (1), 63-69.
大橋尚弘	竹 明美, 駒澤伸康, <u>大橋尚弘</u> , 他 (2021). 大阪医科大学におけるシミュレーション教育法のニーズに関する調査, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 71-75. 角山香織, 駒澤伸泰, <u>大橋尚弘</u> , 他 (2021). 災害対応を主題とした problem-based learning を用いた多職種連携教育の試み, 新しい医学教育の流れ, 20 (1), 1-7.
柴田佳純	<u>柴田佳純</u> , 大村優華, 山上優紀 (2020). 社会人経験のある看護師の語りからみえた職業継続につながる看護師の職業的魅力, 日本看護科学会誌, 40, 332-339.
柚木佐知子	<u>柚木佐知子</u> , 中村裕美子 (2021). 訪問看護ステーションにおける新任看護師の教育ニーズと職業的アイデンティティの関連とその要因, 日本在宅看護学会誌, 9, 2, 10-19.
近澤 幸	<u>近澤 幸</u> , 竹 明美, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親に与える影響に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 82-91. 佐々木綾子, <u>近澤 幸</u> , 竹 明美 (2021). 学士教育課程の強みを生かした本学における助産師教育の現状と課題, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 52-60. 佐々木綾子, 竹 明美, <u>近澤 幸</u> (2021). 分娩時の内診技術の課題に関する文

	<p>献検討をふまえた目盛つき手袋教材の試作, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 44-51.</p> <p><u>近澤 幸</u>, 佐々木綾子 (2020). 乳児の入浴に関連した危険の内容と要因に関する国内外の文献検討, 日本ウーマンズヘルス学会会誌, 19 (1), 27-37.</p>
山内彩香	<p><u>山内彩香</u>, 瓜崎貴雄, 荒木孝治 (2021). 精神科に入院中の高齢者への身体拘束に対する看護師の認識と取り組みに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 111-127.</p>
山埜ふみ恵	<p><u>山埜ふみ恵</u>, 草野恵美子, 吉田久美子 (2020). 都市部における介護予防活動参加者間のソーシャルサポート授受バランス類型と近隣でのつきあいの関連, 日本健康学会誌, 86 (6), 262-272.</p>
山本暁生	<p>Hanaie, K., <u>Yamamoto, A.</u>, Umehara, K., et al. (2020) . Measurement of laryngeal elevation time using a flexible surface stretch sensor. J Oral Rehabil, 47 (12) , 1489-1495.</p> <p>Kurokawa, M., <u>Yamamoto A.</u>, Takada S. (2020) . Translation and Psychometric Analysis of the Japanese Version of the Perceived Maternal Parenting Self-Efficacy Scale. J Obstet Gynecol Neonatal Nurs, In press</p> <p>Nakamoto, H., Katsuno, Y., <u>Yamamoto, A.</u>, et al. (2020) . Wearable Band-shaped Device and Detection Algorithm for Laryngeal Elevation in Mendelsohn Maneuver. IEEE Sensors Journal, In press</p>

研究活動/【学会発表】

<p>赤澤千春</p>	<p><u>赤澤千春</u>, 青山美千代, 西菌貞子 (2020). 看護学実習前後で看護実践能力のコンピテンシー数値が大きく変化した学生の経験の聞き取り調査～対人基礎力に着目して～, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 142, (札幌)</p> <p>西菌貞子, 江川隆子, <u>赤澤千春</u> (2020). 看護学実習によって獲得する対自己基礎力～PROG テストの前後比較からコンピテンシーが変化した学生の経験分析～, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 147, (札幌)</p> <p>中嶋文子, <u>赤澤千春</u> (2020). 新卒看護師の臨床経験に対する受け止め方の動向と SOC との関連, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 188, (札幌)</p> <p>長谷川幹子, 小林道太郎, <u>赤澤千春</u> (2020). 看護師たちが捉えた注入食中止の意思を表明した ALS 患者の苦悩, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 207, (札幌)</p> <p>長谷川幹子, 小林道太郎, <u>赤澤千春</u> (2020). DNR の意思表示をしていた ALS 患者の急変時に対応した看護師の経験, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 207, (札幌)</p> <p>寺口佐與子, <u>赤澤千春</u> (2020). 婦人科術後下肢リンパ浮腫予防期にある患者の退院後の体重増加率と体組成の検討, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 209, (札幌)</p> <p>東 真理, 山下哲平, 井村弥生, <u>赤澤千春</u> (2020). 用手微振動の手技における動力学的可視化の試み, 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 117, (東京)</p>
<p>荒木孝治</p>	<p><u>荒木孝治</u>, 瓜崎貴雄 (2020). 統合失調症患者に対するターミナルケアの特徴: 身体合併症への不安とターミナルケアの態度の観点からの分析, 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 609, (オンライン開催)</p>
<p>佐々木綾子</p>	<p><u>佐々木綾子</u>, 竹 明美, 近澤 幸 (2020). 産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための3次元分娩アニメーションソフトの効果, 第40回日本看護科学学会, 127 (Web開催)</p>
<p>鈴木久美</p>	<p>田村沙織, <u>鈴木久美</u> (2020). 化学療法を受ける大腸がん患者の不安や抑うつおよびそれに関連する要因, 第 35 回日本がん看護学会学術集会, (神戸)</p> <p>田村沙織, <u>鈴木久美</u> (2020). 化学療法を受ける大腸がん患者のレジリエンスおよびそれに関連する要因, 第 35 回日本がん看護学会学術集会, (神戸)</p> <p>有田有美, 府川晃子, <u>鈴木久美</u> (2020). 外来化学療法を受けている高齢がん患者の困難と対処に関する文献検討, 第 35 回日本がん看護学会学術集会, (神戸)</p>
<p>竹村淳子</p>	<p>泊祐子, 濱田裕子, 岡田摩理, <u>竹村淳子</u> (8 人中 8 番目) (2020). 医療的ケア児と家族の暮らしを支える訪問看護の礎となる診療報酬の拡大Ⅱ, 第 46 回日本看護研究学会学術集会, オンデマンド web 集会, 学会特別企画 看護保険連合ワーキング, (オンライン開催)</p> <p>泊祐子, 岡田摩理, 大西文子, <u>竹村淳子</u> (6 人中 4 番目) (2020). 小児看護学実習において教員がとらえた学生の学習課題の構造, 日本看護学教育学会第 30 回学術集会, 110, (オンデマンド配信)</p>

田中克子	Cardenas, X., <u>Tanaka, K.</u> (2020) . Establishment of a Make-up Appearance Care Improvement Mental State for Adult Female Patients with Chronic Disease. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka)
津田泰宏	<p>徳永理沙子, 横濱桂介, 岡本紀夫, <u>津田泰宏</u> (13名中12番目) (2020). PET-CTが有効であった比較的まれな肝細胞癌肝外転移の2例, 日本肝臓学会東部会, (岩手, オンライン開催)</p> <p>中村 憲, 篠原由倫, 岡本紀夫, <u>津田泰宏</u> (11名中8番目) (2020). 巨大な初発肝細胞癌へマイクロスフィアを用いた治療を行った4例, 日本肝臓学会東部会, (岩手, オンライン開催)</p> <p>安岡秀高, 朝井 章, 松井将太, <u>津田泰宏</u> (12名中11番目) (2020). 肝細胞癌患者におけるCD14+細胞のPD-L1, PD-L2発現と予後の関係についての検討, 日本肝臓学会東部会, (岩手, オンライン開催)</p> <p>佐々木駿, 中村 憲, 高山和樹, <u>津田泰宏</u> (13名中11番目) (2020). 初発NonB/C高年齢の肝細胞癌へのマイクロスフィアを用いて治療を行った3例, 日本消化器病学会総会, (広島, オンライン開催)</p>
土手友太郎	仲 文子, 草野恵美子, <u>土手友太郎</u> (2020). 40歳未満の労働者における生活習慣とワーク・エンゲイジメントの関連, 日本公衆衛生学会第79回学術集会, 339, (京都)
真継和子	<p><u>真継和子</u>, 小林道太郎 (2020). 訪問看護師の語りの現象学的分析からみえた在宅看取りケアの実践ー日常性を維持するかかわりー, 日本看護研究学会第46回学術集会, 266, (Web開催)</p> <p><u>真継和子</u>, 大橋尚弘, 佐野かおり (2020). 住民に向けた大学-病院協働型健康支援活動における看護学生の学びの構造, 日本看護学教育学会第30回学術集会 (Web開催), 日本看護学教育学会誌, 第30号, 153.</p> <p>三ツ田枝利香, <u>真継和子</u>, 小林道太郎 (2020). 独居末期がん高齢者の「最期まで自分流」の療養生活を支える上での難しさー中堅訪問看護師の看護実践を振り返ってー, 日本看護研究学会第46回学術集会, 262, (Web開催)</p> <p>三原 綾, <u>真継和子</u> (2020). 終末期医療における患者や家族の合意形成に関する研究動向と課題, 日本看護研究学会第46回学術集会, 291, (Web開催)</p>
宮島多映子	<p><u>宮島多映子</u>, 村松 仁, 西山忠博 (2020). Miyajima式腹部圧迫法 (Miyajima's abdominal pressing technique : MAPT) の臨床応用-自律神経への影響-, 第46回日本看護研究学会学術集会, 13, (Web)</p> <p><u>宮島多映子</u>, 村松 仁 (2020). Miyajima式腹部圧迫法の臨床応用-男性患者の自律神経への影響-, 第40回日本看護科学学会, 117, (Web)</p>
安田稔人	<p><u>安田稔人</u>, 嶋 洋明, 根尾昌志 (2020). 自家腱を犠牲にしない陳旧性アキレス腱断裂の手術治療, 第93回日本整形外科学会学術総会, シンポジウム, (Web学会)</p> <p><u>安田稔人</u>, 嶋 洋明, 根尾昌志 (2020). Adult acquired flatfoot deformity</p>

	<p>(AAFD) Stage 4 の治療, 第 93 回日本整形外科学会学術総会, シンポジウム, (Web 学会)</p> <p><u>安田稔人</u>, 嶋 洋明, 東迎高聖, 他 (2020). アキレス腱断裂の保存療法のリハビリテーション治療の検討, 第 45 回日本足の外科学会学術集会, (Web 学会)</p> <p>中村 玄, <u>安田稔人</u>, 嶋 洋明, 他 (2020). 健常アキレス腱の MRI の特徴—腱長, 腱幅, 腱厚の計測と関連因子の検討—, 第 45 回日本足の外科学会学術集会, (Web 学会)</p>
瓜崎貴雄	<p><u>瓜崎貴雄</u> (2020). 三次救急に従事する看護師の精神健康度が共感性に与える影響: 第 22 回日本救急看護学会学術集会, (オンライン開催)</p> <p><u>瓜崎貴雄</u> (2020). 看護師の自殺未遂患者に対する態度尺度の構成概念妥当性の検討: 第 22 回日本救急看護学会学術集会, (オンライン開催)</p> <p><u>瓜崎貴雄</u> (2020). 三次救急の場における看護師の自殺未遂患者に対する態度に影響を与える要因の検討: 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 573, (オンライン開催)</p> <p>荒木孝治, <u>瓜崎貴雄</u> (2020). 統合失調症患者に対するターミナルケアの特徴: 身体合併症への不安とターミナルケアの態度の観点からの分析: 第 40 回日本看護科学学会学術集会, 609, (オンライン開催)</p> <p><u>瓜崎貴雄</u> (2020). 三次救急医療に従事する看護師の精神健康度と看護実践環境の関連: 第 33 回日本総合病院精神医学会総会, S-170, (オンライン開催)</p> <p><u>瓜崎貴雄</u> (2020). 三次救急の場における看護師の自殺未遂患者に対する態度形成の影響要因に関する質的研究: 日本精神保健看護学会第 30 回学術集会, 79, (オンライン開催)</p>
カルデナス 暁東	<p><u>Cardenas, X., Tanaka, K.</u> (2020) . Establishment of a Make-up Appearance Care Improvement Mental State for Adult Female Patients with Chronic Disease. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka)</p> <p>落道みゆ, <u>カルデナス暁東</u> (2020). 生命危機状態にある患者家族への看護支援の実態, 第 51 回日本看護学会学術集会 Web 学会, 11 月 1 日~30 日.</p> <p>鈴木志穂, <u>カルデナス暁東</u> (2020). がん患者手術期にある患者への ACP における看護師の関わり現状について, 第 51 回日本看護学会学術集会 Web 学会, 11 月 1 日~30 日.</p> <p>長谷川愛奈, <u>カルデナス暁東</u> (2020). 腰椎麻酔下で手術を受ける患者の不安について, 第 51 回日本看護学会学術集会 Web 学会, 11 月 1 日~30 日.</p> <p>藤川智美, <u>カルデナス暁東</u> (2020). 地域包括ケア病棟の認知症患者への身体拘束に対する看護師の思い, 第 51 回日本看護学会学術集会 Web 学会, 11 月 1 日~30 日.</p> <p>田畑 幸, <u>カルデナス暁東</u> (2020). デスカンファレンスを通して看護師の緩和ケアにおける気持ちと行動の変化, 第 51 回日本看護学会学術集会 Web 学会, 11 月 1 日~30 日.</p>

草野恵美子	<p>山埜ふみ恵, <u>草野恵美子</u> (2020). 都市部の介護予防活動におけるソーシャルサポート授受の関係性を構築する要因の検討, 第 9 回 日本公衆衛生看護学会学術集会, 4-4, (東京)</p> <p><u>草野恵美子</u>, 岡本玲子, 規家美咲, 他 (2020). 子育て世代包括支援センター設置に向けた保健師の視点 2 自治体の事例から, 日本地域看護学会 第 23 回学術集会, 1-10, (大阪)</p> <p>中山貴美子, 鳩野洋子, 合田加代子, <u>草野恵美子</u> (4 人中 4 番目) (2020). 乳幼児がもつがんサバイバーである母親ががん診断後に抱える困難, 日本地域看護学会 第 23 回学術集会, 1-13, (大阪)</p> <p><u>草野恵美子</u>, 鳩野洋子, 合田加代子, 他 (2020). 地域での子育て支援への参加意欲がある男性高齢者の背景要因の特徴, 第 79 回日本公衆衛生学会総会, 401, (京都)</p> <p>仲 文子, <u>草野恵美子</u>, 土手友太郎 (2020). 40 歳未満の労働者における生活習慣とワーク・エンゲイジメントとの関連, 第 79 回日本公衆衛生学会総会, 339, (京都)</p>
久保田正和	<p>臼井玲華, 山田晃代, 田辺順子, <u>久保田正和</u> (8 人中 5 番目) (2020). アルツハイマー型認知症を持つ高齢糖尿病患者への関わりー訪問看護師の視点の変化により生きる意欲が回復した事例ー, 第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会, (オンデマンド配信)</p> <p><u>久保田正和</u>, 樋上容子, 柚木佐知子 (2020). 近赤外線分光法を用いた効果的な認知リハビリテーション方法の検証, 第 40 回日本看護科学学会学術集会, (オンライン開催)</p> <p>吉田良平, <u>久保田正和</u> (2021). 遠隔環境下における認知リハビリテーションの可能性, 大阪医科大学看護学部第 4 回看護研究会, (高槻)</p>
小林道太郎	<p>長谷川幹子, <u>小林道太郎</u>, 赤澤千春 (2020). DNR の意思表示をしていた ALS 患者の急変時に対応した看護師の経験, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 28, (Web 開催)</p> <p>長谷川幹子, <u>小林道太郎</u>, 赤澤千春 (2020). 看護師たちが捉えた注入食中止の意思を表明した ALS 患者の苦悩, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 28, (Web 開催)</p> <p>真継和子, <u>小林道太郎</u> (2020). 訪問看護師の語りの現象学的分析からみえた在宅看取りケアの実践: 日常性を維持するかかわり, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 38, (Web 開催)</p> <p>三ツ田枝利香, 真継和子, <u>小林道太郎</u> (2020). 独居末期がん高齢者の「最期まで自分流」の療養生活を支える上での難しさ: 中堅訪問看護師の看護実践を振り返って, 日本看護研究学会第 46 回学術集会, 38, (Web 開催)</p>
寺口佐與子	<p><u>寺口佐與子</u>, 赤澤千春 (2020). 婦人科術後下肢リンパ浮腫予防期にある患者の退院後の体重増加率と体組成の検討. 日本看護研究学会雑誌 43 (3). 日本看護研究学会第 46 回学術集会, Web 開催</p> <p><u>寺口佐與子</u>, 赤澤千春 (2020). リンパ浮腫看護外来通院中の下肢リンパ浮腫患</p>

	者の悪化の経過パターンと要因. 第 51 回 (2020 年度) 日本看護学会学術集会, Web 開催
土肥美子	<p>片山由加里, 細田泰子, <u>土肥美子</u> (6 人中 3 番目) (2020). 教育指導者の経験学習と学習環境デザインについて希望する学習方法との関連, 日本看護研究学会第 46 回学術集会 (札幌)</p> <p><u>土肥美子</u>, 細田泰子, 中橋苗代他 (2020). 教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズと職務キャリアの関係, 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (東京)</p> <p>細田泰子, 根岸まゆみ, 北島洋子, <u>土肥美子</u> (6 人中 4 番目) (2020). 教育指導者のバウンダリーレスな経験の効果と課題: 教育活動に焦点をあてて, 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (東京)</p> <p>根岸まゆみ, 細田泰子, 長野弥生, <u>土肥美子</u> (5 人中 5 番目) (2020). 臨床学習環境における教育指導者のバウンダリーレスな組織間活動の効果と課題, 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (東京)</p> <p>東尾智美, 道重文子, <u>土肥美子</u> (2020). 一般病棟から集中治療室へ異動した看護師の ICU に必要な看護実践能力 習得時期についての経験病棟の影響, 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (東京)</p>
仲下祐美子	<u>仲下祐美子</u> (2020). 保健師教育の教科書におけるたばこに関する記載内容の分析: 第 79 回日本公衆衛生学会総会, 451, (京都/オンライン開催)
府川晃子	有田由美, <u>府川晃子</u> , 鈴木久美 (2020). 外来化学療法を受けている高齢がん患者の困難と対処に関する文献検討: 第 35 回日本がん看護学会学術集会, P17-282, (Web 開催)
川北敬美	撫養真紀子, 勝山貴美子, <u>川北敬美</u> , 他 (2020). 中小規模病院で働く中堅看護師のワークモチベーションにつながる要因, 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (オンライン開催)
佐野かおり	<p><u>佐野かおり</u>, 上杉裕子, 大原英嗣 (2020). 股関節鏡視下手術患者の手術前疼痛と JHEQ との関連, 第 47 回日本股関節学会学術集会, 354, (四日市)</p> <p>中山栄純, 柳本優子, 斎藤貴子, <u>佐野かおり</u> (8 人中 4 番目) (2020). 運動器看護における「排泄ケア」に対する判断根拠とその影響要因について—大腿骨頸部骨折・術後回復期の援助場面に焦点をあてて—, 第 20 回日本運動器看護学会学術集会, 21, (誌上)</p> <p>真継和子, 大橋尚弘, <u>佐野かおり</u> (2020). 住民に向けた大学 - 病院協働型健康支援活動における看護学生の学びの構造, 日本看護学教育学会第 30 回学術集会, 日本看護学教育学会誌, 第 30 号, 153, (Web 開催)</p> <p>鈴木富雄, 島田史生, 関根一臣, <u>佐野かおり</u> (9 人中 5 番目) (2020). 高知県多職種連携地域医療実習の試み (第 4 報), 第 52 回日本医学教育学会大会, 128, (誌上)</p>
竹 明美	<p>佐々木綾子, <u>竹 明美</u>, 近澤 幸 (2020). 産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための 3 次元分娩アニメーションソフトの効果, 第 40 回日本看護科学学会, 127, (Web)</p> <p>佐藤都也子, <u>竹 明美</u>, 小島光華, 他 (2020). ライフサイクルと活動の場をつなぐタッチングケア 2 —ポスト COVID-19 時代のナーシングタッチ—, 第 40</p>

	回日本看護科学学会，交流集会 p13, (Web)
二宮早苗	内藤紀代子, <u>二宮早苗</u> , 森川茂廣, 他 (2020). 骨盤底の機能評価における新型 PFM トレーナーの妥当性の検討. 第 8 回看護理工学会学術集会, (大阪: オンライン開催)
樋上容子	Higuchi, A., Tanaka, H., <u>Higami, Y.</u> , et al. (2021). Correlation between nocturnal scratching and sleep in elderly patients with low levels of mobility: a pilot study. 29th International Symposium of Itch (Osaka, Online) 久保田正和, <u>樋上容子</u> , 柚木佐知子 (2020). 近赤外線分光法を用いた効果的な認知リハビリテーション方法の検証, 第 40 回日本看護科学学会学術集会, (オンライン開催)
大橋尚弘	真継和子, <u>大橋尚弘</u> , 佐野かおり (2020). 住民に向けた大学 - 病院協働型健康支援活動における看護学生の学びの構造, 日本看護学教育学会第 30 回学術集会 (Web 開催), 日本看護学教育学会誌, 第 30 号, 153.
勝山あづさ	<u>勝山あづさ</u> , 赤澤千春, 寺口佐與子 (2020). 集中治療室における多職種連携による早期リハビリテーションに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究会 (大阪)
柚木佐知子	<u>柚木佐知子</u> , 中村裕美子 (2020). 訪問看護ステーションにおける新任看護師の教育プログラムに関する文献検討, 第 40 回日本看護科学学会学術集会. <u>柚木佐知子</u> , 真嶋由貴恵, 榊田聖子, 中村裕美子 (2021). 訪問看護ステーションの新任看護師の臨床経験 (強み) を視覚化した人材育成ツールの検討, 教育システム情報学会, 2020 年度特集論文研究会. 久保田正和, <u>樋上容子</u> , <u>柚木佐知子</u> (2020). 近赤外線光法を用いた効果的な認知リハビリテーション方法の検証, 第 40 回日本看護科学学会学術集会.
近澤 幸	佐々木綾子, 竹 明美, <u>近澤 幸</u> (2020). 産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための 3 次元分娩アニメーションソフトの効果, 第 40 回日本看護科学学会, 127, (Web)
山埜ふみ恵	<u>山埜ふみ恵</u> , 草野恵美子 (2020). 都市部の介護予防活動におけるソーシャル・サポート授受の関係性を構築する要因の検討: 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会, (オンライン開催)
山本暁生	松下和弘, 野添匡史, 松本匠平, <u>山本暁生</u> , (10 人中 9 番目) (2021). 寝たきり高齢者の体位の変化が安静時呼気流量制限に与える影響: 第 30 回呼吸ケアリハビリテーション学会, (京都) 山口卓巳, <u>山本暁生</u> , 沖侑太郎, 他 (2021). 呼吸器疾患特異的 ADL 尺度である Barthel Index dyspnea の翻訳と信頼性, 妥当性の検証: 第 30 回呼吸ケアリハビリテーション学会. (京都) Nakamoto, H., Katsuno, Y., <u>Yamamoto, A.</u> , et al. (2020). Development of Band-shaped Device and Detection Algorithm of Laryngeal Elevation. in 2020 42nd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society. (Montreal)

V. 社会活動

社会活動

赤澤千春	<p>日本看護科学学会 評議員, 査読委員 日本看護研究学会 評議員, 査読委員 日本移植・再生医療看護学会 理事長 第 16 回日本クリティカルケア看護学会 実行委員長</p>
荒木孝治	<p>大阪精神医療センター 治験審査委員会 外部委員 大阪精神医療センター 臨床研究倫理審査委員会 外部委員 日本看護研究学会 評議員 PAS セルフケアセラピィ看護学会 理事 PAS セルフケアセラピィ看護学会 学会誌編集・研究促進委員会 委員長 日本看護科学学会和文誌 専任査読委員 日本看護研究学会誌 専任査読委員 日本精神保健看護学会誌 専任査読委員</p>
池西悦子	<p>日本看護研究学会 評議員 日本看護学教育学会 評議員 日本看護研究学会誌 専任査読委員 日本看護学教育学会誌 専任査読委員 日本看護学教育学会第 30 回学術集会査読委員 第 51 回日本看護学会学術集会 査読委員 大阪医科大学看護研究雑誌 査読者 大阪医科大学医学会 査読者 社会医療法人祐生会みどりヶ丘病院 看護師研修講師 学校法人大阪保健福祉専門学校 教員研修会講師 愛知県実習指導者講習会 講師 大阪府看護協会看護職員研修 「看護のための教育学」講師 京都府看護実習指導者講習会 講師 岐阜県立看護大学看護学研究科 看護管理論 非常勤講師 大阪府看護学校協議会 講演会講師 第 25 回日本看護研究学会 東海地方会学術集会 教育講演「今あらためてリフレクションとはー実践をとらえなおすためにー」</p>
佐々木綾子	<p>【査読】 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 2019 日本母性看護学会誌 大阪医科大学医学会誌 【セミナー担当】 福井愛育病院看護研究発表会講評, 2019.12.14 大阪府助産師会 2020 年度 3 月定例研修会「脳科学から見えてきた母性・父性へのアプローチ～親になる人々を支える看護～」, 2021.3.27.</p>

	<p>【その他】</p> <p>日本母性看護学会，会計理事</p> <p>日本母性看護学会査読委員</p> <p>一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業選考委員会</p> <p>日本ウーマンズヘルス学会幹事</p> <p>JST創発的研究支援事業書類選考委嘱</p> <p>第 24 回日本母性看護学会企画委員</p>
鈴木久美	<p>日本がん看護学会将来構想委員会委員</p> <p>日本看護科学学会代議員</p> <p>日本慢性看護学会評議員</p> <p>日本がん看護学会誌専任査読委員</p> <p>日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員</p> <p>Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing peer reviewer</p> <p>European Journal of Oncology Nursing peer reviewer</p> <p>第 35 回日本がん看護学会学術集会企画委員</p> <p>第 35 回日本がん看護学会学術集会パネルディスカッション 4, 「がん患者に学ぶ 医療変革」, 座長, 2020 年 2 月～4 月 (神戸)</p> <p>愛知県立大学大学院非常勤講師</p> <p>岐阜県立看護大学大学院非常勤講師</p> <p>兵庫県立大学大学院看護学研究科博士論文審査副査</p> <p>乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師</p> <p>がん化学療法看護認定看護師教育課程非常勤講師</p> <p>公益財団法人日本看護協会神戸研修センター認定看護師教育課程教員会委員</p> <p>厚生労働省 保健師助産師看護師試験委員</p> <p>厚生労働省 医道審議会専門委員</p> <p>一般社団法人日本看護学教育評価機構評価員</p> <p>公益財団法人大阪対がん協会 2020 年度がん研究助成奨励金選考委員</p>
竹村淳子	<p>日本家族看護学会誌 専任査読者</p> <p>大阪医科大学看護研究雑誌査読者</p> <p>家族看護研究会の主催 定期開催運営 (2 カ月に 1 回)</p> <p>学士課程教育に関する研究会 定例会開催</p> <p>看保連ワーキング (障がい児プロジェクト) 研究会 定例会開催</p>
田中克子	<p>第 51 回日本看護学会看護管理学術集会慢性期看護抄録選考委員</p> <p>岐阜県立看護大学大学院非常勤講師</p> <p>日本看護協会抄録選考委員</p>
津田泰宏	<p>日本内科学会認定内科医，総合内科専門医，指導医</p> <p>日本消化器病学会専門医，近畿支部評議員，指導医</p> <p>日本肝臓学会認定専門医，西部会評議委員，指導医</p> <p>米国免疫学会会員</p> <p>米国肝臓学会会員</p>

土手友太郎	<p>高槻市役所産業医 健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員 高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員 高槻市ホテル等建築審議会委員 高槻市都市開発審議会委員厚生労働省医員（大阪検疫所） 日本職業災害医学会評議員 日本衛生学会評議員</p>
真継和子	<p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会 世話人 日本看護研究学会近畿・北陸地方会看護研究継続セミナー コーディネーター 日本家族看護学会 専任査読委員 日本看護学教育学会 専任査読委員 和歌山県立医科大学大学院看護学研究科 「家族看護学」非常勤講師 四条畷学園大学看護学部 「家族看護学」非常勤講師 大阪府看護協会実習指導者講習会 「在宅看護論実習（講義）」 講師 大阪府看護協会教員養成講習会 「看護論演習」 講師 大阪府看護協会看護管理者教育課程ファーストレベル研修 「ヘルスケアシステム論 I」 講師 大阪府看護協会トピックス研修 「地域で取り組む看取りー自宅で看取るってどうしたらいいの？ー」 講師 社会医療法人愛仁会高槻病院看護部 「看護研究」 研究指導 三島ブロック訪問看護ステーション事例発表会 講師</p>
安田稔人	<p>日本整形外科学会整形外科専門医，スポーツ医 運動器リハビリテーション医 日本リウマチ学会リウマチ専門医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 日本足の外科学会理事 日本整形外科スポーツ医学会代議員 日本靴医学会評議員 中部日本整形外科災害外科学会評議員 関西臨床スポーツ医・科学研究会幹事 関西関節鏡・膝研究会幹事 近畿足の外科症例検討会世話人 American Academy of Orthopaedic Surgeons (AAOS) international member American Orthopaedic Foot and Ankle Society (AOFAS) international member Editorial Board Member of Journal of Orthopaedic Science 【講演】 <u>安田稔人</u>, 足関節鏡, 後足部内視鏡の基本手技と足関節インピンジメント症候群, 2020 年 10 月 7 日, Ankle Arthroscopy Webinar Series Part 1</p>

	<p>【座長】</p> <p>第 45 回日本足の外科学会学術集会, パネルディスカッション 3「新しい足底挿板を求めて—足底挿板の現場と未来—</p>
吉田久美子	<p>日本看護医療学会評議委員</p> <p>日本看護医療学会査読委員</p> <p>滋賀県彦根市要保護児童対策協議会 副会長 (2012 年～現在に至る)</p> <p>滋賀県近江八幡市要保護児童対策協議会 会長 (2018 年～現在に至る)</p> <p>滋賀県おうみはちまん健やか親子 21 計画推進委員会 委員長</p> <p>社団法人大阪府看護協会保健師職能委員 (2018 年～現在に至る)</p> <p>滋賀県彦根市健康推進課 保健師研修会 スーパーバイザー (2018 年度～現在に至る)</p> <p>2020 年度 彦根市要保護児童対策協議会代表者会議 2 回</p> <p>2020 年度 近江八幡市要保護児童対策協議会代表者会議 1 回</p>
瓜崎貴雄	<p>日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究発表会 評価 (査読) 委員</p> <p>大阪府看護協会 クリティカルケア認定看護師教育課程「患者および家族の心理・社会的アセスメント」 非常勤講師</p>
カルデナス 暁東	<p>市立柏原病院看護研究 講師 (2020.4～2021.2)</p> <p>留日中国人生命科学協会 理事</p> <p>ヤンセンファーマ株式会社 WEB コンテンツ「トモノワ」: 監修</p> <p>「乾癬患者のメイクアップについて」</p> <p>第 51 回日本看護学会看護管理学術集会慢性期看護抄録選考委員</p>
草野恵美子	<p>日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員</p> <p>日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員</p> <p>日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」査読委員</p> <p>第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会・6th Global Network of Public Health Nursing 企画委員</p> <p>若手による小児保健検討会準備委員会委員</p> <p>日本地域看護学会教育委員会委員</p> <p>中和保健所令和 2 年度第 1 回妊娠・出産・育児のための地域包括ケアシステムづくり保健所・市町村協働プロジェクト: モデル市町村合同会議, 講師, 「母子保健全体を見直す視点・方法・気になる事象から健康課題の見立て方」, 中和保健所 (2020 年 7 月 27 日)</p> <p>藍野大学, 「グループ支援・地域組織化活動・ソーシャルキャピタル」, 特別講師, (2020 年 6 月 15 日, 7 月 13 日)</p> <p>大阪市鶴見区保健福祉センター, 研究指導協力</p> <p>大阪府中央区保健福祉センター, 研究指導協力</p> <p>大阪市阿倍野区保健福祉センター, 研究指導協力</p> <p>奈良県中和保健所妊娠・出産・育児のための地域包括ケアシステムづくり保健所・市町村協働プロジェクト, アドバイザー</p>

久保田正和	高槻市介護認定審査会委員 糖尿病スキルアップセミナー世話人 京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師 はくほう会医療専門学校非常勤講師 たかつきサステナビリティ事業に関する委員会委員 認知症専門職人材育成プロジェクト委員会 高槻市地域包括ケア推進会議委員 日本老年看護学会査読委員 大阪医科大学看護研究雑誌査読委員
小林道太郎	臨床実践の現象学会 事務局, 編集委員 日本看護倫理学会 査読委員
寺口佐與子	一般社団法人 日本看護系大学協議会会員校 関西・近畿ブロック災害連携教員 日本移植・再生医療看護学会 会計理事 事務局 同 査読委員 第 16 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 企画委員 第 16 回日本移植・再生医療看護学会学術集会 企画委員 第 51 回日本看護学会学術集会 抄録選考委員 リンパ浮腫 Net 世話役
土肥美子	日本看護科学学会和文誌専任査読委員
仲下祐美子	大阪府開発審査会委員 大阪府看護協会府北支部推薦委員 大阪市開発審査会委員 大阪市介護認定審査会委員 大阪市・健診の受診勧奨を通じた地域コミュニティづくり推進事業受託法人選定委員 座長 日本看護研究学会臨時査読委員 大阪府看護協会府北支部研修会「DX 時代の新入職研修 (医療・介護) の進め方」, 研修担当者, 2021 年 2 月 20 日開催
山崎 歩	日本糖尿病教育・看護学会専任査読者 第 25 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会演題査読者
府川晃子	Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing peer reviewer
佐野かおり	日本運動器看護学会研究プロジェクト委員 第 20 回日本運動器看護学会学術集会企画委員
竹 明美	第 24 回日本母性看護学会企画委員 性と健康を考える女性専門家の会 近畿支部講演会 「視覚障がいのある女性の周産期ケア」講師, テーマ: 助産師として共有しておきたいこと ～研究を通じて改めて考えさせられました～, 2021.3.27 (大阪) ナーシングタッチケア研究会 定例会 講師, テーマ: 東洋医学はタッチング?, 2021.3.19 (Web)

二宮早苗	<p>看護理工学会 評議員, 広報委員</p> <p>看護理工学会「看護理工学会誌」 査読委員</p> <p>滋賀医科大学看護学科 「基礎看護技術演習Ⅲ」 非常勤講師</p>
樋上容子	<p>大阪大学大学院医学系研究科 招聘教員</p> <p>放送大学 非常勤講師</p> <p>Reviewer certificate of GERIATRICS & GERONTOLOGY INTERNATIONAL</p> <p>日本老年看護学会 日本老年看護学雑誌 査読委員</p> <p>The Japan Centre for Evidence Based Practice 委員</p>
大橋尚弘	<p>一般社団法人日本腎不全看護学会 CKD 委員会腎移植ケアガイド作成サブワー キングメンバー</p> <p>新型コロナウイルス感染対策としての訪問看護ステーションへのマスク寄付活動</p>
勝山あづさ	<p>第 16 回日本クリティカルケア看護学会 実行委員</p>
倉橋理香	<p>家族看護研究会の主催 定期開催運営 (2 カ月に 1 回)</p> <p>学士課程教育に関する研究会 定例会開催</p>
土井智生	<p>日本クリティカルケア看護学会, 第 16 回学術集会実行委員</p> <p>日本看護学会, 第 51 回学術集会査読委員</p>
山本暁生	<p>Health and Technology. Springer, 査読者</p> <p>学校法人摺河学園姫路ハーベスト医療福祉専門学校, 統計学, 非常勤講師</p> <p>神戸大学大学院保健学研究科, 研究員</p> <p>2020 年度 大阪市立大学教員免許状更新講習 「教育の最新事情に関する事 項」, 講師</p>

VI 地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	大阪医科大学附属病院形成外科外来でリンパ浮腫看護外来
池西悦子	大阪医療看護専門学校教育課程編成委員会委員
佐々木綾子	高槻地区周産期地域連携の会での活動（事務局） 近澤 幸, 佐々木綾子 (2020). 新生児のドライテクニックに使用する用具の開発. イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市, (Online)
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人 2020 年度ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会 講師「乳がん啓発教育に活用できる行動変容を促す理論」(2021. 1. 9) 2019 年度ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会 講師「乳がん患者のサポートのあり方について」(2021. 3. 14) 南江堂月刊誌「がん看護」アドバイザー
津田泰宏	看護学系漢方教育研究会 世話人
真継和子	在宅看護研究会 主催 大阪医科大学家族看護研究会 小児看護学領域と共催 倫理事例研究会（大阪医科大学大学院看護学研究科修士課程）アドバイザー
安田稔人	安田稔人, 日常診療における足の痛み, 2021 年 1 月 21 日, 医学の進歩シリーズ学術講演会, 大阪府医師会館（大阪市）
カルデナス 暁東	高槻市認知症予防講座 講師「カラーを楽しもう」, (2020.11.27) (2021.3.16)
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会協力会員 医工薬連環科学プロジェクト委員会委員
寺口佐與子	第 3 回 リンパ浮腫 Net 大阪地区会 世話役 (2020.8.23 Web 開催) 第 1 回 リンパ浮腫 Net 看護外来会議 世話役 (2021.1.30 Web 開催) 第 4 回 リンパ浮腫 Net 兵庫地区会 座長 (2021.3.27 Web 開催)
山崎 歩	大阪くるみの会運営委員
近澤 幸	高槻地区周産期地域連携の会
樋上容子	高槻市 認知症を理解し家族で支える会 実行委員
大橋尚弘	在宅看護研究会 共催
近澤 幸	近澤 幸, 佐々木綾子 (2020). 新生児のドライテクニックに使用する用具の開発. イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市, (Online)
山本暁生	発達支援モデル教室すまいる・ぽっとらっく. 2020 年 6 月 13 日 オンライン講演. 「誰かに言いたい, 聞きたい: 同じ悩みを持つ家族同士の支え合い」. 発達支援モデル教室すまいる・ぽっとらっく ボランティア, 2020 年 4 月～2021 年 3 月 神戸市総合児童センター療育指導事業 YOYO クラブ ボランティア, 2020 年 12 月

VII. その他

その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院形成外科外来でリンパ浮腫看護外来
佐々木綾子	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」運営 大阪医科大学大学院看護学研究科 母性看護学領域修了生の会「サクラの会」運営
宮島多映子	日本看護学教育評価機構看護学分野別評価 評価員基礎研修
安田稔人	整形外科（足の外科）専門外来（大阪医科大学附属病院）
カルデナス 暁東	大阪医科大学附属病院皮膚科外来 「メイクセラピー看護外来」従事
草野恵美子	公衆衛生看護技術開発研究会 世話人
寺口佐與子	大阪医科大学附属病院 リンパ浮腫看護外来従事
竹 明美	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」
近澤 幸	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」
大橋尚弘	高槻市 先見の会メンバー
柴田佳純	第 51 回日本看護学会看護管理学術集会慢性期看護抄録選考委員

編集後記

「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科年報 2020 年度」を無事に発刊することが出来ました。発刊におきましては、皆様のご尽力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。大阪医科大学看護学部が年報を発行して、10 年が経過いたします。大学院の活動も充実、発展して参りました。

この年報は、大阪医科大学看護学部・看護学研究科として、1 年間の大学と大学院運営の取り組みや教育・研究活動および地域や社会における様々な活動の内容を PDCA に沿って報告しています。この年報が、今後の活動や自己点検等に役立てていただければ幸いです。

最後に、年報作成にご協力いただきました教員を初め、関係者各位の皆様に深くお礼を申し上げます。

大阪医科大学看護学部 年報編集委員会

大阪医科大学看護学部 大阪医科大学大学院看護学研究科
2020 年度年報

発行日 令和 3 年 7 月 31 日
発 行 大阪医科大学看護学部 大阪医科大学大学院看護学研究科
〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6
編 集 看護学部 年報編集委員会
宮島多映子 草野恵美子 山崎 歩
樋上容子 赤崎英美
制 作 知人社

